



京阪神地区忘年会(12月6日)



東京凌泳会夏季総会（7月22日）

後列 (左より)	小原	武政	宮部	芝	前田	鈴木	浦野	呉竹
中列	山本	上村	日野	荒井	関山	黒田	林	阿部
前列	井川	小山	木村	草野	宮本	山口		



東京凌泳会忘年会（12月2日）

後列 (左より)	浦野	上村	呉竹	榑原	荒井	村田	丸山	森田	黒田	平井	岡沢	富中	関山	山本	山口	小原	前田
中列	山口		草野			木村			小山		宮本					横田	
前列	木内		山田			井上			鈴木		田淵			佐敷		武政	



- (松島) (上山) (北) (小笠原) (渡辺) (吉岡) (寺井) (宮下) (門) (原田) (藤本克) (藤川) (城) (下坂) (木村) (笠田)  
 (上村) (武田) (矢間) (中山) (青木) (高岡) (山田)  
 (東) (中畑) (安井) (長谷川)  
 (西島) (一越) (山口) (染谷) (富村) (高橋)  
 (西尾)

# 凌 泳

平成4年度 復刊第40号 「凌泳七十年史」刊行記念特集号

## 目 次

表紙題字 藤井正太郎先生

### 会長交代ご挨拶

凌泳会長辞任の弁 .....	前会長 小山賢之助	1
会長をお引受けして .....	新会長 吉野 栄	2
平成3年度 凌泳会総会並びに懇親会 .....		3
〃    月見の宴 .....		4
〃    初泳ぎ .....		4
山野元造氏の快挙 .....	編 集 部	6
真喜志好一氏 日本建築学会賞受賞 .....	昭41工 日野 康	7
橋本 力氏、高岡保宏氏 兵水連功労賞受賞 .....	編 集 部	7
石井義章氏 日水連有功賞受賞 .....	〃	8

### 寄 稿

私のタンク .....	昭21学 三宅 林	9
岐路に立つ旧三商大戦 .....	昭27学 石井 義章	10
〃 凌泳70年史 〃 発刊によせて .....	昭37管 岡田 重義	11
国体に参加して .....	昭49農 佐敷 定雄	11
追 悼 .....		13

### 特 集 「凌泳七十年史」の刊行を終えて

まえがき(新聞各紙の反響) .....	編集委員会	14
水魚の交わり .....	昭21学 三宅 林	17
多士済々 .....	昭27学 石井 義章	19
反 省 .....	昭30管 田淵 五郎	21
編集雑感 .....	昭30工 橋本 力	22
編集を終えて .....	昭30工 堂本 直正	24
教 訓 .....	昭34理 前田 修	26
編集について .....	昭56管 上田 剛弘	28

刊行事業収支決算報告 .....			30
刊行基金応募者ご芳名 .....			31
主な配布先、贈呈先 .....			33
支部便り			
関東支部 夏季総会 .....	昭59法	呉竹 正人	34
"    忘年会 .....	"	"	34
関西支部 忘年会 .....	昭53農	酒井 正人	35
会員からのお便り			
凌泳会総会案内状返信より .....			36
月見の宴案内返信状より .....			47
マスタース・コーナー			
'90年度世界十傑に3名入賞 .....	昭39管	武政 英幸	59
'91短水路大会 .....	"	"	59
ジャパンマスタース'91 .....	"	"	61
パンパシフィック大会 .....	"	"	62
現役部員寄稿			
「壁を越えよ」 .....	主将	藤本 克彦	63
考えて泳ぐ .....	競泳主任	中畑 寛之	64
We are 61 .....	水球主任	西島 淳一	64
部員の心得 .....	主務	富村 英三	65
卒部の辞 .....			66
現役部員紹介 .....			75
1991年度活動報告 .....			84
歴代10傑表 .....			106
凌泳会会則 .....			113
凌泳会会員名簿 .....			119
「商神」「応援歌」 .....			153
編集後記 .....			158



## 凌泳会長辞任の弁

(昭7学) 小山賢之助

凌泳七十年史出版については、同誌316頁のあとがきに簡単ながら編輯のいきさつが書いてあるが神戸高商一商大一国立総合大学の水泳部の歴史を「凌泳七十年史」と命名したのは編輯委員会の達見である。凌泳会第1号会員・白山源三郎氏は大正6年を以て神高商水泳部史を始めるべきだ、と言っておられたが、私は大正10年が適当であると思う。

年刊記録である戦前の旧凌泳誌3冊、28年以降復刊第39号までの39冊と、書き下ろしの新資料を巧みに取捨選択し、時代順に配列した手口は実に功妙であり、敬服の他はない。又、発行所の選択も適当で、表裏紙見返しには、そこはかかない芸術の香りがする。この点他校の水泳部史にはない優雅さがある。こんな美事な水泳部史は、ちょっと見当らないのではなかろうか。編輯委員の方、誠に御苦労様でした。厚く御礼申し上げます。

仄聞するところによると、出版費用の全額は四百ウン万円となったが、凌泳会員から募った金額を支払って余りがあり、「足りない時は不足を支払う」と発言されている人が2人か3人居られるという。実に有難いことである。

校友会運動部には部長、副部长があり、凌泳会には、会長、副会長、幹事長等の役員があるが、(269頁)その中で、昭和10年、凌泳会誕生と同時に会長となられ、爾後亡くなられた51年まで凌泳会会長として、41年の長い間御指導下さった会長・古林喜楽先生の御薫陶を私共は忘れてはならない。勇得のもとに弱卒なしというが、古林先生が41年に亘って育成された凌泳会には人材が集まり、ボランティア精神に富み、世話好きで、会のため働く人材が豊富になりつつあることが、七十年史作成の課程で認識された。古林先生の様に教授となり学長となる人はいないかも知れないが、幹事長となり会長となる様な人材は、いくらでも出てくるのではなかろうか、との考えに私は到達した。そこで私は先日、岡田幹事長あて辞表を提出した。幸い皆様の御了解が得られそうな雲行きとなってきたのは有難いことである。

会長でなくなっても、私は凌泳会のためにお役に立つ様努力するつもりである。会員の皆様、今後ともよろしく御願ひ致し度い。

(平成4年3月8日)

## 会長をお引受けして

(昭15学) 吉野 栄

1991年は、それこそ激動の年でした。我が凌泳会に於ても亦然りです。副会長を御受けして既に10年、念願の三商大総合優勝もやっと達成、これで小生の責務から解放されると喜んでた矢先、突然小山会長から辞職願が事務局に届きました。予而山口副会長共々会長人事の若返りを希望していたのですが、局面をスムーズに解決する為には不敢取、小生に後釜を引き受けて欲しいとの要請でした。人事若返りの後、石井義章君をと予而考えていたのですが、生憎腰関節手術の為入院するとの事、病には勝てず一応繋ぎ役として引受けた次第です。立地的に学校に近く、且つ時間的余裕といえ、そんなに沢山の適任は居らず、何の因果か……、こんな次第です。

一旦引受けたとなると、扨て凌泳会の存在理由は？ O Bの親睦会として発足したと承知しています。凌泳総会への出席で考えても、殆ど委員のみで会誌「凌泳」が唯一の連絡の絆(きづな)でしょう。会の運営についても、ここ数年会費の集まりが悪く、委員諸君を心配させています。然し、会費納入の状況が端的に凌泳会に対するO Bの反応ではないでしょうか。ここ10年間に会費は約2倍に、当初はびっくりする程の集金率が、現在は極度に低下しています。尻を叩いての、或はお願いでの集金政策は駄目だと思います。七十年史発行にしても、委員諸君の全て手弁当の並々ならぬ努力、且つ再度の御願により、やっと収支つぐなつた訳。委員の犠牲はこれ以上求められません。是非早急に対策を考えねばなりません。諸君の提案を待ちます。年令を考えればそう永くやれる訳ではなく、少なくとも問題だけは提記しておきます。

小山会長、本当に永らく御苦勞様でした。後輩達は一段団結、何とか難局を切り抜け、益々の発展に協力して呉れる事でしょう。冬季オリンピックは、若き力により立派な成果を挙げました。曾ての水上日本も宮崎・北村etcの若き力でした。凌泳会も早々に若返りを!!

若き日の夢は尊し その夢を

うつつとなして世は進みゆく (増田八風)

## 平成3年度 凌泳会総会並びに懇親会

### 〔総会〕

日 時 平成3年5月19日(日)

場 所 六甲台教官食堂

### 出席者

犬童 一男(特)	小山賢之助(昭7)	古賀 克己(昭11)	吉野 栄(昭15)
橋本 力(昭30)	富岡 道雄(昭31)	萩原 武(昭37)	岡田 重義(昭37)
丸山 昱也(昭40)	酒井 正人(昭53)	山本 隆(昭57)	金 一波(昭59)
原田久富美(昭62)	甲野 賢(平1)	守沖 敦(平1)	東 圭紀(平3)

現役水泳部一同

今年も遠路はるばる会長にご出席を頂き、例年の通り総会を開催しました。

会長のご挨拶があり、引き続いて議事に入りました。

### 議 事

#### I 水泳部

- イ. 平成2年度活動報告並びに会計報告
- ロ. 平成3年度活動予定並びに予算報告
- ハ. 新年度役員紹介並びに部員自己紹介

#### II 凌泳会

- イ. 平成2年度経過報告並びに会計報告
- ロ. 平成3年度行事予定並びに予算決議
- ハ. 凌泳会役員改選

### 〔懇親会〕

直前に場所の変更などもありましたが、「エクラン」にて滞りなく行われ、楽しい一時を過ごしました。

## 月 見 の 宴

本年度の月見の宴は、関ボロ Jr が 9/14～16 に行われたために、例年の 1 週間遅れの 9/22 に行われた。さすがに 9 月の終わりともなると、空は晴れてはいるが水は 1 週間前とは比べものにならない程冷たくなっていた。

そのような状況のもと、午前には競泳の記録会が行われた。プールの水が冷たく、よいタイムが出せなくて苦しんでいる現役部員とはうらはらに、OB の方々の快泳が目立ち、終始驚かされるばかりであった。午後には水球の OB 現役対抗戦が行われ、関ボロ Jr. で優勝をとげて勢いにのっている現役チームが OB チームに快勝した。

夜のコンパでは、現役部員（及び約 1 名の OB の方）の自己紹介や、3 人の OB の方々の結婚報告などで盛り上がり、コンパ後の落としあいもいつになくはげしく、終わってみれば全員（一部の OB の方々も含む）ずぶぬれになっていた。

秋の風が身にしみ入るのを肌で感じながら、今年のシーズンが終わった、ということを実感した。

（上山記）

### 出席者

古賀 克己 (昭11)	吉野 栄 (昭15)	石井 義章 (昭27)	萩原 武 (昭37)
岡田 重義 (昭37)	酒井 正人 (昭53)	藤田 弥門 (昭57)	金 一波 (昭59)
吉岡 宏之 (昭59)	南谷 昌宏 (昭60)	中川 善雄 (昭62)	原田久富美 (昭62)
吉岡 成人 (昭63)	近藤 直明 (昭63)	加地 恵 (昭63)	奥村 直樹 (平1)
守沖 敦 (平1)	川上 景子 (平1)	岡崎 恵之 (平2)	小笠原朝隆 (平2)
羽瀬 智文 (平2)	林 均 (平2)	古谷 拓裕 (平3)	枝沢百合子 (平2)
井上 達明 (平3)	当麻 尚正 (平3)	東 圭紀 (平3)	

## 初 泳 ぎ

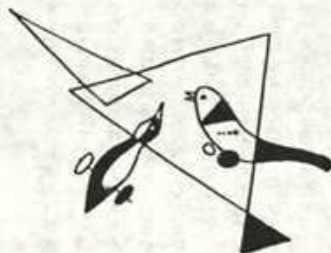
平成 3 年度の初泳ぎが、例年通り兵庫県立健康センターのプールで行われた。年が明けて最初の顔合わせということもあり、集合場所のロビーでは、積もる話で盛り上がっていた。まず参加された OB の方々と共に 1 時間ほど練習し、記録会が行われた。

その後、会議室に於て会合が開かれ、現役OBが今年度の抱負などを話し合った。シーズン突入に向けて、正月ボケしていた水泳に対する心構えが改めて引き締まる気持ちになった。

(山田記)

出席者

石井 義章 (昭27)	岡澤 幹夫 (昭29)	松田 司郎 (昭32)	萩原 武 (昭37)
富岡 洋三 (昭57)	藤田 弥門 (昭57)	金 一波 (昭59)	吉田不二彦 (昭60)
川原田 貢 (昭61)	原田久富美 (昭62)	奥村 直樹 (平1)	岡崎 憲之 (平2)
古谷 拓裕 (平3)	井上 達晃 (平3)	東 圭紀 (平3)	井上 聡 (平4)
加藤 有道 (平4)	高岡英一郎 (平4)	染谷 光裕 (平4)	



# 山野元造氏の快挙

編集部

平成2年度号「凌泳誌」でもご紹介した、山野元造氏（大10高＝凌泳第1期生）が関西棋院にポンと1億円を寄付、棋界振興と国際普及のために山野基金を設立された旨の記事が「囲碁関西」新年号に大きく報じられた。

山野先輩が囲碁がお好きな事は先の「凌泳七十年史」にも書かれているが、1億円とは又桁違いの額である。我々の先輩がこのように社会に貢献された事は誇らしい限り。凌泳諸兄の中には囲碁をたしなまれる方も多く、間接的に恩恵を被られる方もあろうと思う。ここにご披露する次第。

尚、山野先輩は加古川市内、名刹「鶴林寺」近くのご令息宅に同居、本年94歳のご高齢ながら、毎日JR加古川駅近くの囲碁クラブに通い、同好の士と楽しまれている由。益々のご健勝をお祈りしたい。

「囲碁関西」平成4年 新年号より

## 山野さん「善界へ、一億円」の一粒の種 「山野基金（囲碁振興基金）」を設立

加古川市に住む囲碁愛好家の山野元造さんが、囲碁の振興と国際普及のために、一億円と善盤一式を関西棋院に寄付。その贈呈式が十月十八日、



加古川プラザホテルで行なわれた。

関西棋院からは橋本宇太郎理事長、川村和恵理事、堀田陽三理事が出席。御子息の技術者、山野聖二さんに付きそわれた九十四歳の山野さんから金一億円（平成三年度は五千万円、平成七年度に五千万円）と善盤一式の目録が橋本理事長に手渡され、橋本理事長からは山野さんに七段免状が贈呈された。

山野さんは旧満州（中国東北部）で活躍され、今年、九十四歳を迎えられた囲碁ファン。その誕生日に御一家が集まった時、善界のために一億円の寄付をしたいと思いつき、御子息の聖二さんが棋院置碁道場で東野弘昭九段らの教えを受けてい

た関係から関西棋院への寄付を思い立たれた。その後、橋本理事長の二男の仁さんが交渉、手続きのために何度も山野さんと会合を重ね、この贈呈式の運びとなった。

贈呈式を終えた

九十四歳の山野さんは「このお金は関西棋院の棋士が強くなるためにどのような形で使っていたとしてもいい。数年後にタイトルを取って下さい、などと心の狭い、など心ない注文などはつけません。いつの日

か花が開いて、世

界のリーダーとしての日本の囲碁界であって欲しい、と願うばかりです。私がこの世にいれば皇子の聖二が見とれます。もちろん、このようなチツポケな金で事が成るとは思いませんが、私のような者でも一億円寄付したということ、それが刺激というか呼び水になって、さらに多くの囲碁ファンが日本の善界のために援助されるでしょう。それを来水く期待しています。これは一枚の種です」と壮大なあいさつ。

それを受けて橋本理事長は「関西棋院に対し自分の御寄付を受け感謝にたえません。山野さんのお心を体し、関西棋院の棋士たちの棋力を向上させると共に、人柄、識見共にすぐれた棋士たちを育てよう努力して山野さんの御厚意にむくいたいと思います」と謝辞を述べた。

(下)

(タラフ頁、「棋文往来」118ページに関連記事)

## 真喜志好一氏 日本建築学会賞受賞

(昭41工) 日野 康

凌泳会員のご慶事についてご連絡致します。既にご承知の方々も多いと思いますが、凌泳会員である真喜志好一氏（'68年神戸大学工学部大学院修了）が、1991年度の建築学会作品賞を受賞されました。

氏は院修了後、大学助手を経て後、郷里である沖縄県を中心に活躍されておりました。

年間に建設される建築物の数、約2百万件以上。その中であって沖縄という注目されにくい地方にあつて受賞されたことに一層の重みを感じます。

学会作品賞は、建築を志した者が一度は夢みる斯界最高の賞であります。専ら体力を売物にしてあると思われがちだった凌泳会員から受賞者が出たこと誠に慶ばしいことと、ご連絡する次第です。

氏の益々のご活躍を祈念致します。

### 〈編集部註〉

受賞の内容並びにインタビュー記事が、NIKKEI ARCHITECTUR '91.6.10号でA4判5頁に亘り詳しく紹介され、そのコピーも頂きましたが、紙数の関係上割愛しました。

(石井)

## 橋本 力、高岡保宏 両氏 兵水連功労章受賞

平成3年4月6日、兵庫県水泳連盟の創立60周年記念祝賀会が神戸クラブに於いて開催されました。席上、凌泳会より橋本 力（昭30）、高岡保宏（昭37）両氏に兵水連創立60周年記念功老賞が授与されました。両氏が永年に亘り水泳界に尽くされた功績をたたえ、お慶び申し上げたいと存じます。

尚、申し遅れましたが、高岡氏は平成2年度にも兵庫県水泳連盟有功賞を受賞されております。遅ればせながらここにご報告し、併せてお慶び申し上げます。

又、同祝賀会に宮本伯夫氏（昭9）が兵水連会友として招待を受け出席されておりましたので、散会后席をKUCに移し、先輩を囲み凌泳会有志数名と共に楽しい歓談の一時を持ちました。

出席者

宮本 伯夫(昭9)    石井 義章(昭27)    田淵 五郎(昭30)    橋本 力(昭30)  
富岡 道雄(昭31)    岡見 晴児(昭33)    前田 修(昭34)    萩原 武(昭37)  
高岡 保宏(昭37)

以上9名

石井義章氏 日水連有功章受賞

平成3年度日本水泳連盟有功賞が兵水連の推薦により石井義章氏(昭27)に授与されました。



〔寄稿〕

## 私のタンク

(昭21学) 三宅 林

タンクにもいろいろあるが、ここで言う〈タンク〉とは即ち私の〈短軀〉のことである。「凌泳七十年史」にはく私の偏平足〉というタイトルで、私がマスターズ水泳大会で挙げてきた戦績に偏平足が多少貢献しているのではないかと書いた。今回は、その短軀を水泳に如何に駆使して頑張っているかについて述べたい。

陸上の徒競走が体をはは垂直の姿勢で、ある地点より他の地点へどれだけ少ない時間で移動させるかを競うのに対し、水泳は体を水上に腹這いか仰向けの姿勢で、ある一定の距離を移動させ、その時間の速さを競うものである。

言いたいところは、競泳において体長の長短がいかに影響するかということである。仮にスタート台から先ず体をそのまま前進方向へ倒したとすると、それだけで既に体長の差何十種かの差を生じているのである。しかも爪立ちをし、さらに手を思い切り伸ばした最大の長さで効いてくるのであるから大変である。数字で物を言わないと実感が出ないのであえて申すならば、私の身長は一五六種であり、これで爪立ちをし手を一杯に伸ばしてみても約二〇〇種である。比較対象として私の長男を同じ状態で測ってみたら、彼は二二五種であった。彼との競争においては、明らかにスタート地点で泳がずして既に二五種の差がつくことになる。

全国大会でのタイムは、ゴールへのタッチによって自動的に計測され、しかも一秒以下は百分の一即ち二桁で示される。目測では掴めないタッチの差も明確に表れるから、この数種の差は非常に大きいと言える。さらにターンがあれば、その差はその回数だけ増加することになる。私はタンクのハンディを背負いながら今日まで全国大会(六五才~六九才クラスの平泳ぎ)で上位を占めてきたが、これは前回に述べた偏平足、筋力、ポンプ(心臓)さらに練習による私なりの泳法等の賜物と言えよう。

父母に貰いながら申訳ない言い方ではあるが、私の資質の中には、やや優れたものもあれば、かなり劣ったものもある。現在までの生活のなかで〈劣〉を〈優〉によってカバーしたり、あるいは習練などによって改善し総合的成果を挙げてきたものも少なくない。昨年は年初に肩の筋を切ったため二カ月半も練習を休み、過去四年間キープしてきたタイムが一〇〇米で約三秒程悪くなり、全国選手権では銅二個と、フロックで銀一個を貰った。この退化は中断のせい、歳のせい、分からぬが、恐らくこれからは落ちて行くことであろう。

いずれにせよ水泳にマスターズ組織があるお陰で、この歳になっても未だに競技に参加出来、いろいろとご託を並べておれるのは誠に幸せなことであるが、この雨蛙何時まで濡れていられることやら。なにかと次第に衰えを感じているこの頃ではあるが、もしかして、ことによってはこれからでも上達出来るものがあるかもしれぬなどと思いつつ、仕事から離れたこの頃、今からでも遅くはないぞとばかりに余熱の捌け口を探しているところである。

## 岐路に立つ旧三商大戦

(昭27学) 石井義章

昨年(平成2年)若手OBのK君より、伝統ある旧三商大戦、大阪市大戦が今やマイナーな競技会になり下がり、やめる訳にも行かず、形だけの消化試合ないしは親善お祭試合と化しつつある。何とかしないと早晩消え去るのではないかとの警告があった。

近年競技会の数が増えた上、全国規模の大会にも出場するようになると、どうしてもそちらにウエイトが傾く。更に学制改革より42年も経過し、大学の組織も大きく変わったので、何を今更三商大、と言う気持ちも判らぬではない。

今年は両競技会とも神戸が当番だったので六甲台プールへ様子を見に行った。

7月21日の大阪戦は、格別気になるほどのこともなく行われた。ただ求援のOBが少なく、若手は何人居たようだが(私にはOBか現役か区別がつかない)、古参組は吉野副会長を始め岡田、萩原両君(共に昭37)程度、大阪からは岩橋恒泳会会長始め近藤、田中、両先輩のほか若干の若手OBも求援されていた。

少々奇異に感じたのは、プログラムを開いてみて、競技役員欄に大会名誉会長として小山凌泳会長の名前があるものの、大会会長以下実行委員長、審判長迄すべて現役学生の名前が並んでいる事である。

来てくれもしないOBの名を競技役員欄に連ねてみてもしかたない、と言う事だろうが、この辺にも大会運営上の問題があるような気がする。

問題の三商大戦は8月4日、同じく六甲台プールで開催された。先ずプログラムを開いて、あれあれと目を見張った。出場選手欄に研ナオコ、パンチ、ザボン、果ては油ギトントンと信じられない名前が並んでいる。最初はオープン戦の選手でふざけているかと思ったが、よくよく見ると正式種目の代表選手である。尤もこの手の名前で登録しているのは一橋だけで、大阪、神戸はまともな名前であった。それかあらぬかレースの結果は全種目の5位、6位を見事に一橋がキープした。

競技終了後閉会の挨拶を命じられたので、一通りの挨拶の後この事に触れてみた。即ち、数ある大学の中でもこの3校は特に縁が深く、この競技会は伝統ある物として目下編纂中の「凌泳七十年史」でも大阪市大戦と共にその戦績譜に3位迄の氏名とタイムを掲載する事にした。今日のプログラムが公式記録として残るのであれば、将来また年史を作るような場合困る事になる。競技会を通じて親睦を深めるのは喜ばしい事だが、レースはあくまでも真剣にやって頂きたい。

閉会式も終わり帰りかけた私に一橋の選手が駆け寄ってきて、「ついお祭気分になって、はめをは

ずし申し訳なかった」と挨拶した。

私は一人一橋を責めようとは思わない。いつの間にかこんな雰囲気にしたのはお互いの責任だし、神戸も或いは東京に行った時は、似たような事をしてきたのかも知れない。又、プールサイドに足を運ばないOBにも責任の一端はある。

今後これら伝統ある競技会が健全にいつまでも受け継がれて行くよう、OBと現役が手を携えて努力しなければならない事を、ひしひしと感じた次第である。

## 「凌泳70年史」発刊によせて

幹事長（昭37管） 岡田重義

今年は神戸大学創立90年にあたりますが、凌泳会では、会誌「凌泳」が復刊40号となるうえ、編集委員の方々のご苦勞の結晶である「凌泳70年史」が発刊され、伝統に重みを増しました。

水泳部の創設・発展に努められた諸先輩方、一緒にプール生活を過ごした同輩諸兄、誇らしい伝統を引き継ぎ続けてくれている後輩諸君への想い出が、ズシリと手応えのある立派な本になったことが意義深く思えてなりません。編集会議に何回か出席し、皆さんが忙しい中にありながら、それぞれの役割をスケジュールに沿って進められる様子を拜見し、部史の編纂が大変な仕事であることを思い知りました。改めて7年間にわたる編集委員の皆さんのご苦勞に対し、謝意を表したく思います。

## 国体に参加して

（昭49農） 佐敷定雄

「すばらしき君の記録にわが拍手」をスローガンに第46回国民体育大会夏季大会は、豊かにとり環る日本海と、白き女神の座の白山に育てられた芸術文化と、やさしい人情のふるさと石川県において「石川国体」をテーマに開催されました。今回、千葉県代表として出場する機会を得まして、日本のトップスイマーとの交流の中において、練習方法・練習態度・選手個々人の性格などを興味深く勉強できたことは、私にとって「すばらしい体験」になりました。

平成3年9月6日（金）に羽田空港に集合したのは、千葉県選手団の水泳の男子選手全員でした。知っている顔と言えば、競泳の監督と、同年令で国体予選会に出場した2～3人位でした。空港で監督に紹介されたのは、サングラスをかけた若者でしたが、それが鈴木大地君でした。彼は成年一部の

200mリレーの泳者として参加するのですが、石川国体の目玉選手として、オリンピックでの金メダル獲得以来の公式大会出場ということで、羽田空港でも、小松空港でも多数の新聞社のカメラマンに囲まれていました。千葉県成年男子の選手には、野口智博君（400m自由形日本記録保持者）、宇佐見政勝君（50m自由形日本記録保持者）などの有名選手が居り、総勢13名でした。石川県の国体局も大変な気の使いようで、我々10名程は、練習会場も他県とは別の場所を提供してくれ、会場への入退場にもワゴンタクシーをチャーターしてくれました。おかげで私の一日は、彼らと朝から晩まで一緒に、朝食・練習・昼寝・夕食・練習・風呂・会合 with 酒と、6日間も先輩・後輩の関係で合宿しているようでした。大地君、野口君、宇佐見君などが他の選手と比べてどこが違うかを、酒を飲み、話しながら感じたことは、性格はきわめて明るく騒々しいが、話を聞く時とか、レースに出る前の練習時には、信じられないほど真剣な顔つきになるということです。相当な集中力の持ち主のように感じました。

今回の競泳会場になったのは、1990年に神大の現役諸君が全国国公立大会で泳いだ松任総合運動公園水泳プールでした。練習の際に宇佐見君が、「佐敷さんは何の種目に出場するの?」と聞くので「成年二部50mバタフライ一本なので、のんびりやるワ」と言ったところ、彼が次のような事を言いました。長距離や100mの種目と50mの競技の大きな違いは、スタートと水からの浮き上がりでリズムが狂うと、50mは取りかえしのつかないことになる。つまり、100mならターンしてから何とか自分の泳ぎのリズムを取り戻せることができるが、50mは絶対できない。だから、スタートと浮き上がりを、特に練習では入念にチェックすればよい、と言ってくれました。更に、今回の飛び込み台の傾斜角度が、大地君や野口君に言わせても急角度のようでしたので、私も台に乗った所、気を抜いていたら下に落ちる感じがしました。練習では、バッチリ彼らのアドバイスをもらっていたので、すばらしいスタートをすることができました。本プールで練習していない人はレースの際、フライングや落ち込みetc. 失敗した人が多かったようです。練習方法も、日本大学の林君や順天堂大学の百目木君<sup>どめき</sup>などは、50m・100mのハードダッシュを繰り返していたし、野口君は長距離泳者らしく、自分のレース（今回は100m自由形）前でさえアップで200m位泳いでおりました。千葉県選手団のユニホームが盗難にあっていたので、たまたま私の予選レースが終わっていた時、野口君がupする間ユニホームを見ておいて下さいと言うので、練習プールで彼の泳ぎを見ていたのですが、私の一日分の練習量以上やっても、なかなか泳ぎを止めないのには驚きました。プールから上がるやすぐにレースに出て行ったのには更に驚かされました。

私のレース結果は以下のようでした。9月9日（月）に50mバタフライの予選レースがあり、29秒51で2位で予選通過。翌10日（火）の決勝レースでは、29秒36で2位でした。表彰台に上がる時、凌泳会のTシャツを着て出ようとしたのですが、千葉県選手団のカメラマンにその上からユニホームを

着るように言われ、あのカップのマークは残念ながら表には出ませんでした。現役時代、全国国公立大会に個人参加し、優勝して表彰台上がったことがありますが、団体出場ではなかったので、喜びも半減の感があったのを思い出します。今回のように団体の中の一員として参加し、チームメートから盛大な応援や拍手をもらった時の喜びは、もう最高の気持ちになりました。卒業以来、大した刺激もなく日々を過ごしている者にとって一瞬ではあるが、極度の緊張を経験するのも良かろうと思います。これからも無理をせずに、生涯水泳を楽しみたいと思っております。

### 追悼

平成3年10月20日、九州の溝口卓郎氏(大13)が亡くなりました。ここ数年、マスターズで90歳以上の世界記録を作るのだと張り切って練習しておられたのに、また今回の凌泳七十年史には、水泳部草創期の貴重なお話もお書き頂いたのに、その年史が後数日でお手元に届くというときに亡くなられるとは。年史編纂に関係した一人として、もう少し早く完成させておればと、悔やまれてなりません。

その後を追うように、広島の大内義仁氏(昭14)が10月31日に亡くなりました。凌泳会広島支部長として永年に亘り会の発展をお見守り頂きました。年史はご生前にお手元に届いたはずですが、その頃は既に病篤だったとのこと、お読み頂けたかどうか心残りです。

そのほか、本間孝之助氏(昭10)が3月2日に、若手の吉田芳郎氏(旧姓大曲：昭50)が平成4年1月24日に亡くなりました。

又、七十年史発送等からんで、松村秀雄氏(昭3)が平成元年9月に、天野博行氏(昭28)が昭和59年12月にお亡くなりになっていた事が判明いたしました。

以上、会員のご訃報を報告し、皆様と共にご冥福をお祈りしたいと思います。

合掌

(編集部 石井)

## ★★★ 特 集 ★★★

### 凌泳七十年史の刊行を終えて

ま え が き

編集委員会

平成元年1月8日(日)恒例の初泳が兵庫県立スポーツセンターで開催されました。前日陛下がおかくれになり、平成と年号の改まった初日でもありました。

懇親のミーティングも終わりお開きの後、出席のOBに声をかけ近くの喫茶店に集まって貰いました。ここで凌泳七十年史の企画を打ち明け、編集の協力をお願いしました。そのメンバーは、佐藤一夫(昭30)、橋本力(昭30)、堂本直正(昭30)、前田修(昭37)の諸氏で、皆主旨を理解し快く承諾してくれ、ここに編集準備委員会が発足しました。その後、佐藤氏はニューヨーク転勤のため抜けましたが、新たに三宅林(昭21)、田淵五郎(昭30)、上田剛弘(昭56)の3氏にも参画頂き、石井義章(昭27)を加えて合計7名で今回の「凌泳七十年史」を編集しました。

2年10カ月の歳月と、34回に及ぶ編集委員会を経て平成3年10月ついに完成、皆様のお手元に届ける事が出来ました。

ここでは編集に携わった一人一人に、その間の体験、苦心、感想、等を語って頂き、編集の記録をとどめると共に、凌泳の歴史にたいする理解を深めて頂きたく、さらには将来百年史でも企画される時の参考にもなればと、この特集号を編纂しました次第です。

申し遅れましたが、刊行資金の募金につきましては多数の会員より格別のご芳志を頂き有難うございました。別項収支報告書の通り、当初目論見以上の資金が集まりました。誌上を借りて厚く御礼申し上げます。



# 神戸大学水泳部OB会が

# 「凌泳七十年史」を発行

凌泳七十年史



神戸大学水泳部OB会が「凌泳七十年史」を刊行した。大正十年（一九二一）に水泳部が誕生して以来、戦争など時代の荒波を乗り越えてきたOBたちが鮮烈な思い出を寄稿しているほか、残っていた当時の手記、大会の記録などで構成しており、部史に止まらず興味深い読み物になっている。

## 企画から11年目に

「七十年史」は、約三百五十人のOBで構成する凌泳会（小山賢之助会長）が発行したもので、A4判、五部構成の三百十七頁、部数は五百部。水泳部結成は神戸高商時代の明治三十五年、これまでも部長が年々少なくなっている。健在の山野元造さん（現）

（註）部結成は明治35年

## 初期の様子を中心に 鮮烈な思い出や記録など

加古川市北在家の談話などまでまとめているが、練習するプールがなく、ふんどうの部員たちは神戸市内の灌漑（かんがい）用農池や海岸で泳いだという。創部前年には、大阪府三

島郡の旧制茨木中、小、中、高校を放浪した。プールで、第一回 編集委員会代表の石井義昭さん（現大阪府東淀川区向洋町）は「押し寄せる年定期が閉かれて、初期の時代の原稿、最初の対校水泳競、寄稿を中心に編集した。企業大会とされてお、昭和八年、編集には三年か、勝負は第二、昭和から平成にかけては次回の百年史に譲りたい」と話している。

（註） 明治35年は誤り

正しくは大正9年

地域ニュース

(28)

## 神戸読者

最近なニュースは支局・通信部へ

## 青春のいきなり回顧

## 「凌泳七十年史」を出版

泳いだ泣いた 旧神戸商大水泳部OB

旧神戸商業大(現神戸大)学生水泳選手権大会では優勝。

水泳部OB会の「凌泳(りょうえい)会」(会員三百四十人)が「凌泳七十年史」を出版した。大正十年に水泳部が発足して以来、神戸経済大、神戸大水泳部として歩んだ足跡を二年十か月かけて編集、貴重な神戸のスポーツ史になっている。

編集委員会代表の石井義章さん(六三)は「でき上がったみると大学水泳を通じてみなそれぞれの時代世相がうかがえる」と話している。

〈水泳部前史〉によると、同商業大にプールが出来たのは水泳部発足三年後の大正十三年。水泳部ができるまでは、大学近くの通称青谷の池に桶ぐいを三本立てて板を張ったスタート台を作って練習、海岸で泳ぐなどして力をつけ、創部への道を開いた。

巻末には凌泳会年譜のほか、旧三商大戦から現在の近畿国立大体育大会の記録までを克明にたどっている。

一八五七―一六七四(一)へ。



青春の思い出がいっぱい詰まった「凌泳七十年史」

大正十二年、第一回関西

## 「水魚の交わり」

(昭21学) 三宅 林

「凌泳七十年史」の刊行事業に当たり、計らずも委員の1人に選ばれ、主に資金担当を引受けることになった。当初、その規模について資金と労力などの問題からいろいろと議論が行われたが、幹部の方々にもご相談し、歴史を誇るわが凌泳会として出来るだけしっかりしたものにしようということで、300頁、500部、予算350万円の大綱のもとに進めることになった。それから約3年がかかりでほぼ計画どおりに達成し、委員一同胸を撫で下ろすことが出来た。これ一重に凌泳会会員・準会員各位の絶大なるご協力と関係方々の暖かいご支援の賜物である。

昭和22年に卒業後、しばらくは凌泳会のお世話をさせていただいたこともあり、その後は仕事や勤務の関係で縁が遠のいていた私であるが、ある春の総会で小山会長や石井義章氏にマスターズ水泳を勧められ、凌泳会の精鋭と共に昭和62年から参加することになり、これを通じ所謂「水魚の交わり」が再開された。ところが凌泳会史編纂の資金担当となるや一時的ではあるが、さらに「金魚の交わり」にまで関わることになった。

平成元年11月に刊行趣意書と共に資金の拠出をお願いした。これにより平成3年8月までにご協力頂いた方は110名、その金額は利息を含め220万円、大体固まってきた費用見積が360万円で、その時点では140万円不足の状態であった。7月発行の予定が遅れ10月末にやっと現物を発送した時、全員に上記中間報告を行うと共に、未納の会員には再度のお願いをさせてもらい、これによって129名の方から拠金を戴いた。さらに同年11月には寄金募集を本年1月末を以て締め切る旨を未納者にお伝えしたところ、さらに振込みがあり、別途ご報告の通り約20万円の余剰を以て締括ることが出来た。しつこいぞとのご意見も一部にはあったようであるが、ご無礼の段は平にお許しいただきたい。数名の方からは、「足りないときには言って来い」との有難い救いのお言葉もあったが、意義ある年史の刊行だけに、凌泳会の出来るだけ多くの会員でこの御輿を担ぐべきであるとの信念を貫いた。但し、会長始め不足を気にして戴いた数名の方々の大口寄金が収支に大きく貢献したことは勿論である。

当初からの方針で七十年史は創部より旧制時代までを主体にして編集したので、若い会員にはやや興味が薄く、中には辞退もあったが、その中で丁寧な辞退の手紙にほぼ一口に近い寄金を添えてあったのには「凌泳会安泰なり」の感を強く抱いた。3年に亘り手弁当で熱心に行った34回もの打合わせにも甲斐があったと言える。

凌泳会史に対する皆さんの関心の在り方にはいろいろあり、そこにはそれなりの様々な背景が察せ

られ興味深かった。待ち構えたようにすぐさま協力いただいた人、忙しくてそれどころでない人、生来ののんびり屋、面倒くさがり屋、存在は確かでも音無しの構えの人などである。この関係で、振込用紙・葉書・手紙・電話などと、いろいろの手段を通して声を聞いたり、中には通信欄に「ご苦労さん」との労いの一言を添えた筆跡に接したりして、今までに知らなかった会員を改めて数多く知ることになったのは、まさに望外の余得と言えよう。残念ながら貴重なご投稿を戴きながら遂に読んで戴けなかった溝口卓郎先輩および大内義仁先輩には、年史を御霊前に捧げる結果となったのは、誠に痛恨の極みであり、心よりご冥福をお祈りする。

皆さんとの永かった〈金魚の交わり〉は遂に終わり、招かれざるラブレターにも筆を擱く時がやってきた。今はただただ感謝の気持と、委員の皆さんと共にこの大事業の一端を担ぎ終えた安堵に浸っている。次の年史がこれを基盤として今後の学生諸君の努力と会員の暖かい支援により、さらに内容の豊富なものになることを願って止まない。その中味の如何は学生諸君が真に水泳部生活を充実させ十分に満喫し、生涯忘れ得ぬ思い出、即ち心のご郷を育むことにあると思う。将来の九十年史、百年史の出来は決して難しいことではなかろう。生まれた川の水の匂いに集まる〈水魚の交わり〉を何時までも大事に思う多くの人達の掛け声が在るかぎり。



## 多 士 濟 々

(昭27学) 石 井 義 章

前書きにも書きましたが編集委員になって貰ったのは、初泳ぎに集まった偶然の人たちでした。勿論編集の経験者など一人もいません。編集準備委員会と名付けてはみたものの、どこから手を付けたらいいのか見当もつきませんでした。

ものの本によれば、「とにかく印刷所を決めて相談に乗って貰うこと」とありますが、それも五里霧中。思案に促していると、橋本君の岳父・朽木氏が印刷業の経験があり、今も某誌の編集に携わっておられるということです。渡りに船と早速頼み込み、そのうえ印刷所まで紹介して頂きました。以後完成まで、編集顧問の形で編集の手順、各工程の所要時間、校正の仕方、割付のノウハウ等、微に入り細に亘って懇切丁寧に指導頂きました。

資金担当は三宅さんをお願いしました。本企画の成否を握る重要な部門です。言いにくい催促状を何度も出して貰い、おかげで当初予定以上の資金が集まりました。そのうえ支払までの資金を高利に回して金利収入を稼いで頂きました。

堂本君は合宿その他特殊行事の記録収集に当たってもらいました。その間、転職等一身上にも大きな変化があったのに、忙しい時間をさいて大阪から編集委員会に駆けつけてくれました。

前田君は投稿受付の窓口に加えて、古い資料の掘出しに大いに貢献してくれました。幸い大学の教職にいる関係で図書館、資料室等に顔が利き、大正期の卒業アルバム、高商時代の校友会報等、得難い文献を探し出してくれました。彼はまた水泳部の練習場所の考証に異常なまでの情熱を傾け、敏馬の浜から青谷の池の所在地の探策、戦後の接収時に借りまわった市内各所のプールを足を棒にして取材してくれました。

上田君は一番若いだけに仕事も忙しく、どうしても編集委員会に出られない日があり、恐縮しながら、それでも割り当てられた記録の整理をこなしてくれました。そのうえ刊行後、奥さんのお父さんの縁で、読売新聞に記事掲載のきっかけを作ってくれ、これが呼び水となって神戸新聞にも大きく紹介記事が載りました。

最後になりましたが、田淵君は東京にあって在京会員との諸連絡に当たり原稿の催促、募金の督促等、一人奮闘してくれました。

私は言い出し兵衛の責任から、全体の取り纏め並びに印刷所その他外部との連絡窓口を担当しました。冒頭でも書きました通り、えらい事を始めた、無謀だったかと後悔した時期もありましたが、趣

意書を発送し既に募金も入り始めた今、取りやめるわけにはいきません。もはや前進あるのみと、がむしゃらに突き進みました。幸い熱心な編集委員の皆さんと、会員諸賢のご協力に支えられて無事刊行にこぎつける事が出来ました。そのうえ多数の方々より立派な本が出来た、予想以上の出来映えだとおほめ頂くと、お世辞半分と判っていても、やってよかったと、一時の心配や苦労を忘れて喜んでおります。

このほか校正、割付等は、全員で手分けしてやりました。古い文献は縦書きを横書きに直し、漢数字は洋数字に、用語は現代仮名遣いに直しましたが、当時の雰囲気を残すためそのままにしたところもあります。その限度と統一が難しいところでした。

割付も初めて経験しました。1頁の字数通りに升目の入った割付台紙に、棒打ちされた校正刷りを切り貼りし、写真をはめ込んでいくのです。大変手間と根気のいる仕事です。後で聞いた話ですが、これら編集割付の作業をすべて業者に頼むと、印刷製本代と同じだけの費用がいるそうです。つまり330万円に相当する作業を編集委員会がやった事になります。しかも34回の編集委員会は、会場使用料こそ経費で落としましたが、飲み食い一切、茶菓子まで手弁当でした。これら編集委員の皆さんの時間と労力の奉仕は、若き日の水泳に対する情熱と、凌泳会に対する愛情以外の何物でもないと痛感しました。

最後にただ一つ心残りなのは、一部の会員にご賛同頂けなかった事です。返本されてきたのは十数冊でしたが、挽金もなく返本もなく、再三の依頼にも梨の礫と言う方が相当数ありました。中には現役時代主要メンバーとして活躍していた方もあり理解に苦しみます。

逆に感激したのは、資金不足のようだからと追加ご送金頂いたり、多額の献金を申し出て頂いた方があった事です。中には本は返すが心ばかりの協力を、と送金頂いた方もありました。いちいちお名前はあげませんが本当に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

とにかく多数の会員の総力によってこの事業が無事完結し、ここにそのご報告が出来ます事は無上の喜びです。有難うございました。



## 反 省

(昭30管) 田 淵 五 郎

編集委員会には1回しか出席せず、大したお手伝いも出来なかったのに、編集委員の末席に置いて頂いて恐縮しました。

この度七十年史を編集・刊行できたのは、ひとえに諸先輩方の情熱・御意向を受けて、私以外の編集委員の皆様が長年企画し、結束し、英知を傾けられた努力の賜物と存じます。

私自身の執筆原稿だけでも悪戦苦闘し難航する所を、委員の皆様にお励まされ、貴重なアドバイスを頂き、大いに助かりました。その一方、もっと膨大な資料の山に取り組み、或いは年史の欠落部分を探し求めて居られた委員会に、報いるものが少なかったことを恥じて居ります。

私の世代に近い執筆者各位の感想を聞いても、「記憶は当てにならぬもの」であり、何らかの記録の有るのと無いのでは大違いです。一番良いのは写真であり、20年・30年ぶりに見る印象は文章以上に鮮烈です。

次に大会記録、練習日誌、合宿記録の類も貴重であり、観戦記とか感想が書き添えてあれば理想的でしょう。

問題は、それらの資料がいつ迄も保存され、或いは引継がれる方が少なく、年と共に散逸する方が多いことです。それだけに、今回七十年史の機会に山野大先輩以下の諸先輩に、凌泳の揺籃期、黎明期の記録を頂くことが出来たのは何よりと思います。我々戦後派の知らぬルーツをひもといて感動した次第です。

それにしても、毎年発行の伝統ある「凌泳」の威力は絶大です。平素の「凌泳」の積み重ねがあればこそ、この度の年史発行に漕ぎつけられたと言っても過言ではないでしょう。

少しでも多くの凌泳会員が、少しでも良いから折に触れ稿を寄せ合い、伝統の積み重ねに努める事が肝要と思います。



## 編集雑感

(昭30工) 橋本 力

### (1) 六甲台プールの写真撮影のこと

昭和12年当時の完成間もない六甲台プールの貴重な写真が見つかり、それと比べるために、50数年を経た現在のプールを写して来いと石井先輩の要請で1990年10月20日、新しく購入したミノルタα7700iを持って六甲台へ向かいました。

比較のためには、どうしても北側の土手から撮影したいので苦心しましたが、樹木が大きく茂りすぎて、ファインダーの中の像は、どう見ても山の中の溜池にしか見えません。やむをえずポンプ室の屋根の上からのアングルにしましたが、あいにく逆光となり苦労したわけです。

しかし、70年史の中で唯一のカラー写真として、しかも1頁目に取り上げていただき光栄に思っております。

### (2) 三商大戦、大阪市大戦の記録収集

記録の収集では、多くの人にたいへんお世話になりました。その中のひとりが当時4年生部員の井上聡君です。彼の家が私宅から歩いて2～3分のところでしたので、六甲台プールの部室に保管していた古いプログラムを全部持ってきてもらいました。

また、大阪市大水泳部OBの猿橋哲夫君（御影高校出身）からは、市大OB会の機関誌「恒泳」の全巻を送っていただきました。あらためてお礼申し上げます。

「凌泳」も「恒泳」も記録の頁には自校の選手のデータだけしか記載されていないため、1、2、3位が誰なのか不明のことが多いのです。これからは、少なくとも三商大戦と大阪市大戦の記録だけは、1、2、3位の選手名とタイムをぜひ記載してほしいと思います。

情報量が加速度的に増加する現代においては、それらの保存方法が問題になってきます。これを機会にOB会の中に「記録情報センター（仮称）」を設置して、各種データの散逸防止の必要性が委員会でも論議されました。

### (3) 編集委員会と先輩後輩

会議がいつも和やかな雰囲気の中で進んだというわけではありませんでした。文章表現や語句の使い方に造詣の深いMさんと、元原稿のままを尊重しようとするI先輩の間では、しばしば意見の食い違いが見られました。そういう場合、私みたいな凡人は、すぐに口を挟んでその対立をあおってしまいがちなのですが、企業の中で酸いも甘いも噛み分けたM先輩の采配ぶりは見事なもので

した。双方の身になって耳を傾け、その都度さわやかな結論にもっていかれました。

あるときは、M先輩と他の全委員の間で意見が完全に分かれたことがありました。何時間もそのことで各自が口々に意見を述べたのち、M先輩が断を下されました。そこがやはり運動部の先輩後輩です。正直言って、あとに何のわだかまりも残らないのです。すばらしい編集委員会の人間関係でした。この中で70年史は編集されたのです。

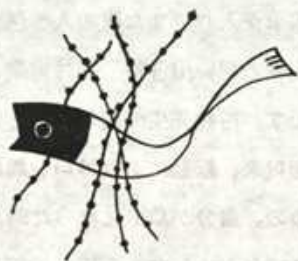
#### (4) 光琳社のこと

編集の仕事のことで私がいちばんお役に立てたのは、年史の印刷所として義父の仕事の関係から京都の光琳社を紹介したことかも知れません。

日展をはじめ芸術関係のカタログや美術年鑑の制作などでは、高度な写真製版、印刷、製本などのノウハウをもった会社としてよく知られております。

光琳社との技術的な折衝は、すべて石井先輩がなされたのですが、先輩の編集センスのすばらしさには、ベテランの義父も舌を巻いていたほどです。

少し贅沢すぎるかなと思いましたが、年史の内容から見ても、これくらい立派な装丁にしてよかったと、多くの方が言って下さったので大変うれしく思っております。



## 編集を終えて

(昭30工) 堂本直正

平成元年1月8日(前日の昭和64年1月7日に昭和天皇が亡くなられました)の初泳ぎ会の後、出席したOB生で編集委員会が結成されました。この初泳ぎ会にぜひ出席しろと事前に厳命を受けたのは、私を編集委員会へ引きずり込む石井先輩の目論見があったと悟りました次第です。

爾来2年10カ月かかって昨平成3年10月に無事刊行できました。その間に編集委員会は34回開かれその都度プラン・ドウ・チェックを繰返し、少しずつ着実に前進し構築されていきました。私は欠席も多く、有能でもなく、一番役立たずの委員だったと自省しております。他の皆さんは、ずいぶんがんばってくれました。三宅林さんのねばり強い募金呼びかけと寄付金の管理。石井さんの緻密で細心の企画とリーダーシップ。佐藤一夫兄(昭30法)は残念ながらスタート直後にニューヨークへ転勤となり、2年後に帰国してきましたので、あまり腕をふるってもらうことが出来ませんでした。橋本力兄は編集アシスタントの朽木さんとの連絡その他、特に競技会記録の編集・校正という、地味だけれどミスの許されない完全を求められる仕事を受け持ってくれました。東京在の田淵五郎兄は東京で原稿依頼、募金活動等に励んでくれました。前田修さんは資料集め、古い先輩への問合せ、インタビュー、現地調査等に大変なエネルギーを投入して、意欲的に大活躍してくれました。上田剛弘さんは勤務先の激務に悩まされながら、寡黙の内に受け持ち仕事をてきぱきと遂行されておりました。

編集委員会が進行するにつれ、同期の故・今井彰さんがなつかしく憶い出され、京都の家を訪れました。これは昨年「凌泳」に投稿しました拙文「亡き友を偲んで」にまとめております。又、その後日談としましては、昨年11月10日に前出の佐藤兄、橋本兄と共に完成した「凌泳七十年史」を今井家の仏壇の前に供えて参りました。

自宅の机を前にして、深夜1人で「グググッワハワハ」と大笑いをした事がありました。編集期間の中ほどの頃に、原稿読み、原稿直しの仕事をやりました。宅急便でドカッと到着した生原稿を自宅で読み、朱筆を入れ、また次の人へ送りつける作業をどんどんやるのです。「凌泳七十年史」の209ページ「古稀の思い出」特 古林喜楽と、次の「50メートル平泳 古林選手対田口選手」田口信教、の投稿文です。古林先生の面目躍如としたヤンチャ振りに大笑いをしたことでした。

私は卒業以来、転勤により神戸を離れ地方都市での在住が永かったので、在学中は先輩にお世話になったものの、自分がOBになった時点では、部へも現役へも何のお返しも出来ずに歳月が過ぎたといつも恥じておりました。今回の編集委員の末席を汚して、少しはお返しのできたかと喜んでおりま

す。又、3年弱ずっと顔を合せてきた編集委員の皆さんには、ずいぶんと教えられる所がありました。すばらしい感性を持った人達に囲まれて本当に楽しいことでした。皆さんから少しずつ頂いた「良いもの」が私の肩にふうわりと乗っかり、私を暖かく包み込んでくれております。

卒業以来35年半勤務した会社を平成2年12月に辞し、新しい会社へ再勤務をしました。その移籍過程の一時期に心中悩むところもいささかは有りました。しかし、これもビジネス社会とは別世界の「本の出版」という目的の為に集まり、議論をし、計画を練る、という作業があったことが、落ち込んでいた私には「元気薬」にもなってくれていたと思います。編集委員をやらせていただいたことは、お役に立ったのではなく、逆に私にたくさんの有形無形の有難いものがいただけた様です。

私も来年は還暦という年代になりました。ついこの間、六甲台のプールでカルキをやけくそに投げ込んだ水を呑みながらロングを引いていたと思うのですが、歳月のたつことの早いのに驚きます。

次の歌を手本として、当分元気でがんばりたく思いおります昨今です。

さりさりとセロリ噛みつつとる朝餉  
わが晩節の清くありたし

東京都 中谷義人

(朝日歌壇 平成2年4月21日)



## 教 訓

(昭34理) 前 田 修

「人付き合いが下手」には自信がある。明治生まれの母は、「女に教育などいらぬ」との祖父の無理解に反抗して、勘当同然東京へ家出し、和裁により学費をつくりながら共立女専（現共立女子大学）を卒業した。当時は「女の苦学生」などなかったそうである。このような母だったから、私の拳動のすべてがじれったかったのだろう、年小の頃から「ブキッコ」と言われながら育った。

凌泳七十年史編集委員会で原稿を頂く窓口役に役割分担が決まった。私には無理なご注文だと再々辞退したが、許してもらえなかった。「この私が要領よくやれるはずがないが、多少の失敗は覚悟して、誠実が最善の策」と考えた。「人様に原稿を書いて頂くには、その3倍量の依頼文を書かなければならない」と聞いていたから、勤務先から帰宅後は毎日2・3通の手紙を書いた。

ご気分の優れない先輩諸氏や社会の中核として多忙な同輩、将来設計に頭が一杯の若き卒業生に随分無理強いしたに相違ない。一段落して冷静になった今、この文を書きながら後悔している。それでも、凌泳会員諸氏の暖かいお心が、この不器用者を何とか終着駅に滑り込ませて下さった。

山野元造、溝口卓郎、川北正喜の大先輩には、神戸高商水泳部発足の頃泳がれた敏馬（みるめ）の浜や青谷の池のお話を伸った。都市開発の波に埋没し、場所さえはっきりしなくなった「青谷の池遺跡（ただし著者独断の用語）」を再発見したときには、トロイを発掘したシュリーマンのような気分になった。地元の神戸市灘区の皆さんには随分お世話になった。

こんなこともあった。古きよき昔話ゆえ、私の理解を越えるご投稿に対して質問させて頂いた。木村芳雄、宮本伯夫、田淵五郎先輩は「読者に理解してもらえないのは、自分の筆力がないからだ」と書き改めて下さった。「今度はわかるでしょう」と言われたときは、顔から火が出るほど恥ずかしく恐縮もしたが、その寛容さには大きな教訓を得た。

数多くの凌泳先輩・諸兄から励ましのお言葉を頂戴した。紙面に限りがあるので、個別にお名前を挙げてお礼申し上げられないのが残念である。個人的にお世話になった人、あるいは「人生」をご教示頂いた人にも、凌泳に連がる縁だから、この場で感謝させて頂こう。

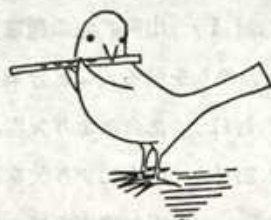
しかし、悲しい事もあった。「凌泳七十年史」の「プール物語」を書いているときである。「上筒井のプール建設」（凌泳昭48）の執筆者である高森安夫先輩宅に何度も電話を掛けた。呼出音は鳴るが、受話器は取り上げられなかった。それから1週間程経って、高森先輩の悲報を受けた。一度も拝顔・拝聴しないままに……。不謹慎な表現かも知れないが、タッチの差でゴールドメダルを取り損な

った気がした。

同じ様なことが二度、三度あった。現神戸大学長の鈴木正裕先生のご尊父は、凌泳会員の鈴木不雄大先輩である。製本されてきた「凌泳七十年史」を、平成3年の10月23日（水）届けに上がった。お忙しい学長がわざわざお会い下さったまでは幸運だった。会話が進むうち、石井義章編集委員が、「最近も、高商水泳部創設のころの傑物が亡くなられて……」、「妙なことを言われる……」と思っただが、まさか学長さんの前で根掘り葉掘り聞く訳にもいかず、その後は勤務に戻った。気になりながらそれから約1月、石井先輩が入院され、退院された後に、「10月20日に溝口卓郎先輩が物故され、七十年史は残念ながら生前に読んで貰えなかった」と聞いた。その丁度20日に私は「神戸大学百年史紀要」へ投稿する新しい原稿を書き終えていた。文中には溝口先輩の業績が書いてあった。「ご冥福を祈り、この文を捧げる」と追記しなければならなくなった。

溝口卓郎先輩からは「青谷の池」に関するお手紙を度々頂戴した。電話も掛けた。その間、3回もお住まいの九州中津の極く近くまで旅行しながら、私の時間的都合で拝顔できなかった。どうにもならない私の「付き合い下手」が「思い立ったが吉日」の諺を生かし得なかった。悔しさと寂しさのみが残った。

（平成4年2月2日脱稿）



## 編集について

(昭56管) 上田剛弘

私が凌泳七十年史編集委員会に参加したのは、平成元年6月14日、第5回の編集委員会からである。他の編集委員は、三宅林先輩(昭21学)、石井義章先輩(昭27学)、堂本直正先輩(昭30T)、橋本力先輩(昭21T)、前田修先輩(昭27S)である。諸先輩方は実に熱心だった。一方私はといえば、委員の末席に存在したことは事実だが、それ以外の何者でもなかった。今回この原稿を書く機会をいただくにあたり、諸先輩方へのお詫びの意味を込めて、「凌泳七十年史」がいかにか多くの方々の汗と時間を費やしたかを伝えることが、編集委員としての私の仕事であると思い立った次第である。以下私の微かな記憶にある編集委員会を簡潔に綴ってみた。

〈第1回から第4回までは委員として不参加のため省略〉

第4回委員会(H1.4.13) 岡田先輩が仕事の都合上、以後出席できないとのこと。代理として私の名があがる。会終了後、早速石井先輩より打診を受ける。その後他の委員の方にどんなご迷惑をかけるかも考えず、承諾する。ここにそもそも私の認識の甘さがあった。

第5回(H1.6.15) 初の出席。資金計画、原稿収集計画等が順次決まる。凌泳の発行時に会員に協力を呼び掛けることに決定。

第6回(H1.7.19) 出席。役割分担が決まる。私の職務は、①新卒OBから原稿を集めること、②現役寄稿を募ること、③過去の戦績を調べることとなる。「編集入門」を読むよう本を預かるが、一度もひもとくことなく終わる。

第7回(H1.8.18) 都合により欠席。

第8回(H1.9.27) 都合により欠席。

第9回(H1.10.19) 出席。刊行趣意書、募金目録見書等の案の検討。過去の主将全員に寄稿依頼をすることに決定。私も原稿を用意しなければならないことになる。ウーン。

第10回(H1.11.1) 出席。先の趣意書等の発送業務。KUCのテーブル所狭しと資料を広げ、テーブルを切る人、のりを貼る人など分業をし、閉店時間ぎりぎりに終了。

第11回(H2.1.11) 都合により欠席。募金、原稿収集状況の中間報告が行われた模様。

第12回(H2.2.15) 都合により欠席。過去の戦績資料収集の内、旧三商大と対市大戦は橋本先輩が担当と決まる。これも欠席率の高さのなせる技か。

第13回(H2.3.10) 都合により欠席。東京支部委員の田淵五郎先輩(昭30B)から東京の状況報告。

割付作業の手順説明。次回専門業者から講習することが決定。

講習会（H 2.4.17）都合により欠席。光琳社より講師を迎え、割付作業の具体的指導を受ける。

第14回（H 2.4.17）出欠不明。

第15回（H 2.6.16）出席。但し、詳細記憶なし。

第16回（H 2.6.13）都合により欠席。今回から会場が勤労会館に変わる。KUCはレストランであり、会議には不適とのことにより三宅先輩が近辺の会場を探された模様。市の施設でありながら、何のお手伝いもできなかったとは。トホホ。

第17回（H 2.7.9）都合により欠席。特別寄稿の依頼。

第18回（H 2.8.22）都合により欠席。

第19回（H 2.9.7）出席。8月14日現在、応募総数101名、収入金額3,132,030円。未応募者に呼び掛けたが、反応はなし。再度方策を考える必要がある。

第20回（H 2.9.27）都合により欠席。

第21回（H 2.10.19）出席。

第22回（H 2.11.15）出席？

第23回（H 2.12.12）都合により欠席。

〈過去の戦績資料整理（H 3.1.14）〉橋本先輩宅にて。仕事の後、高丸のお宅に深夜までお邪魔することとなる。奥さんに作っていただいたうどんがおいしかった。

第24回（H 2.12.25）欠席。

第25回（H 3.1.17）出席。

第26回（H 3.2.6）都合により欠席。

〈過去の戦績資料整理（H 3.2.10）〉石井先輩宅にて。六甲アイランドのご自宅に朝からお邪魔する。大正時代からの戦績をたどる。昼食まで用意していただく。3時頃までかかるが、大体のアウトラインは出来上がる。

第27回（H 3.2.21）欠席。

第28回（H 3.3.6）出席。

第29回（H 3.4.10）欠席。

第30回〈割付研修会（H 3.4.25）〉兼松神戸支店にて。都合により欠席。

第31回（H 3.5.7）兼松神戸支店にて。出席。棒打原稿の校正。会場に向かう地下鉄の中で原稿と睨めっこし、なんとかセーフ。

第32回（H 3.5.28）出席。本のレイアウトが出来上がる。発送文の最終検討。まだ資金的には十分集まったとはいえない。しかし、この本を送れば失念していた方もきっと送っていただけるだろう

という楽観論が大勢を占める。

第33回（H 3.9.8）石井先輩宅にて。ゲラ刷り最終校正。もう何度も同じ原稿を読み返し、もういいだろうと思いつつも、間違い発見。嬉しくもあり、悲しくもあり。

第34回（H 3.9.18）出席。発刊までの最終の会。

〈凌泳七十年史完成（H 3.10）〉

〈反省会（H 4.1.25）〉須磨湖寿荘にて。都合により欠席。

以上の経過を経て凌泳七十年史は完成した。私の記憶が貧弱なため、経過というには余りに寂しい内容となったが、これも私の不徳のいたすところとご容赦いただきたい。ただ、今回の七十年史の発行を契機として100年史の編集を心待ちにするのは私だけだろうか。

最後に、このような私に対して親しくお付き合いいただきました石井先輩をはじめ、三宅、橋本、前田、堂本、岡田諸先輩方には心よりお礼申し上げますとともに、今後益々のご多幸とご発展を折念して結びとさせていただきます。

### 凌泳七十年史刊行事業収支報告書

（平成4年2月26日 現在）

凌泳七十年史編集委員会

#### I 収入

1. 寄金収入	正会員	3,685,980	259名
	準会員	40,000	4名
	特別祝金	55,000	5名
2. 受取利息		286,666	
	計	4,067,646	

#### II 支出

1. 印刷・製本代	3,350,261
2. 発送費諸掛	213,000
3. 通信費	128,458
4. 入金払込手数料	20,109
5. 打合せ部屋代	35,300
6. 事務用品費	15,529
7. 雑費	63,587
	計 3,826,244

#### III 収支残高

241,402

# 凌泳七十年史刊行基金応募者ご芳名

平成4年2月29日

卒年区分

ご芳名 (敬称略、順不同)

～昭19 山野 元造、川北 正喜、三井榮三郎、木村 芳雄、北条 貞夫、小山賢之助  
 山田 常雄、高島重次郎、板野亀八郎、池谷 俊一、古賀 克己、小池 三郎  
 大野 整、伊藤 英二、太田 正元、大西 真博、吉野 栄、前田 寿  
 平井 洋、岡本 慧夫、岡本 忠男、富中 暁、古川富貴男、宮本 伯夫  
 山口 宗樹、草野 嘉一、中村 市治、大内 義仁、井上 清、岩沢 悦二  
 尾上 信三、瀧野 公介、荻野 茂希、森 芳夫、湯山 正三、守田 昌弘  
 神原 正、君塚 英男、足達 英彦、木村京一郎、山村 宮男、植木 実就  
 石川 七郎、溝口 卓郎 (44名) 1,207,490円

昭20～昭29 井川 俊夫、山内 利男、山崎 健吉、三宅 林、小西 信次、中崎日出男  
 石井 義章、中井 三郎、浜川 広海、今井 政一、関山 道雄、小原 祥男  
 岡 庄一郎、山本 幸雄、小川 直、稲垣 信夫、岡沢 幹夫、太田 正典  
 武内信一郎、北野 誠良、今枝 一、西岡 良宏、煎塚 昌宏、石井 喬  
 浅野 博嗣、前原 俊夫、吉村 武徳、大西 繁、中平 放、山越 重義  
 佐脇 鷹平、遠山 節朗、中川 正敏、徳岡 登 (34名) 480,000円

昭30～昭39 松田 司朗、北村 敏、柴川 泰介、前田 修、黒田 英雄、井上 隆史  
 萩見 武、竹元 忠彬、浅間 啓介、武政 英幸、山本忠比古、滝沢 章三  
 柳本 正雄、富岡 道雄、石本 茂樹、林 莊八郎、野田 浩志、岡見 晴児  
 山田 貴彦、前田 宗雄、奥野 吉矩、谷 和郎、岡田 重義、田淵 五郎  
 榊原 修造、溝口 汪、佐藤 一夫、堂本 直正、橋本 力、村田 邦夫  
 高岡 保宏、米田 啓祐、太田 斉、岡村 司、前田 弘義、安茂 弘  
 平岡 昭朗、村岡 英樹、丸山 卓也、北村 義彦、宇賀 史郎、鈴木 正弥  
 阿部 雅、酒井 孝栄、辻村 亮介、藤岡 治男、堤 莊祐、鈴木 剛弘  
 河村 雍彦、上村 久治、山口 仁郎、永野 一彦、原 謙三、山本 哲弘  
 高橋 請周、増井 幸蔵、窪田 信雄、荒井 荒之、小郷 譲 (59名) 730,000円

昭40~昭49 山口 幸郎、日野 康、宮部 高博、由佐 禎男、阿部 洋三、井上与志男  
井上 史朗、以西 吉一、岩切 博、大橋 進、佐敷 定雄、長谷川 健  
樋口 周平、中畑 勝明、前田 和秀、丸山 昱也、玉置 明、木下 雅浩  
真喜志好一、木村多加緒、植西 勝、手島 忠之、木内 資雄、久保佑四郎  
得丸 哲士、印南 修三、岡本 優、横田 興二、菊田 修三、藤井 元洋  
吉江 哲郎、石原 紘三、芳川 雄二、前田 信雄、米田 章  
(35名) 411,000円

昭50~昭59 瓜生誠二郎、田淵 耕、平石 康、大林 良和、星合 正子、慈幸 弘樹  
桑本 万里、上田 剛弘、亀井 尚之、嶋田 陽子、金 一波、山本 徹  
杉野 馨、久保田勝己、吳竹 正人、酒井 正人、後藤 信人、富岡 洋三  
小笠原陽子、平野 輝雄、谷水 利行、紫垣 和男、浦本 幸二、阿部 誠次  
田中 俊哉、吉田 芳郎、中西 康之、館谷 影司、野田 叔子、川本 典子  
村田 邦夫、酒井 潤、太田 雅彦、佐藤 弘之、土井 裕二、酒井 康司  
芝 暢彦、吉岡 宏之、白子 靖則、山本 隆、杉山 和弘、土井 和幸  
竹内 啓子、伊藤 良一、米田 章、長谷川美智子、小林 正文、石本日和子  
長崎 真人、木下 修一、山野 和則、藤森 一男、森鼻 隆夫、丸末 一之  
高城 俊介、杉山玄彦 (55名) 540,000円

昭60~平3 浦野 敏明、井口 恵理、加地 恵、竹本 和広、川原田 貢、羽瀬 智文  
三好 岳、田中 眞司、川島えみこ、古谷 拓裕、当麻 尚正、黒田 茂  
近藤 直明、浜田 昌己、林 均、松本 典子、坂田 純孝、守冲 敦  
中塚 泰弘、戸井 浩子、黒川 良介、吉田不二彦、土井 健治、島崎 昌彦  
安井 啓史、枝沢百合子、李 武士、岡崎 憲之、中川 善雄、原田久富美  
浅川 明弘、坂田 亮 (32名) 317,490円

準 会 員 藤本 栄美、藤田 弥門、西山 朋子、高元 智子  
(4名) 40,000円

特別会員 伊藤 謙平(一橋大OB)、藤井 正雄(藤井正太郎先生ご遺族)  
(以下凌霜会員) 乾 利雄、松本 浩和、本間 信之  
(5名) 55,000円

(計268名) 3,780,980円

註 5万円以上の献金者は下記の通り (敬称略)

山野 元造、小山賢之助、草野 嘉一、古賀 克己、守田 昌弘

## 凌泳七十年史主要配布先

平成4年2月29日現在

凌泳会関係	特別会員（犬童部長、岸氏、植中氏、田中氏）	4
	正会員、準会員（光琳社より直送）	336
神戸大学水泳部関係	水泳部	1
	主将、主務、凌泳編集（平成3年度及び4年度）	6
神戸大学関係	神戸大学（図書館-3、学生課-1）	4
	鈴木正裕学長、新野幸次郎前学長、李 東彦先生	3
	凌霜会、東京凌霜クラブ、大阪凌霜クラブ、神戸KUC	4
	ボート部OB会	1
一橋大学関係	神戸大学応援団総部及び同OB会	2
	水泳部、川口又男氏、渡辺文蔵氏、清川正二氏、伊藤謙平氏 佐藤孝直氏	6
大阪市立大学関係	水泳部、前田信夫氏、近藤梯治氏、岩橋 襄氏	4
近隣諸大学	関学、甲南、神戸商科、神戸商船、神戸外語、京都、大阪 立命館	8
	関係諸学校	松蔭女子学院大学及び同高等部、尊合高校、神戸高校 長田高校、茨木高校、魚崎小学校
日本水泳連盟	日本水泳連盟	1
	古橋会長、菊池副会長、藤田前会長、他7名	10
	学生委員会関西支部	1
兵庫県水泳連盟	水泳連盟	1
	松尾会長、堀副会長、吹田名誉会長	3
日本マスターズ水泳協会	北村会長、岡田専務理事、丹羽事務局長	3
京都 踏水会		1
図書館等	国立国会図書館、兵庫県立図書館、神戸市立図書館（3） 神戸市文書館、灘区役所、尼崎市立地域研究資料館	8
	マスコミ関係	神戸新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社
御遺族	藤井正太郎先生、岡田英定先生、古林喜楽先生、村上秀造氏	4
その他	宮沢俊正氏（河童のカット作者）	1
	田口信教氏（ミュンヘン五輪優勝者）	1
	広瀬茂子氏（エクラン）	1
	鳥 由（現役部員たまり場）	1
以下省略		

[ 支部だより ]

## 東京凌泳会 夏季総会

(昭59法) 呉竹正人

平成3年7月22日 於：東京凌霜クラブ

出席者

木村 芳雄 (大15)	小山賢之助 (昭7)	草野 嘉一 (昭7)	宮本 伯夫 (昭9)
山口 宗樹 (昭16)	井川 俊夫 (昭20)	山本 幸雄 (昭27)	関山 道雄 (昭28)
小原 祥男 (昭29)	黒田 英雄 (昭35)	上村 久治 (昭35)	荒井 康之 (昭38)
林 荘八郎 (昭38)	武政 英幸 (昭39)	鈴木 正弥 (昭39)	前田 洋三 (昭40)
日野 康 (昭41)	宮部 高博 (昭42)	阿部 洋三 (昭42)	芝 暢彦 (昭56)
幹事=呉竹 正人 (昭59)	浦野 敏明 (昭60)		以上22名

パン・パシフィック・マスターズの10日後に行なわれました総会は、いつものように22名もの盛会となり、木村先輩のゴルフ、小山会長の水泳の話と進みました。日野先輩が同期の真喜志先輩の日本建築学会賞の授賞を披露され、初参加の芝先輩（日本貿易振興会出向中）からも近況の御報告を頂きました。若手（太田（S61）、三好（S62）、吉岡（S63）、村田（H2）、小笠原（H2））もなんとか終了後に元気な姿を見せ、幹事と2次会となりました。

## 東京凌泳会 忘年会

(昭59法) 呉竹正人

平成3年12月2日 於：東京ファミリー・クラブ

出席者

木村 芳雄 (大15)	小山賢之助 (昭7)	草野 嘉一 (昭7)	宮本 伯夫 (昭9)
山口 宗樹 (昭16)	平井 洋 (昭16)	森 芳夫 (昭16)	富中 暁 (昭18)
山本 幸雄 (昭27)	関山 道雄 (昭28)	小原 祥男 (昭29)	岡沢 幹夫 (昭29)
田淵 五郎 (昭30)	榊原 修造 (昭33)	村田 邦夫 (昭30)	黒田 英雄 (昭35)
上村 久治 (昭35)	山田 貴彦 (昭37)	丸山 卓也 (昭38)	荒井 康之 (昭38)
武政 英幸 (昭39)	鈴木 正弥 (昭39)	前田 和秀 (昭40)	横田 興二 (昭40)

山口 幸郎(昭41) 木内 資雄(昭44) 井上与志男(昭47) 佐敷 定雄(昭49)  
幹事=奥竹 正人(昭59) 浦野 敏明(昭60) 以上30名

山口先輩の御尽力により、いつもの凌霜クラブと同じビル内で行なうことができました。熱心な呼び掛けを行なって頂いたこともあり、参加者は30名に達しました。

恒例の賑やかな近況報告の後、本部から連絡のあった事項に対し、田淵先輩を凌泳会副会長として推すこと、関東支部長については山口先輩にもう一年お願ひし、副支部長に田淵先輩を加えることが報告され、全員の拍手がありました。正式な決定は六甲での総会になりますが、小山会長、山口副会長、本当にごくろうさまでした。また、国体で準優勝という快挙を成し遂げられた佐敷先輩より、みやげ話を頂きました。

## 京阪神地区 忘年会

(昭53農) 酒井 正 人

平成3年12月6日 於：マンダリンパレス(神戸三宮)

案内状を書きながら、多くとも20人ぐらいたと予想していた出席者が、なんとふたを開けると、現役代表3名も加えて、総勢29名に膨れ上がっていた。その中には、当日急きょ都合をつけてこられた方もおられ、予約していた部屋が狭くて座りきれず、隣室の客が帰るや否や仕切りの襖を取り外して一卓設けるといふ一幕もあった。

参加者の世代も各層にわたり、一通りの挨拶が終わった頃にはもう酔いも回り、各人各様の昔話に余念がない。おっつけ富岡先輩からいただいたウイスキーにも手が付けられ、世代を越えての水泳談義は留まるどころを知らない。

最後は凌泳会70年記念の全国大会を成功させようと意気も上がり、盛会のうちに会は終わった。

出席者 (幹事=酒井正人)

古賀 克己(昭11)	吉野 栄(昭15)	岡本 忠男(昭17)	三宅 林(昭21)
佐藤 一夫(昭30)	堂本 直正(昭30)	橋本 力(昭30)	富岡 道雄(昭31)
山口 仁郎(昭35)	萩原 武(昭37)	岡田 重義(昭37)	平岡 昭郎(昭38)
安茂 弘(昭39)	丸山 昱也(昭40)	平石 康(昭53)	酒井 正人(昭53)
大野 智恵(昭54)	上田 剛弘(昭56)	山本 隆(昭57)	亀井 尚之(昭57)
藤田 弥門(昭57)	金 一波(昭59)	杉野 誓(昭58)	藤本 栄美(昭59)
甲野 賢(平1)	加地 恵(昭63)		以上26名

# 会員からのお便り

凌泳総会案内状返信より



溝口 卓郎 (大13高)

気管支にポリプ発生。2月に治療の為入院50日間。脚力衰え、医師からも水泳は見合わせる様勧告あり。マスターズ福岡大会にも出泳不可能の状態です。記録挑戦も夢に終り相で残念です。

三井 栄三郎 (大14高)

先日清川氏と会席したので健康法を御聞きした。「夜11時寝、朝5時起床。日本ラジオ体操会長として毎朝体操出席後朝食。朝食はバナナ、ヨーグルト、牛乳、フレークを8種類ほど mixer にかけて、大量のサラダと共に平らげる。昼食、晩食も沢山食べる。毎日400m宛4回1600m泳ぐ。酒、タバコは今は止めた。毎日沢山歩く」尚、水の圧力が巨大であるから泳がなくても水の中につかるだけで全身の指圧効果大と、poolの利用法を活かされた。私達夫婦も近所の駒場野公園の新しいpoolへ、せっせとつかりに行きたいと思って居ります。祈御盛会。

木村 芳雄 (大15高)

最近ゴルフ三昧です。満87才ですが、私より年長のゴルファーは日本中で2人だけとなりました。もう2~3年頑張れば多分、日本一の長寿プレーヤーとなるでしょう。体調に留意して、いつまでもプレーを続けたいと思っています。

香山 孝一 (昭6高)

平成2年12月31日真夜中に自動車にはねられて、3年1月1日から入院。右足に2本、右肩に2枚金属を入れ、先月末やっと退院しましたが、未だ松葉杖でよろよろ歩きの状態です。御参会の皆さんに宜しく御伝へ下さい。字もやっと書けるようになりました。では。

北条 貞夫 (昭6高)

御出席の皆様のご健康を祈ります。又、御盛会をも併せて念願致しております。

植木 實就 (昭6高)

御案内有難うございました。残念ながら欠席致します。老生、眼と膝の治療のため通院を続けている始末です。諸兄弟の御健康と当日の御盛会をお祈り致します。

草野 嘉一 (昭7学)

お蔭様で元気しております。1月にはニューカレドニアに行って来ました。6月にはベネ  
ルックス三国を訪問する予定です。(1991.5.6記)

山田 常雄 (昭7学)

欠席ばかりして申訳ありませんが、近来夜に弱くなりまして、夜にある会はみな欠席してい  
ます。しかし凌泳会には一度出席したいと思っています。皆さんによろしく。

板野 龜八郎 (昭9学)

何時から泳いでいないのか、恐らくもう30年以上プールにも川にも海にも入ったことがない。  
しかし、それでも神戸商業大学時代、上筒井の青い藻の色をした小さいプールのことをよく  
憶いだす。学校の名前も変わり、同窓会名簿に女性の名前が多く載っていると、なんとなく  
よそのことのような気がする。しかし、やっぱり硫酸銅の多量に投入された小さいプールは、  
何時までもなつかしい。

宮本 伯夫 (昭9学)

当日やむを得ぬ約束があって残念ながら欠席致します。御盛會を遥かにお祈り致して居りま  
す。先般、兵庫水連40周年記念式典挙行。当日は在神OB会の皆様がつどい御参集の上、御  
歓待をして下され、殊に有難うございました。厚く御礼申します。暖くなったのでゴルフを  
はじめています。目下、グロス110平均です。

池谷 俊一 (昭10学)

脳硬塞の後遺症で歩行困難の為、欠席します。

小池 三郎 (昭11学)

入院を1ヶ月程しましたが、その後健康をとり戻し元気しております。ご盛會を祈る。

山村 宮男 (昭12学)

病氣中にて失礼します。

伊藤 英二 (昭13学)

今のところ息災です。ゴルフに精進しておりますが、体調維持が仲々むづかしい。旅行が苦  
手の為、何時も欠席して申訳ないと思っています。お集まりの皆様によろしく。

大内 義仁 (昭14学)

盛會をお祈りします。

山川 初雄 (昭18学)

前略 凌泳会總會召集のご案内いただき有難う。小生、老来ますます元気に消光致して居り  
ますので他事乍らご休息下さい。来るべきシーズンには現役の学生諸君のご活躍をお祈り致

します。

大西 真博 (昭15学)

おかげさまで元気に過しています。五十年前、六甲の道を登っては、よい景色を眺め、楽しい学生生活を送ったことをいつも感謝しています。今年も水泳シーズンが始まります。大いに頑張ってください。

晴れわたる濃き青空に鮮やかに 富士の残雪白く明るし

森 芳夫 (昭16学)

6月が来れば74才になりますが、何とか元気に過ごしております。

山口 宗樹 (昭16学)

勤めは3年前に終わりましたが、健康に過しておりましたので其後もいろいろの方の呼びかけがあり、忙しく飛び廻って居ります。主に遊ぶこと、泳ぎに専念出来ず残念です。凌泳記念誌が出来上るのを楽しみにして居ります。凌泳諸兄姉の御健祥を祈ります。

前田 寿 (昭16学)

六甲山が一番美しい今日この頃です。"新緑の山を洗ふて川迅し"住吉川の辺りを毎日散歩しています。懇親会に久しぶりに出して貰います。

平井 洋 (昭16学)

うたかたの いのちまさぐる 五月間 平井洋城

岡本 慧夫 (昭16学)

家内と2人で気楽に暮らしていますが、よる年波で体の方がよくなく、夏と冬は家にいませんので悪しからず。子供達は米国や鎌倉にいて淋しいときもありますが、これが世の中だと思えます。部の発展を祈ります。

尾上 信三 (昭17学)

術後の体調まだ安定せず、中々皆様にお会いできず残念です。本年のご健闘をお祈り致します。

富中 暁 (昭18学)

昨秋古稀を迎え、10月から(火)(木)のみ出社してゐます。体力も相応に低下しましたがホテルオークラ・ヘルスクラブの水泳とサウナも今年で18年目、とまかく健康で今日迄続けて来ました。さて、いつ迄続くことやら!?

凌泳会の益々の発展と皆様の御健勝を祈り上げます。謹言

古川 富貴男 (昭18学)

「凌泳70年史」はもう発行されましたか。19日の総会は失礼します。よろしく。

井上 清 (昭19学)

欠席続きで済みません。つつい御無沙汰を重ねてますが、この時期になると六甲台のプールを懐しく思い出して居ります。皆様の御健勝・御健闘を祈って居ります。

湯山 正三 (昭19学)

いつも御案内嬉しく思っております。有難いことです。然し、隠居三昧、ゴルフや囲碁、釣、画と余生を健康で楽しんでいます。とても出掛ける程の力はありません。香川凌霜会の会長として、例会と後輩諸氏のお世話を精一杯楽しんでいます。

山内 利男 (昭20学)

相変わらず四半期毎のインド出張を続けて居ます。いつも水泳パンツを携行するも、次第にモノグサになったのか泳がず、或いは仕事・行事を前に体調を慎重に整えるなど、いささか老化を感じる年頃です。御盛會を祈る。

稲垣 信夫 (昭20学)

一応元気でやっています。皆さんによろしくお伝え下さい。

三宅 林 (昭21学)

左の肩の筋を切り、現在3ヶ月経過で9割の回復です。マスターズもそのため5月19日(日)京都で出場の手前で、総会には失礼致します。御出席の皆様は何率よろしく。

山越 重義 (昭23学)

少々体調をくずしているの、残念ながら欠席致します。皆様によろしく。

佐脇 鷹平 (昭25学)

拝啓 久し振りに六甲台に立ってみたいと思いましたが、時間がとれません。家からは毎日六甲山を仰ぎみて暮しています。皆々様の御健勝をお祈り申し上げます。

石井 義章 (昭27学)

当日予科6回生のクラス会があり、幹事をしている為抜けられません。残念乍欠席致します。御出席の皆様宜敷くお伝え下さい。凌泳70年史、いよいよ最後の段階にさしかかっています。秋迄には何とか刊行したいと思ひます。楽しみにお待ち下さい。

山本 幸雄 (昭27学)

本年2月21日より海外オペレーションより解放され、過去の駐任経験を生かした海外勤務要員の育成を担当するようになりました。先日、凌霜会東京支部総会にて小山大先輩に久しぶりにお目にかかり、歓談しました。私も相変わらず元気でやっております。総会のご盛會を祈ります。

中井三郎（昭27学）

当日凌霜会の為、残念乍ら出席出来ません。皆様によろしくお伝え下さい。盛会を祈ります。

小原祥男（昭29営）

神戸—東京、やはり遠いです。石井さんや皆様お元気ですか。我輩も元気でおります。

田淵五郎（昭30営）

この4月には短水路マスターズ大会の神戸会場に遠征致しました。

堂本直正（昭30工）

勝手ながら拙宅の引越日に当りますので欠席させていただきます。盛会を祈ります。小山会長以下皆様によろしく。

松田司郎（昭32法）

4月14日、堺大会にて初めて200m個人メドレーに挑戦しました。目の前が真暗になりました。

山口仁郎（昭35営）

今春より孫たち一家がベルギーのブリュッセルに海外赴任となり、淋しくなりました。ヨーロッパは内水路クルージングの盛んなところですが、パリへの運河クルーズに夢をはせ、この連休はヨットの整備に専念しました。出席の皆様によろしく。

細田忠雄（昭33経）

段々年令的には会社現役最高という事で、水泳同好会の会長職。おかげで会社の行事にはできるだけ出席しなければならず、スケジュールの調整に困っていますが、反面、若々しい連中に接する事は無上の喜び。水泳をやって良かったと思う今日此頃です。

高橋靖周（昭33経）

毎年ご案内を頂きながら今年も出席できず誠に残念です。今年の夏は久し振りに大いに泳いでやろうと張り切っております。皆様のますますのご活躍と総会・懇親会のご盛会を祈念いたします。

河村雍彦（昭34法）

今は東京勤務で単身赴任しています。

山本哲弘（昭34法）

皆様御健勝の事と存じます。今回も欠席となりますが、会員の皆様の一層の御活躍を祈念しております。

上村久治（昭35経）

相変わらず航空貨物の担当で元気にやっております。去る3月には卒業30周年記念の行事があ

り、久しぶりに六甲台を訪れました。周囲の変貌ぶりには驚きましたが、それでも六甲台そのものは変わらず、大変なつかしい想いをしました。

野田 浩 志 (昭36営)

4月から米国へ転勤になりました。本人の方から後日連絡するとの事です。

萩原 武 (昭37工)

おかげ様で元気でやっております。大阪勤務になって以来、石井様はじめ多くの凌泳諸氏から声を掛けていただき、本当にうれしく、有難く存じております。総会当日、皆様にお会いできるのを心から楽しみにしております。

井上 隆 史 (昭37営)

当日は先約がありますので欠席致します。7月の代々木では、エントリーが200mなので途中でgive upにならないよう、これから泳ぎ込みたいと思っています。ご盛会をお祈り致します。

岡田 重 義 (昭37営)

当日は出席させて頂く予定にしています。

高岡 保 宏 (昭37教)

当日、姫路市室内選手権をもっており参加できません。総会、懇親会の盛会を祈ります。

米田 啓 祐 (昭37教)

いつも御案内等をいただき申しわけありません。本年も欠席させていただきます。最近は、にぎわっているプールの前を通過するようになりましたが、泳ごうという気が少しもなくなっているのは、若さもすっかりなくなってきたからだと思っています。

丸山 卓 也 (昭38工)

諸先輩はじめ皆様によろしくお伝え下さい。

鈴木 剛 弘 (昭38営)

小生、4年間「NTTインテリジェントテクノロジー(株)」へ出向しておりましたが、この程沖電気工業(株)へ戻りました。

平岡 昭 朗 (昭38教)

いつも欠席ばかりして申し訳ありません。今回も野球部練習試合で欠席します。懇親会に間に合えば出席したいですが、一応欠席で連絡しておきます。

安茂 弘 (昭39工)

法事とかさなり出席できません。今年マスターズ大会に初めて出場しました。大阪大会では銀メダルを2つもりました。来年をめざして週に3回ぐらい泳いでいます。

武 政 英 幸 (昭39営)

社会人となって27年余、そのうち東京圏で14年。「公」では三度目の出向中で中国との関係が深い。「私」では相変わらず水泳に親しむ。

鈴 木 正 弥 (昭39経)

いつも総会の御案内を頂きますが、なかなか関西に足を運ぶのもおっくうで、いつも欠席ですみません。総会御出席のOBの皆様によろしく。関東では5/13(日)に第3回懇親ゴルフコンペを行います。場所は小山会長が理事長をしておられる青梅ゴルフ倶楽部で、大15卒の木村芳雄さんが初参加されますが、H.C16ということでAge Shoeterも夢ではないのではと、今から楽しみにしています。私が幹事役です。

堤 荘 祐 (昭39教)

ここ数年、日・祝祭日出勤の変則勤務(神戸市総合児童センター こべっこランド)のため日程がなかなか調整できません。人が休んでいる時に働くのは精神衛生上良くない様です。週1回、神大(教育学部)へ非常勤講師で行きますが、六甲台プールの傍を通り過ぎるだけです。総会、懇親会双方ともご盛会であります様、又、出席の皆様方によろしくお伝え下さい。

前 田 和 秀 (昭40法)

昨年は体調をくずし、水泳も遠ざかっていましたが今年に入り、体調に合わせて序々に泳ぎだしています。マスターズの緒戦は5月12日、与野の短水路大会です。ゴルフはシングルを目ざし、3回/月のペースでやっています。御出席の皆様によろしく。

丸 山 昱 也 (昭40工)

行きます。

真喜志 好 一 (昭41工)

この夏は阿部君(T15)が沖縄の海を楽しみに来られる由。ケラマには那覇から片道1時間(船往復2540)。素もぐりでサンゴの海を楽しめます。皆様もどうぞ。

中 畑 勝 明 (昭41営)

公私共に慌しく過しており、水泳とも縁遠くなりました。現役の皆さんの今シーズンのご活躍を期待します。出席の皆様方に宜しくお伝え下さい。

宮 部 高 博 (昭42文)

いつもご連絡下さり有難く思っております。遠方故欠席致しますが、ご出席の諸兄によろしくお伝え下さい。5/12(日)、5/26(日)にマスターズ短水路大会へ出場する予定です。ご盛会をお祈りしております。

玉置 明 (昭45経)

仕事も慌しく仲々泳ぐ機会も出来ませんが、今後徐々に機会を増やしマスターズに参加したいと考えております。いつも総会には欠席で申し訳ございません。

岩切 博 (昭46理)

40才を過ぎると色々故障が出てくるようで通勤途中、膝を痛めてしまいました。おかげで泳ぐ時もキックがまともに打てず、仕方なしにプルの練習に撤し、泳法を変えました。そのせいか、先日行われたマスターズ長距離大会では400m個メで6'36"83にて金メダルを取ってしまいました。これからは体を騙し騙し使って、何とか続けて行きたいと思っています。

井上 与志男 (昭47法)

東京勤務も4年目に入り、住まいも土浦に落ち着き、やっと日々の生活が自分のペースで動くようになりました。この13日には、小山会長が理事長を務めておられる青梅ゴルフクラブで東京凌泳会ゴルフコンペがあります。昨年9月に続いての2度目の参加ですが、今からとても楽しみです。皆様にどうぞよろしく。

藤井 元洋 (昭48教)

今、全校生41名という山間の小学校に動めていますが、こんな学校にも天皇制、国家主義の復活の波がおしよせてきています。日の丸や元号使用等の強制、上意下達の教育統制等、教育界は今後の国の方向性が肌で感じることのできる職場です。

佐敷 定雄 (昭49農)

定期的に泳いでおりますが減量も出来ず、又、腹の回りも変化ありません。100m自は1'02"00で泳いでますが、レースの後の回復は遅く、疲れます。もう泳ぐのはやめよう、やめようと思いながら水の中毒にかかっているの仲々やめられません。今シーズンこそ現役諸君の大活躍を期待しております。

長谷川 健 (昭49経)

去る4月1日、父が亡くなり、当日は七七忌法要の為欠席させていただきます。現在、泉大津支店に勤務しておりますが、本年の新人として、昨年のキャプテンの当麻君が配属になり喜んでおります。当日御出席の皆様にお伝え下さい。

藤森 一男 (昭51工)

健康管理の為、スイミングクラブに通い始めましたが、15年のブランクは大きく50mで息切れし、体力の衰えを痛感しております。

松井 玲子 (昭52教)

今春小学校を退職いたしました。今、徳島大で心理学を勉強しております。

平 石 康 (昭53教)

今日は、35才となり、5年ぶりにマスターズに復活しました。やっぱり5年間の体力の衰えは著しく、タイムは伸びませんが、何とかメダルをいただきました。神戸市のマスターズでは、openというか、お忍びで参加し、金メダル3個ももらいました。今度は40才まで、いかに体力を維持するかです。現役諸君、がんばって下さい。

後 藤 信 人 (昭54営)

日頃は何かとお世話になって居ります。此の度はおはがき有難う存じました。信人も台湾駐在となり早や二年半。多分五年位になると思う、と言っております。女兒三人の父親となり賑やかな生活を送っている様です。長女は小学二年生となりました。どうぞ今後共よろしく願い申し上げます。 信人の母より 乱筆乱文にて失礼致しました。

大 林 良 和 (昭55医)

小野に住みはじめてから3年になりました。あいかわらず多忙な毎日です。みなさんの御活躍を期待しています。

土 井 祐 二 (昭55法) 土 井 紀 子 (昭57教)

東京へ転勤!と思ったら、社宅はフジテレビの隣りでびっくりでしたが、以外と静かな環境で良かったです。今年も皆様のご活躍期待しています。

上 田 剛 弘 (昭56営)

知人の結婚式に出席するため当日は欠席させていただきます。今年度の現役諸君の活躍を期待します。

富 岡 洋 三 (昭57営)

アメリカンフットボール部に負けずにがんばって下さい。(会社の同僚であるアメフトOBが、えらく意気込んでいました)。

後 藤 芳 光 (昭57経)

(株)小野田に出向しました。建材関係の輸出入をやっています。

嶋 田 陽 子 (昭57教)

3月に札幌へ転居しました。水泳には不向きな土地柄ですが、温水プールをさがして、せせと泳ごうと考えています。当日御出席の皆様によろしくお伝え下さい。

藤 田 弥 門 (昭57準)

当日はインテックス大阪でSHOWがあり、出勤の予定となっておりますが、予定変更 or 時間の都合がつけば、懇親会には出席させて頂きたいと思います。

太田 雅彦 (昭58農)

現役の皆様、今年こそ関ボロ優勝して下さい。

中北 路代 (昭58教)

長期間帰省していましたので返送が遅くなりました。申しわけありません。今年も御活躍下さい。10月に大阪へ転居する予定です。

呉 竹正人 (昭59法)

近年、レースは増えこそすれ減りはせず、会社水泳部の雑用係としては忙しくなる一方です。

谷 水利行 (昭59法)

娘も、もうすぐ2才、私も今年で30才になります。押し寄せる年波に抗しつつ、公私共多忙な毎日を送っています。

浦野 敏明 (昭60営)

当日は東京マスターズにYHPより出場している予定です。残念ですが皆様方に宜しくお伝え下さい。次はパンパシフィックマスターズでお会いしましょう。

川原田 貢 (昭61教)

1年間イタリアにて研修に行っております。よろしくお願ひします。

黒川 良介 (昭61経)

子供が今6ヶ月です。隼也(しゅんや)と言います。勿論将来は水泳選手です。今からフロ場で鍛えています。

安井 啓史 (昭63経Ⅱ)

今年はパンパシフィック東京大会で800mを泳ぐ予定です。完泳を目標に頑張ります。

和泉 千里 (昭62農)

毎日ほんやりと過ごしています。人より早くボケるんじゃないかと心配です。現役の方とはなかなかお会いできませんが、がんばって下さい。

後呂 忠詳 (平1経)

勤務先の住所が変わりました。ニューオータニホテルのとなりで、三好兄、村田君と同じビルで働いております。休日は家内と二人で散歩しております。

甲野 賢 (平1理)

早死にしそうです。

郡 幸雄 (平1工)

4月に東京に来て1ヶ月が過ぎ、関東弁にも少し慣れ、元気になっています。社会人になり、以前より酒量が増え、仕事が少ない今のうちにと、週2・3回スポーツクラブで泳いでいま

す。今年は水球・競泳共に多数の新人が入部したと聞き、今年の成績を今から楽しみにしています。4年生の人は、泣いても笑っても1年で終わりですので、悔いの残らぬよう一生懸命頑張ってください。

近 藤 直 明 (昭63営)

凌泳総会&懇親会に一度は参加したいと思っていますが、日曜開催ですと距離の問題もあり、なかなか足を運ばせん。来年は土曜開催にさせていただくことを要望します。6月8日・9日は久しぶりに神戸へ帰りますので、時間があれば関ポロを応援に行かせていただきます。その節はよろしく。Regards.

中 塚 泰 弘 (昭63農)

北海道から埼玉へ転動して半年。距離的には神戸に近くなったものの、全く帰る機会がありません。総会当日は私の20才の誕生日ですので、皆で祝ってください。皆様の御活躍をお祈りいたします。

森 田 武 士 (平1法II)

本人は東京に在り、今大阪には在りませんので、よろしく願います。

井 口 恵 理 (昭63工)

今年に入ってから東京方面への出張が多く、その度に先輩方々、後輩達に会えるので喜んでます。仕事の方は、元気ががんばっております。

奥 村 直 樹 (平1経)

近年はトライアスロンに凝っております。毎日自転車で会社に通っております。現役部員の今シーズンの活躍を期待しております。

岡 崎 憲 之 (平2教)

御無沙汰しています。卒業してまだ一年というのに、六甲台で泳いでいた頃が、もう遠い昔のように感じます。今年5年生を担任して、相変わらず子どもに混じって悪戦苦闘の日々を過ごしています。現役の皆さん、今年こそOBがかなえられなかった"夢"を実現させて下さい。

田 中 和 彦 (平2教)

仕事が土日もあるので、なかなか試合にはいけないが、暇を見つけて行くようにするのだ!!

林 均 (平2工)

寒さで震えながら泳いでいた頃とは打って変わって、作業服から塩を吹いている毎日です。



## 月見の宴



岸 橋 夫 (特)

月見の宴のご案内、有難うございました。当日先約があり、欠席致します。御盛會を祈ります。

木 村 芳 雄 (大15高)

私も今年は米寿を迎えましたが、割合元気で毎日自分の会社へ1日1万歩を目標に歩いて通っています。好きなゴルフは毎日曜と祝祭日には欠かせません。更に健康に留意して、日本一の喜寿ゴルファーを目指して頑張るつもりです。

香 山 孝 一 (昭6高)

足を折り、やっと退院。歩行けいこをして居ります。皆さんに宜しく。

北 条 貞 夫 (昭6高)

老境に入りまして全く情ない話ですが、若い皆様方の中に混って元気をつけてほしいな思いますが、自重して、迷惑かけてはいけないと思っています。皆さん、十分御楽しみをいのります。

植 木 實 就 (昭6高)

御案内ありがとうございます。眼・脚不調ながら残念、欠席致します。皆さまの御健勝をお祈り致します。

小 山 賢之助 (昭7学)

マスターズ83才で出場しています。さて、いつまで行けるか、God only knowsです。

草 野 嘉 一 (昭7学)

お蔭様で元気です。今年2月にはニューカレドニアに行って泳いで来ました。水は誠にきれいです。6月から7月にかけてベネルクス3国を訪ね、ECの中枢を見て来ました。

山 田 常 雄 (昭7学)

今春孫娘が神戸大学へ入りました。水泳部に入りたいのですが、本人は芸術の方面に進みたいとあって、あっさりけられました。

板 野 龜八郎 (昭9学)

私が生れたのは1910年、本日は1991.8.30。この間色々なことがありました。先づ、生れた年から韓国併合条約調印で、今日まで半島の人に怨まれて居り、第一次、第二次大戦も

大変だったが、近頃一番驚いているのは、ソ連の変り方。私が7才の時誕生した者の国、階級のない国が、明治維新以上の大転換の舞台を演じつつある。湾岸の大西部劇は活劇につづいて、こんなことでは中々死ねない。これから色々な舞台が出現すること間違いなし。なんとか永生きしたいのが最近の心境です。

宮本 伯夫（昭9学）

学部3年生の夏に出来た懐しい六甲台のプールで行われる「月見の宴」には、一度も出席した事がないので残念です。あのプールの冷たい水で今一度泳いでから、私の人生の終りにしたいと思います。既に80才を越え、体力も衰え、恐らく行く事もないでせう。皆様の御健勝を祈っています。

池谷 俊一（昭10学）

元気に暮らして居りますが、独り外出困難の為、月見の宴は残念乍ら欠席致します。各位によろしく。

古賀 克己（昭11学）

会社をリタイヤしてから6ヶ月めになりますが、元気で自由な、曜日関係なしの解放された生活を楽んでいます。水泳学校で週2回泳ぎ、7月の東京国際マスターズに出場しましたが、10月の平塚長水路も予定しています。来年は+80クラスになるので頑張るつもりです。

山村 宮雄（昭12学）

入院中ですから、今後の会には出席しませんので通知は無用です。旅行が出来ません故。

山川 初雄（昭18学）

早速乍ら月見の宴ご案内いただき有難う。残念乍ら欠席致します。月見の宴については小生学生時代に始めた泳ぎおさめの行事で、まことに懐しい思い出があります。神戸大学水泳部の伝統行事として、将来末長く受け継いで欲しいものです。

満野 公介（昭18学）

月見の宴の案内有難う御座いました。都合により参加できませんので悪しからず。皆様により。日頃は大変御無沙汰致して居りますが、元気にしてますので、まずは御礼まで。

大西 真博（昭15学）

おかげさまで元気に過しています。今年は機会なく泳いでいません。もっぱら市の公民館にて子どもたちに昔話（外国もの、グリムやイソップなど）を1ヶ月3回位やっています。皆様の御活躍を祈ります。

防災の日の焼けて日射じりじりと 震災を想う暑き日なりし

吉野 栄 (昭15学)

三商大御苦労でした。出席たのしみにしています。

堀部 喜代次 (昭16学)

御案内、当方迄ありがとうございます。皆様によろしく。

森 芳夫 (昭16学)

相変わらず週2回の水泳(1000メートル)とゴルフで健康維持に努めております。

山口 宗樹 (昭16学)

月見の宴のご連絡有難うございました。このシーズンでの皆様のご活躍何よりと存じます。小生、日本人の平均寿命は未だ ないので、いろいろ動き廻って居ります。頭も身体も動かすことが大切かと思っています。

前田 寿 (昭16学)

〃迫る老 ちょっと忘れて 月見かな〃

平井 洋 (昭16学)

八・一九 クーデター失敗 ジイド出てきて手を拍てり 平井洋城

尾上 信三 (昭17学)

来年のご健闘を祈り、皆様のご発展とご多幸を重ねてお祈り申し上げます。

岡本 忠男 (昭17学)

9月21日 22日(日)は会合がありますので、欠席させていただきます。御盛会をお祈りします。

木村 京一郎 (昭17学)

完全な年金生活者です。家のまわりの家庭菜園で、ありふれた野菜づくりに日を送っています。今年は冷夏で、成績も余りかんばしくありません。水泳シーズンも終りでしょうが、又来年の活躍を祈ります。

荻野 茂希 (昭18学)

久しぶりに三商大戦を観戦。現役学生の活況を見て頼母しく感じました。六甲台のプールは50年前と同じで、懐しく思いました。北側の斜面に観覧席が出来たら、もっと愉しく見られるのに……と。

富中 暁 (昭18学)

ヘルスクラブの水泳とサウナは相変わらずですか。早や18年目です。非常勤になって初めての夏をenjoyすべく、野尻湖—千ヶ滝—六本木を3往復しましたが、今夏は雨多く、湿度高く、信州各地とも例年の夏ほど快適ではありませんでした。

井上 清 (昭19経)

御無沙汰で済みません。昭和18年11月15日、仮卒業式が終って六甲台プールで別れの泳ぎ。それでも名残りは尽きず、元町に繰出して雨に降られて、また一ぬれ。夜は上筒井・国維寮でフンドシーツ裸でストーム。大風邪をひいて残った論文も四離滅裂。其後高熱がずっと下がらず、学徒動員令による岡山48部隊12月1日入営は、まる一週間遅れ、それでも関東軍少尉は昭和22年12月、ソ連から無事津山に帰宅しました。「六甲台プール」の懐しき、一生懸命泳いだおかげで今も元気と感謝して居ます。皆様宜敷く。

井川 俊夫 (昭20経)

「悠々自適」と言いたいが、少くとも誰にも束縛されることなく「自適」しています。のびのび自由に、やり放題の生活で「定年が遅すぎた」、こんな自由な本当の「人間らしい生活」があったのかと、毎日楽しんでます。泳ぐ方には縁がなくなりましたが、専ら潜ることに専念し、毎年オーストラリアのGreat Barrier Reefやタイの海に潜りにゆき、海底の魅力にとりつかれています。海中の魚と接していると、人と接するわずらわしさもなく、この上なく静かで、正に無我の境地。カッパはやはり、いくつになっても水とは縁がなくならないようです。皆様宜しく。

山内 利夫 (昭20学)

大倉商事の常任顧問として四半期毎の訪印を続けて居るが、同時に、日印協会、日印経済委員会、日印調査委員会(旧称・日印五人委員会)、日本経済調査協議会、インド委員、等の委員としてインド専一にヴォランティア奉公に励んで居ます。

三宅 林 (昭21学)

何時もながら所用のため失礼します。ご盛會を祈ります。

中崎 日出男 (昭24学)

9/21はおもちゃ病院のボランティア活動の日で参加出来ません。70才以上のマスターズ出場を目標に9月より取組みます。市民水泳大会で25m 4位でお恥しい限りです。

佐脇 鷹平 (昭25学)

元氣一杯新しい環境での生活をエンジョイしています。結構学ぶことの多い毎日です。

中井 三郎 (昭27学)

毎年凌泳会の会合に出席したいと思っておりますのに、近年所用が重なり出席出来ないのを残念に思っております。現在少し夏バテ気味ですが、なんとか元氣でやっております。皆様によろしくお伝え下さい。御盛會を祈っております。

北野 誠 良 (昭25学)

名古屋に来て7年目に入りました。御蔭様で健康にめぐまれ元気にやっております。

西岡 良 宏 (昭27学)

当日社用で出席できませんので、皆様によろしく御伝え下さい。

石井 義 章 (昭27学)

相変わらず腰痛に悩まされていますが、と云い乍ら昨年はサンパウロでの予科クラス会に参加し、今春マスターズ兵庫大会にも参加(銀メダル)しました。しかし、ゴルフが出来ないではつまらぬので、思い切って手術しようかと思っています。(友人は皆、止めとけと云いますが)。来年は車椅子に乗ってるか、ゴルフをしてるか、御期待下さい。

山本 幸 雄 (昭27学)

7月中旬に満63才の理事定年となりました。しかし、長年の海外駐在の体験を生かして、今后より一層必要となる国際企業人材育成プログラム作成を担当することになり、一年契約の嘱託としてひきつづき勤務しています。13年ぶりに海外より帰国して早くも一年になり、東京の生活にはなれて来ました。完全退職後は神戸ですごしたいと考えています。

今井 政 一 (昭24専)

お蔭様で相変わらず元気で頑張ってます。時折プールに通って泳いでみますが、遊泳と云う所で、中々此の年になると続きませんネ。若い各氏の健闘を祈り、お集りの諸尺に宜敷く。

今枝 一 (昭28営)

昨秋定年退職、第2の人生に向けて目下充電中。諸氏によろしくお伝え下さい。

小原 祥 男 (昭29営)

去る5月、兼松電子部品㈱を退職しましたが、何やかやと忙しく過しております。7月松山を訪れ、村田邦夫君(昭53年卒 松山大学助教授)に大変お世話になりました。石井先輩、お元気ですか。

田淵 五 郎 (昭30営)

マスターズ水泳のお蔭で元気です。来年卒業される方々も、すぐに水泳から遠ざかることなく、少しずつでも続けられる様に希望します。

堂本 直 正 (昭30工)

腰痛に悩まされ、今夏は高い山への登山が出来ませんでした。当日は趣味の事での発足会があり、勝手ながら欠席させていただきます。好天と盛會を祈ります。皆々様に宜しく。

橋本 力 (昭30工)

出席したいのはやまやまですが、9月の土・日はすべて、競技会と学校の文化祭でつまって

おり、毎年参加できません。9/15～16の学生ボロを頑張って下さい。期待しています。

松田 司朗（昭32営）

個メドレーにチャレンジしております。200mですが大変シンドイです。出席の皆様によろしく。

山口 仁郎（昭32営）

5月末より毎日泳いでおります。3000m/1時間、2ヶ月間で、体重97kg→75kg、ウエスト100cm→79cm、20才台の体型になりました。衣類が全てダボダボです。プールの水温が低下する秋口からは、泳力にスピードを追加しようと思っております。当日は連休初日、溜沢行き計画があり、欠席します。出席の皆様によろしく。

石本 茂樹（昭33経）

近くのスポーツクラブで、週2回ばかり泳ぎ始めて1年一寸になります。泳いだ後のビールが楽しみです。

細田 忠雄（昭33経）

残念ですが今年も欠席。マスターズ目標に現在個人メドレー練習中なるも、年々体力落ちつつあり100mがやっと。少し健康的な生活に戻り、是非200メドレーに挑戦したい。

高橋 靖周（昭33経）

皆様お元気ですか。小生もお陰様で至極元気でやっております。今年の夏は、海で一回泳いだだけです。でも、実によい気分でした。折角のご案内ですが、今回も残念ながら出席できません。皆様のご健勝と月見の宴のご盛会をお祈りいたします。

永野 一彦（昭35経）

月見の宴、残念ながら欠席します。昨年半ばモスコより福岡に赴任、久方振りの故郷の生活を楽しんでいます。御来福の節は是非御一報下さい。

宇賀 史郎（昭35経）

御無沙汰致しております。残念ながら21日、先約あり出席できません。御出席の先輩諸氏によろしく御伝え下さい。4年生の諸兄、ごくろう様でした。

野田 浩志（昭36営）

いつも御連絡ありがとうございます。本人野田浩志、本年4月よりロスアンゼルスに転勤になりましたので、お知らせいたします。3年位の予定です。帰国しましたら連絡させていただきます。今後共よろしく願います。

柳本 正雄（昭37営）

元気で毎日を送っています。皆様によろしく。

井上 隆史（昭37営）

皆様お元気で活躍のことと思います。先日はバンパシフィックに出場して、久しぶりに小山先輩、三宅先輩等々、大先輩のご健勝なところを拜見し、まだまだ頑張らなければと思った次第です。ご活躍をお祈り致します。

岡田 重義（昭37営）

水のシーズンが終わりました。次の本格的シーズン到来までは、勉強中心の生活へとシフトして下さい。若い貴重な時間です。プールだけではなく、ゼミ、図書館などでのアカデミックな体験、勉強も大きな資質の一つになるとと思います。今季の好結果、本当に御苦労様でした。

米田 啓祐（昭37教）

ご案内をいただきましたが、所用のため欠席させていただきます。今年は5月頃から少しずつ泳いでいます。勤めの帰りに1時間程プールに立ち寄ることを始めました。体調もよく、続けようと思っているところです。

丸山 卓也（昭38工）

諸先輩の皆様によろしくお伝え下さい。

林 荘八郎（昭38経）

凌泳会の東京支部の集いには、出来るだけ出席するようにしています。神戸へ行く機会が仲々なくて御無沙汰ばかりです。ご出席の皆様によろしく。ご盛會を祈ります。

藤岡 治男（昭38教）

ご案内有難うございました。残念ながら当日、公務の都合がつかず出席できません。ご参加の皆様方によろしくお伝え下さい。

武政 英幸（昭39営）

凌泳マスターズの皆さんと、相変らず水しぶきをあげています。

鈴木 正弥（昭39経）

相変わらずゴルフと釣りを楽しんでいます。最近部長に昇格し、東京/大阪に部がまたがる関係で、月に1~2度大阪に出張するようになりましたので、凌泳会行事にもやりくりして参加したいと考えています。御盛會をお祈りし、御出席のOB諸氏によろしくお伝え下さい。

手嶋 忠之（昭41理）

中学二年の息子が、福岡で開かれた「全中水泳大会」に出場しました。二百個人メドレーに出ましたが、入賞は出来なかった様です。

中畑 勝明（昭41営）

月見の宴の当日は法事があり、欠席します。8月に父が亡くなり、先日まであわただしく過

しておりましたが、漸く落ち着きました。近くに室内プールがありますので時々泳いでおります。現役の皆さん、今シーズンの活躍ご苦労様でした。来シーズンもがんばって下さい。

宮 部 高 博 (昭42文)

いつもお世話様です。小生も元気にやっています。先日、現役マネージャー氏より、全日本インカレの応援の依頼がありましたが、平日のこと、仕事上の都合で応援出来ませんでした。あしからず。対日体大戦の結果は、新聞で拝見しました。今後も頑張ってください。

阿 部 洋 三 (昭42工)

胃の手術から約2年経過し、日常生活はほとんど問題なしの状態になっています。ただし、体重の方は手術前の10kg減で、これは今しばらく回復しそうにはありません(回復する必要もありませんが……)。水泳の方は、ポチポチですが続けています。泳げば泳ぐ程、新しい発見(?)があるので、今度こそ理想のバタフライ! と思って泳いでいます。

玉 置 明 (昭45経)

仕事に追われ仲々泳ぐ機会もなく、調教不十分で反省しております。これからは泳ぐ為の時間を作り、鍛え直さねばと考えています。

井 上 与志男 (昭47法)

バブルの崩壊、銀行・証券会社等の信用失墜、ソ連社会主義の崩壊等々……、日々激しく変化するこの頃、小生の仕事は、倒産・事故が発生すれば多忙になるセクションで、今年後半は空虚な、自己を省みる時間も無くなるのでは……と予測されます。が、神戸水泳部で鍛えたこの心身にモノを言わせて頑張ろう、と思っている今日この頃です。

井 上 史 朗 (昭45営)

9/1付で千葉支店勤務を命じられ、着任いたしました。転宅はなく、1~2泊で房総へ出張しております。東京へ行くことがなくなりましたが、今後ともよろしく。

以 西 吉 一 (昭48工)

残暑厳しき折、プールにて1日過したき想いはあれど、いまだ零細企業なれば、現場に営業にと追われ、会社を留守にすること能わず、今回も失礼します。

佐 敷 定 雄 (昭49農)

今年の第46回国民体育大会(石川県)に千葉県代表選手に選ばれました。鈴木大地君と同じチームで泳ぎます。凌泳会から国体選手が誕生しましたよ。神大水泳部から全日本選手権入賞者が誕生するのを大いに期待しております。頑張ってください!!

家 本 博 一 (昭50経)

ソ連、東欧圏の激変を研究する毎日で、忙しくいたしております。欠席ばかりで申し訳ござ

いません。先輩諸兄のご健勝と、現役のご健闘を祈念しております。

瓜 生 誠二郎 (昭50経)

1月に三女が生まれ、3月に社宅を替りました。残念ながら出席できませんが、皆様によろしくお伝え下さい。

紫 垣 和 男 (昭50営)

元気に頑張っております。皆様に宜しくお伝え下さい。

平 石 康 (昭53教)

運動会の準備のため、欠席させていただきます。盛会をお祈り致します。5年ぶりのマスターズ復帰しましたが、やっぱり記録は、年令に比例して悪くなりますね。郡の小学生の記録に追いつかれそうです。何だか年を感じます。でも運動は、できるだけ広く浅くやっています。若さにはかないませんが。

後 藤 信 人 (昭54営)

此の度はおはがき有難う存じました。何時も何かとお世話になっております。信人も三人の女兒(長女小学二年)の父親となり、暑い所で頑張っている様です。どうぞ今後共よろしくお願ひ申し上げます。 信人の母より 九月七日

酒 井 正 人 (昭53農)

水泳、ランニングを中心に体力を維持しております。

土 井 祐 二 ・ 紀 子 (昭55法・昭57教)

水球の試合で東京へ来て頂いたのに、応援に行けずに申し訳ありませんでした。前日でなくもう少し早く連絡してもらえればありがたいです。上田さんの結婚式に夫婦で司会をさせて頂き、その後の2次会でも、とても楽しく過ごさせて頂きました。確か現役の方もいらした様に記憶しているのですが……。来年のご活躍をお祈りしております。

上 田 剛 弘 (昭56営)

グリーンスタジアム神戸での日本シリーズを楽しみにしていたのですが、今年はおあずけとになってしまいました。来シーズンは是非試合を見に行きたいと思っておりますので、がんばって下さい。

藤 田 弥 門 (昭57準)

実業団の試合後、なにも運動をしなかったら、ウエストだけが2cm程太くなってしまった！

太 田 雅 彦 (昭58農)

10月のマスターズめざして泳いでいます。

酒井 潤 (昭58経)

当日先約あり、失礼します。ご出席の先輩後輩諸兄に宜しくお伝え下さい。

石本 日和子 (昭58教)

「兵庫県の教育者」って言うと、変な奴ばっかしみたいで——校門圧死事件、県農の答案改ざん、入試結果ろうえい、風の子学園事件——いやになっています。最も子どもに近くて、そして教育をつかさどる教師が物を言えなくなりつつある職員室に危険も感じています。でも、上は変でも、下は薄給にあえぎつつがんばっている教師がたくさんいるんだゾー。誇りあるヒラ・女・教師として、生き活きと勤務したいと思っています。(秋です。ちょっとまじめに迫ったり)。21日は都合で参れません。諸先輩方、又、一夏頑張った現役の皆さんにヨロシクお伝え下さい。

吉岡 宏久 (昭59法)

今年の夏、長女(2才)を連れて2度プールに行きました。ことのほか水は好きなようです。私も今年30才、かのカール・ルイスと同年という事で、来年は気合を入れてマスターズなぞに参加できればと思っています。

山野 和則 (昭59農)

月末に現住所から垂水区 of 山奥に転居することになりました。当日は、その引越のため参れません。皆様によろしくお伝え下さい。

呉竹 正人 (昭59法)

肩の骨折が治ったら、前より速くなりました。

谷水利行 (昭59法)

会社で一気に飲みを強要して恐れられています。飲ませた部下がつぶれてしまい、自宅に泊めるハメとなりました。これでも凌泳発行の頃には二児のパパです。

南谷 昌宏 (昭60教)

本年は日程が違うようで、いつも中学生の大会と重なり出席できなかった月見の宴に、出席できるので大変楽しみにしています。

浦野 敏明 (昭60営)

残念乍ら参加できません。ご盛會を期待しています。私は今年も日本実業団(山形県米沢市)に参加しました。タイムは内緒ですが、金さん、田中さんをはじめ多くの凌泳会の方に会えました。

川島 えみこ (昭60教)

結婚して、ひっこしをして、12月には出産予定です。

黒川 良介 (昭61経)

3年振りにタイムアタックし、50m背泳37秒31でした(倉敷市民体育大会にて)。今の私には妻と子が全てで、妻にはマタニティスイミング、子にはベビースイミングに通わせています。先輩諸兄にはご無沙汰しておりますが、当日は温泉につかっておりますのであしからず。現役諸君の健闘を讃える。

太田 久美子 (昭61文)

私の勤務先はギャガという映画会社です。「ギャグ」ではありません。今度の「凌泳」にはちゃんと正しく書いて下さいね。

島崎 昌彦 (昭62農)

ご無沙汰しております。日頃泳ごうと思うのですが、なかなか時間がとれず、体力の衰えをヒシヒシと感じる今日この頃です。それでもセコく公務員の水泳大会等に出場し、賞品をもらったりしております。

中川 善雄 (昭62工)

来る11月23日、ついに独身にピリオドをうつことになりました。9/21当日は、同伴でできればと考えています。

三好 岳 (昭62法)

現役の皆様、今年も1年間ご苦労さま! 僕も東京へやって来て1年が経ち、元気に過ごしています。最近社は内の試験勉強に明け暮れて、体力が落ちてます。終わったら思いっきり鍛え直すつもりです。東京へ来た時はみなさん、ぜひ連絡ください。当社と某A新聞の宴会狂いメンバーで大歓迎します。覚悟して来てください。それでは……。

木下 憲臣 (昭63教)

たいへんごぶさたしてます。元気でやっています。この4月から職場が変わり、がんばってます。また連絡下さい。

郡 幸雄 (平1工)

当日、会社のレクレーションが有り行けません。来年1月より大阪勤務となるので、後日連絡します。4回生の方は御苦労様でした。よくがんばったと思います。

近藤 直明 (昭63営)

東京5商社対抗戦の幹事役を無事終了し、ホッとしています(三菱商事から関戸直美が出場していました)。10月のジャパンマスターズには、日商岩井としてチーム参加する予定です。

中塚 泰弘 (昭63農)

今回も参加するつもりでいたのですが、仕事の都合で行けません。この日の水球に備えて春

先から秘かに特訓していたのに残念です。御参加の皆様によりしくお伝え下さい。

井 口 恵 理 (昭63農)

すっかり御無沙汰致しております。暑い夏が来る度に、あの六甲台のプールを思い出します。21日は仕事がありますので、欠席させて頂きます。皆さんで大騒ぎして下さいね。

奥 村 直 樹 (平1経)

現役部員の皆様、お疲れ様でした。近頃はトライアスロンの練習に明け暮れる毎日です(勿論仕事もしています)。当日は試合(三重サンベルト・トライアスロン)の1WK前ですが必ず出席致します。

黒 田 茂 (平1農)

卒業して3年、体力の衰えを感じる今日この頃です。最近はなんとか週1回、1時間ほど泳いでいます。思いついた時には近所を走ったりもしていますが、トライアスロン挑戦とまでは……。

川 上 景 子 (平1教)

久しぶりに六甲台をのぞいてみようかな、と思っています。

岡 崎 憲 之 (平2教)

久しぶりに顔を出させていただきます。まだ学校週休2日制は実現しておりませんので、当日は少し遅れるかもしれません。盛会を楽しみにしております。

柴 田 英 之 (平3農)

先日、インカレを観戦しました。水球しか見ていませんが、久しぶりに選手に会って、OB気分を満喫してしまいました。現在10月18日。スキーを買ったので、クラブスキーの際にはさそって下さい。

当 麻 尚 正 (平3農)

学生気分が抜けきれず、常日頃から部員に接しているせいか、OBという実感が湧いてこないのですが、確実に体力の衰えを自認いたしておる次第であります。当日は、関ボロ Jr での吉報を期待しつつ参加したいと思っております。



# マスターズコーナー

## '90年度世界10傑に3名入賞

去る11月に世界10傑ワッペンが到着し、下記の3氏に祝意を込めてお届け致しました。おめでとうございます。

小山賢之助さん (80+短・50平、100平各3位、長・50平、100平各3位、200平8位)

三宅 林さん (65+短・200平10位)

田淵 五郎さん (55+短・100背8位)

## 1991日本マスターズ短水路大会

全国15会場で開催され、関東勢は4会場、関西勢は3会場に出場し、下記の成績を収めた。

### ◎神奈川会場 4月29日 NECグリーン会場

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
小山賢之助	(昭7)	80+	25平	1	24-32	50平	1	1-00-44

### ◎埼玉会場 5月12日 アテナアクアメイツ

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
武政 英幸	(昭39)	50+	200個メ	4	3-05-71	25背	2	18-01
前田 和秀	(昭40)	45+	25背	3	18-95			
岩切 博	(昭46)	40+	200個メ	2	3-00-63	100蝶	1	1-20-46
佐敷 定雄	(昭49)	40+	100自	1	1-03-81	25蝶	2	13-84
男子100mフリーリレー		凌泳会	160+		(前田・岩切・佐敷・武政)		2	1-03-08

### ◎群馬会場 5月19日 江戸川スポーツセンター

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
太田 雅彦	(昭58)	30+	200個メ	1	2-53-40	100蝶	2	1-15-10

◎東京会場 5月26日 江戸川スポーツセンター

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
田淵 五郎	(昭30)	55+	100背	1	1-23-19		2	
武政 英幸	(昭39)	50+	25自	4	14-15	100個メ	2	1-21-02
宮部 高博	(昭42)	45+	25自	7	15-26			
岩切 博	(昭46)	40+	25平	2	17-42	100平	4	1-24-62
佐敷 定雄	(昭49)	40+	50蝶	1	29-70	100蝶	1	1-09-63
太田 雅彦	(昭58)	30+	50背	5	34-45	100背	2	1-15-14
興竹 正人	(昭59)	25+	100自	9	1-05-03			
浦野 敏明	(昭60)	25+	100個メ	8	1-14-42	100蝶	4	1-13-48
安井 啓史	(昭63)	25+	100自	16	1-08-03			
近藤 直明	(昭63)	25+	50自	不明	29-14	100自	10	1-05-48
男子100mフリーリレー	凌泳会	160+			(太田・岩切・佐敷・武政)		2	55-06
男子100mメドレーリレー	凌泳会	160+			(太田・岩切・佐敷・武政)		2	1-00-57

◎兵庫会場 4月7日 N A S ボートピアプール

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
古賀 克己	(昭11)	75+	25自	3	19-67	50背	1	56-68
中井 三郎	(昭27)	60+	25背	3	22-70			
石井 義章	(昭27)	60+	25平	4	21-63	50平	2	48-29
田淵 五郎	(昭30)	55+	25背	1	16-92	50背	2	37-64
安茂 弘	(昭39)	50+	50平	4	40-72	100平	5	1-31-66
酒井 正人	(昭53)	35+	100個メ	1	1-11-74	100平	1	1-20-33
平石 康	(昭53)	35+	50平	3	37-77			
金 一波	(昭59)	30+	25自	2	12-84	50自	1	28-02
藤田 弥門	(昭57)	30+	50平	4	37-50			
山野 和則	(昭59)	25+	50平	7	37-41	100平	4	1-20-60
藤本 栄美	(昭59)	25+	25自	3	14-87	50自	4	33-58
男子100mリレー	凌泳会A	240+			(田淵・石井・中井・古賀)		6	1-11-34
同上	凌泳会B	120+			(金・藤田・平石・酒井)		3	53-13

◎大阪会場 4月14日 おおとりウイング S.S.

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
安茂 弘	(昭39)	50+	25平	2	18-27	200平	2	3-23-87
山野 和則	(昭59)	25+	100自	4	1-04-98	200平	1	3-00-12

◎京都会場 5月19日 京都両洋高校室内プール

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
三宅 林	(昭21)	65+	25平	1	20-22	50平	2	45-86

## ジャパンマスタース'91

10月19日～20日 平塚総合体育館プール

残念なことに、常勝の小山賢之助会長が前日に鼻血を出し、出場を取りやめられた。一方、関西から古賀克己さん、三宅 林さんが参加、入賞。東京からは、離れた会場だったせいか、凌泳会の参加は寂しかった。

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
古賀 克己	(昭11)	75+	50自	6	44-23	50背	5	55-78
三宅 林	(昭21)	65+	50平	3	45-21	100平	2	1-46-48
			200平	3	4-03-85			
田淵 五郎	(昭30)	55+	50背	3	37-75	100背	2	1-26-00
武政 英幸	(昭39)	50+	50背	6	39-16	50蝶	7	34-44
岩切 博	(昭46)	40+	100平	5	1-27-11	200平	4	3-09-60
			100蝶	3	1-22-35			
佐敷 定雄	(昭49)	40+	50蝶	2	29-75	100蝶	1	1-10-15
			200自	1	2-30-28			
太田 雅彦	(昭58)	0+	100背	7	1-20-20	200背	2	2-55-91
近藤 直明	(昭63)	25+	50自	15	28-11	100自	16	1-04-56

注) 佐敷定雄氏は柏洋スイマーズより、近藤直明氏は日商岩井より出場。

## 第4回パンパシフィックマスターズ水泳大会

7月12日～17日 代々木オリンピックプール

6日間にわたる長丁場の国際大会に13名が参加した。関西・中部地区より参加された皆さん、御苦労様でした。次回開催国が、一夕もてなしたニュージーランド・ナイトのビアパーティを、凌泳会チームのミーティングに代えた。

氏名	卒年	区分	種目	順位	タイム	種目	順位	タイム
小山賢之助	(昭7)	80+	50平	1	55-95	100平	1	2-22-49
			200平	1	5-32-82			
古賀 克己	(昭11)	75+	50自	8	46-55	50背	7	55-20
三宅 林	(昭21)	65+	50平	5	46-05	100平	4	1-45-45
田淵 五郎	(昭30)	55+	50背		棄権	100背	5	1-25-57
			200背	6	3-13-36			
松田 司朗	(昭33)	55+	50自	31	36-61	200自	15	3-17-06
			50蝶	16	43-46			
井上 隆史	(昭37)	50+	200背	8	3-18-62	200個メ	19	3-23-35
武政 英幸	(昭39)	50+	200自	13	2-53-68	200個メ	12	3-13-21
岩切 博	(昭46)	40+	100平	16	1-28-03	200平	7	3-09-34
			200蝶	2	3-12-83	200個メ	12	3-06-43
佐敷 定雄	(昭49)	40+	50蝶	1	29-73	100蝶	2	1-09-31
太田 雅彦	(昭58)	30+	200背	5	2-53-50	200蝶	4	3-17-00
呉竹 正人	(昭59)	25+	200自	16	2-34-28			
浦野 敏明	(昭60)	25+	50自	47	29-91	100蝶		棄権



# 現役部員寄稿



## 「壁を越えよ」

主将 藤本克彦

私がこうして原稿を書いている今、フランスのアルペールビルでは、冬季オリンピックが開催されている。

オリンピックは、世界のトップアスリート達の戦いであり、彼らの勝負に賭ける意気込みには、恐ろしいものすら感じられる。それだけに見応えがあり、また勝者と敗者の明と暗もはっきりと分かれる。

このオリンピックを見るにつけ、私は思うのである。我々も、ここまで勝負に執着すべきではあるまいか。そしてまた、競技をする以上、我々は勝敗にこだわらねばならないのである。

ここで、我々が勝利をあきらめる大きな要因として、自分の能力、あるいは才能に限界を築いてしまっているということが挙げられる。今の自分の能力を知っておくことは、確かに重要な事である。しかし、将来の自分の能力を限界という壁によって決めつけてしまう事をしてはならない。それは、競技者として最も消極的な姿である。

競泳において初心者は、自分は初心者なのだから、という甘えは捨てねばならない。また、その種目の二番手、三番手選手は常に、その種目のエースを脅かさねばならない。そしてエースは、彼らに負けぬ力を見せつけねばならない。

水球にしても、リザーブ選手はレギュラー選手をひきずりおろし、自分がレギュラーとなる為、自分をアピールする義務がある。またレギュラー選手も、自分のつかみ取った位置から落とされぬ様、努力せねばならない。

このような競争が、チーム内で絶えず起こっていなければならない。自分の能力に限界という壁を作ることは、このような競争をなくし、チームの実力の向上を阻むことにつながるのである。

以上、当たり前のことを書いてきたが、この、ともすれば忘れがちな当たり前のことを再度確認して、練習に励んでもらいたい。

## 考 えて 泳 ぐ

競泳主任 中 畑 寛 之

英国のムーアハウスは、「泳いでいる時、相手を見るか?」という質問に笑顔で、「Noだ。だって僕は前にいるもの」と答えた。87年の欧州選手権の時だ。このように言える彼の實力と自信は、彼が今まで行って来た「練習」がもたらしたものだだろう。それらは更なる「練習」を要求したり、より確かなものになっていく。「練習」をしなければ進歩はないし、どんなに優れた才能も開花することはないだろう。「練習」を行うものだけが、自分の望みを達成し、自分の未知の力を引き出すことが出来る。

しかし練習することは、つらいことでもある。特に、ただ何も考えずにこなすだけの練習ほどつらい。つい「自分はベストを尽くした。限界だ」と逃げてしまいたくなる。又、練習時間が自分を制約する。ついサボりたくもなる。が、何の為の「練習」であるか常に考えよう。

まず、自己の目標を明確にしなければならない。そして、その為は何をなすべきか、何が出来るかを考える。自分の「練習」がそのために充分かを考える。与えられた練習は、それぞれ何の為かを考える。いつもいつも目標を達成するために、考えることが要求される。努力と、そして自己犠牲も時には要求される。けれども、それらは皆必要なことである。

毎日の苦しい練習が自分のものとなった時、ベストが出たり、優勝したり、はてはインカレに出たり、自分の目標を達成した充実感・満足感を得るだろう。競泳を行い、そして続ける理由がここにあると思う。そしてその為の練習をする事は、苦にならない(肉体的にではなく精神的に)ものと思う。水泳部全員の頑張りを期待したい。

## "We are No.1"

水球主任 西 島 淳 一

・91年、我が神大水球チームは、関ボロJr.辛うじて優勝という形で幕を閉じた。

・92年、私の、いや我々の夢は、そう、その通り、関ボロ優勝である。"やるからには勝つ"この精神である。かつてTVのCMでイワン・レンドルが、"I play to win"と言っていたのを覚えているだろうか。まさにその通りである。"We play to win"これを合言葉に、優勝を狙おうじゃありませんか。

神大水球チームは、No.1しか似合わない。

## 部 員 の 心 得

主務 富村英三

今、神戸大学体育会水泳部は活動しています。と言っても、勝手に活動しているわけではありません。主将がいるからでも、競泳主任がいるからでも、水球主任がいるからでも、主務がいるからでもありません。皆が、一人一人が六甲台プールに現れ、そして去ってゆくから、部員がそれぞれ集まって来るから、水泳部ができるのです。しかし、ただ集まるだけでは、水泳部は無味乾燥としたものと化してしまうだろう。私は、充実していて、しかも自己満足できるほどの練習と、部員一人一人（あるいは集団）に課せられた仕事をいかにこなすことができるかにあると思います。前者は両主任に任せることにしまして、後者を論じることにします。

水泳部の仕事というのは学年により違いますが、全て同じ目的を持っています。我々に課せられた仕事は、全てが全て水泳部が心地よく活動するためのものなのです。たとえ一人が仕事を怠ったとしても、何らかの形で水泳部の活動に影響を及ぼすだろう。部員一人一人が、どんな面倒臭い仕事でもどんなちょっとした仕事でも、他人に真似のできないほど誠意をもって取り組んでくれることを願ってやみません。今年一年、共に頑張りましょう。



## 卒部の辞

(平4 経) 青木 浩介

試合の<sup>たたかい</sup>終わりし後に酒交わし 肩組み合いて歌う商神

(平4 経) 一越 健治

冬が終わりを告げ、5度目の春の訪れを急速に感じる。もうすぐ水温1桁のプールに入らねばならぬ嫌な季節であり、シーズンの始まりでもある。しかし寂しいことに、私はもうそうした気分を味わうことは無いだろう。桜が咲き乱れる頃には、私は社会人として、また新たなスタートを切っているはずである。

4年間という短い間であったが、このクラブで過ごした数々の懐かしい思い出は、私の大学生活をこれ以上ない程充実した輝かしい時として彩ってくれた。逃げ出したい程苦しかった事、つらかった事の方が強く印象に残っている、というのがなんとも不思議である。

この間水泳部は毎年、幹部の方針や時代の移り変わりに伴い、ある程度の変化、というか成長を遂げてきた。競泳面と水球面の分離などはその一つであるが、しかし一方、この様にクラブがその時々々の状況に応じ、勝利を目指して発展を遂げる過程で、犠牲にし、失ってきているものも私の目に付く様になってきた。その一つとして、私は弱者、この場合では主に初心者やクラブに馴染まない者の扱い方を指摘したい。

はっきり言って競泳はもちろん、水球でも、初心者が4年間で一流の選手になるには、本人の努力やセンスだけでは克服しきれない部分が多すぎると思う。我々は楽しむ為ではなく、あくまで勝つ為に練習している事もわかっている。しかしもう少し自分達がかつてしてもらった様に、助けの手を差し伸べてあげられないだろうか。そのわずかな支援・応援を励みに、彼らはより一層頑張れるのである。軽く声をかけてもらい、アドバイスしてもらっただけで、へたくそな初心者達がそれまで感じていた疎外感、180°クラブへの愛着へと変化するのである。もちろん皆に悪意がないのはわかっているが、水泳部の事を考え、チームの和を尊び、個々が上達する為に必死になればなるほど、現実には彼らを見捨て、邪魔者扱いする結果になるのである。が、きっと彼らから逆に学ぶ事も多いはずである。自分自身が初心者として受けた恩を思い返すと、とても水泳部に恩返しできたとは思えない。反省しきりである。

水泳部は何でもできる所でした。いろんな事をし、いろんな人と接し、それを通して自分なりに自信を得ました。バカのままですが、おかげで明れて社会に飛立つ事ができそうです。

後輩諸君には次の言葉を送らせて頂きます。「人間誰にでも劣等感はある。人間誰にでも自尊心はある」。頑張って下さい。

#### (平4 工) 井上 聡

とうとう私の延べ10年間の水泳競技生活も終わった。

入部したときからOBのようだとされた私も、とうとう本当のOBになってしまいました。

思えば中学に入ってから、夏の間には遊んだという記憶はほとんどなく、いつも狭いプールの中にいたような気がする。そんな生活が嫌になって辞めようかと思ったときも一度や二度ではなかったが、今は続けてきて良かったと思っています。

神大水泳部での生活を振り返ってみると、決して満足のいく結果が残せたわけではないですが、色々学ぶことが多かった4年間でした。

いま思えば、もっと努力をすればよかった、もっとクラブのために働けばよかった、どうしてあの時、あんな記録しか出なかったのだろうと思うこともあります。この4年間は、いままでの中で一番充実した時期でした。幹部として自分のことだけを考えてはいられなくなり、水泳が個人競技であってもチームとしてのまとまりが大切であるということを知り、貴重な経験になったと思います。

最後に、お世話になった先輩の方々、4年間一緒にやってきた同輩たち、自分勝手にいい加減な私に、先輩と言うだけでついてきてくれた後輩のみんな、どうもありがとうございました。

#### (平4 教) 加藤 有道

初泳ぎをしている水泳部をみかけ、ふと泳ぎたくなり、モジモジしながら西尾の所に入部の由を伝えたのが、つい先日のように思える。あれから、あっという間に一年間が過ぎた。他の四回生に比べるとあまりに短かすぎる部員生活ではあるが、その分、自分のやりたい事を思い切りできたという気がする。

入部当時は、クラブの雰囲気がかめず、妙に染谷も怖く感じられ、勝手に休もうものなら、めちゃくちゃおこられそうなので、筋肉痛でガタピンという体をひきずって練習にでたものだった。しかしやるからには速くなりたいという思いは、人一倍強いと自負していたので、常に体力の限界へと自分を苦しめるように心がけていた。けれども、こんな事は決して一人ではできない。仲間がほしいというのが、私の第2の入部理由だった。大学では様々な人との出会いがあったが、当り障りのないそのつき合いには、何か物足りなさを感じずにはいられなかった。ある目的に向ってお互いの気持ちがぶ

つかりあう仲間がほしかった。そんな期待に応えてくれた水泳部のみんなには、感謝の気持ちで一杯である。

途中入部ということもあって、あまりに先輩らしからぬ四回生であったが、これから水泳部を背負って立つみんなに一言、二言。

速くなりたくば、人一倍練習しなさい。好きこそものの上手なれ！速くなりたいという気持ちが必ず速い泳ぎを生み出してくれます。大会での泳ぎは、一発勝負の賭けではないのです。私は常にこれだけのタイムで泳げる、と言えるようになってください。

もう少し早く入部していれば、もっとタイムを上げることができたかもしれないと、少し悔しい卒部生より。

#### (平4 営) 城 一 男

ありきたりの質問だが、「学生時代に何をやったのか」と聞かれると、やはり「クラブ活動」と答えてしまうだろう。それくらい多くの時間を費やしただけに、思い出もかなり多い。

私の場合は、楽しい思い出というよりも、つらい思い出の方がすぐに浮かんでくる。プールの水が冷たかったこと、練習がとてつもなくハードだったこと、よく途中で挫折することなく最後までやってこれたと思うくらいである。これも水泳部の居心地が良かったからかもしれない。この居心地の良さは、ずっと残してほしいものである。それには、他人のことを理解しようと務めなければ難しいだろう。自分の考えを主張することは大切なことだが、他人の意見にも耳を貸し、理解しようとすることは、さらに重要なことではないだろうか。水泳部員全員が相互に理解できれば、水泳部全体が次のステップへと進めるのではないだろうか。

水泳部は体育会に属し、水泳はスポーツである以上、実力のある者がヒーローになるのは当然のことである。そのヒーローには、メンタルな面についても勉強して欲しいものである。

#### (平4 理) 染 谷 光 裕

あらためてここに書くことなんて、よく考えると何もないなあ。クラブについて俺の頭の中にあることなんて、合宿とか試合前後、それから練習の前後のミーティングで、みんな嫌という程聞いているだろうし、その他諸々についての俺の考えなんてのも、聞きたい奴には俺の下宿なり飲み屋なりでいつも話してるしね(別にたいしたことないけど)。

しかし、それにしても愉しかったなあ。なんでかなあ。誰か教えてくれ。

(平4 工) 高岡 英一郎

時間だけは誰の上をも同じように流れているらしく、自分にもこれを書く順番が回ってきました。

今になって考えてみれば、自分のようないいかげんな者が水泳部を4年間も続けられたのは、はじめて訪れた日の六甲台プールが掃除した直後で奇麗だったせい、ではなくて多分、いろいろな人に出会えたからなのでしょう。中・高と少ない部員で活動してきたため、先輩がたくさんいたことや、さまざまな先輩がいたこと。年を追うにつれ増えてゆく後輩というのは、何とも言葉には表わしがたい感慨深いものだったようです。

自分にとって水泳部とは、私の精神的な問題のゆえに大学生活の中の一部でしかありえませんでした。その中で見、聞き、動き、考えたことが内面の成長に大きく貢献してくれたと思っています。

冬になれば、まず姿は見られないという点では、恐らく歴史の中でも最も練習に対して不まじめな部員だったと思う私ですが、放っておけばそのまま消えてしまいそうだった私を、春が近づくたびに呼び戻そうとしてくださった水泳部員の皆がいたことに感謝して、私の卒部の辞とさせていただきます。

(平4 法) 安居 武彦

あっという間だった4年間を終え、今の気持ちを一言で表わすとすれば「後悔」であろう。「何を情けないこと言ってんねん」と思われる方が多いだろうが、これが今の素直な気持ちなので勘弁していただきたい。

私は今、様々な「後悔」をしている。もっと勉強すればよかった。もっとバカやってもよかった。あの時あの娘に告白すればよかった。学連ももっとがんばれたのではないか。そして何よりも、水球競泳の練習・試合において、もっとがんばれたのではないかと。実際にやっている時は、自分なりに精一杯やっているつもりだった。しかし、泳いでもあまりベストは出ず、最後までボールは手に付かなかった。そして今、振り返ってみると後悔の念しか湧いてこない。私は自分に甘かったのだろう。

ただ、私が一つだけ後悔していないのは、水泳部に入ったことである(もっとも、後悔していたら今頃卒部の辞など書いていないだろうが)。私は「水泳部」というバッジをつけていることを誇りに思っていた。このバッジは、大学生活における最高の勲章であり、今後も決して色褪せることのない思い出となるだろう。

最後になりましたが、頼りない私にいろいろと御指導くださいました諸先輩方、さんざんおもちやにしてくれた先輩・後輩達、陰ながら(?)私を支えてくれたすばらしい友に、心から感謝の意を表し、筆を置きたいと思います。

(平4 教) 宮下 静子

中学・高校と学校で体育系のクラブに入れず、書道部(えっ、以外だなあ?)に甘んじていた私は大学に入ったら絶対に体育系のクラブに入ろう、と決めていた。テニスにしようか、それとも……と思っているうちに、友人Oさんに、たまたま見学に行かないかと誘われたのが水泳部であった。最初にプールを見た時はゲゲッと思ったが、諸先輩方がとても良い人ばかりで、そのまま居着いてしまったのであった。

入部した初日から、見るからに体育会系だと言われ、多少ショックを受けたが、それにもめげずバワ全で頑張った。あの時にステージの前列に陣取っていた先輩の声は、今でも忘れられない。そのまま私のイメージが定着してしまい、今に到っているのだが……。

4年間を振り返って見ると、本当に後悔の連続であった。体を壊すと何もできない。腰痛、胃炎など数々の病気に悩まされつつ、本当にこのまま運動を続けられるのだろうか、ずっと思ってきた。同回生には特に迷惑をかけたと思う。本当に、選手を続ける上で、自己の健康管理が如何に大事であるかを身にしみて感じている。

1回生の最初のシーズンで、1日5試合も泳ぎがなくてはならないと知った時は愕然とした。これが大学の水泳なのかと思ったものである。競技の中ではリレーが大好きであった。一番やるぞという気になったのがリレーだったのである。元来、お祭好きな私は、リレーの応援をしたいと、プールサイドに立ちながら思ったこともあるが、応援をされている自分を盛り上げ、メンバーを盛り上げ、プレイに全力を出して向かい、その後で皆で喜びを分かち合うのが好きであった。団体競技としての水泳の楽しさを実感したのであった。関ボロでは、応援する側ではあるが、京大に勝った時などは本当に嬉しくてたまらなかった。一人一人自分の役割を把握し、それを確実に実行にうつすことによって、皆の達成観に繋がるのを実感した。

神大では不人気な学連での活動を通じて、他大学の部員と接する事も多く、良い経験をさせてもらったと思う。大会運営という、いわゆる裏方の仕事で本当に気苦労の多い事もあったが、一つの大会を開くことは大変な事であるということがよくわかった。ただ、4回生になっても朝早く行かなくてはいけなのはちょっと辛いものがあった。(これは、単なる愚痴である)。しかし今、どの大学でも言われていることだが、段々と体育会らしく無くなってきているのは否めない。私も、えらそうなことは言えないが、礼儀とけじめだけはきちんとしなければいけないと思う。クラブは部員全員で作りに上げていくものである、規律というのは付いてまわるものである。多少の我慢も必要だし、間違った意見には勇気を持って否定することも必要なことだと思う。

以上つらつらと書き連ねてきたが、こんな我儘な私が水泳部員としてやってこれて、このように卒部の辞を書いているのがとても不思議な気がする。最後に言いたい事が二つある。

① 学生として、水泳部員としてしかできないことを、何かおもいっきりやろう！ 努力してつかんだ栄光は、その苦しみが大きい程、より素晴らしいものとなる。

② 自分の体の事は自分が一番良く分かるはずである。きちんと健康管理をすることは、好記録に繋がる為の第一歩である。

本当に4年間ありがとうございました。御迷惑をおかけした諸先輩方、同輩、後輩、皆様に感謝しております。今後の皆様の御活躍をお祈りしております。

P S . 今後は、名前と正反対等とは言われぬように振る舞っていきたいと思って居ります（無理かな……）。

（平4 営） 村 本 由 里 子

卒部の辞を書くにあたり、今こうして改めて水泳部での生活を振り返ると、苦しい練習、緊張の連続だった試合など様々な出来事があったが、本当に「アッ」 という間の4年間であった。

思えば4年前、全くの初心者であった私が、泳ぎたいという一心で神戸大学水泳部の門を叩いた。最初は25mを泳ぐのがやっとで、このまま続けられるかどうか、常に不安な状態であった。しかし、後呂氏、甲野氏、郡氏ら諸先輩の熱心な御指導により、なんとか練習メニューをこなせるようになった。この場をおかりして諸先輩方にお礼を申し上げます。

泳げるようになったとはいえ、泳げることと速く泳ぐことは全く別で、あまりに遅いため片身が狭く苦悩した。先輩方や同回生たちにアドバイスしていただいたり、自分なりに研究したりと努力してはみるが、思ったようなタイムが出ず、挫折しそうになることも多々あった。そんな時、励まされ、がんばろうという気を起こさせてくれたのが、同じ初心者として入部した同回生であり、後輩達であった。

水泳に対して悩んでばかりいた私も、いつの日か水泳の楽しさ、おもしろさを感じ始めるようになっていた。しかし3回生の春、ある出来事を契機として精神的疲労が頂点に達し、ちょっとした対人恐怖症に落ち入ってしまった。この時は、本当に水泳部を辞めようと決意した。しかし、そんな時に自分を支えてくれたのが同回の仲間達であった。毎晩励ましの電話をかけてくれた。皆、一生懸命誠意を尽くして、こんな私でも、水泳を続けるよう引き止めてくれた。この時程、本当に仲間という存在の大きさを痛感したことはなかった。仲間がいなければ、4年間を水泳を続けられたかどうか、疑わしいところである。

私は水泳に関しては、後輩達に何一つ言える事はないが、ただ、「仲間は大切にしてほしい」という言葉だけ言いたい。それが言いたいばかりに、ダラダラと書いてしまった。確かに水泳は個人スポーツであるかもしれない。しかし、私たちは神戸大学水泳部の一員であり、独りきりではない。BE

S Tが出なくて落ち込んだ時など、励まし合い、応援してくれる仲間がいるのである。そんな仲間を大切にしてほしい。

(平4 営) 山口 明子

四回生になってまもなく、筑波での水球合宿を終えた時に後輩のマネージャーが、「私、今回の合宿で水泳部が楽しくなったんですよ。先輩が何でマネージャーを続けたのかわかったような気がします」と言ってくれました。その一言で私は、それまでひどく中途半端で宙ぶらりんでいた水泳部に対する気持ちから救われることができました。後輩に水泳部を好きになってもらいたい、練習や試合のしんどさ以上の楽しさをわかって欲しい、ずっとそんな風に思ってきました。今でもそう願っています。でも私が下級生だった頃に、多くの先輩方が教えて下さったようには、うまく伝えられないことが、とてももどかしかったです。

水泳部を引退し、すっかり水泳部にはまってしまったこの夏を振り返っては、アツくなっていた自分が照れ臭く、こそばゆい。そのくせミョーに涙ぐましい気分になったりしている今日このごろです。水泳部は私にとって、大学生活の一部でしかありえない、と冷めて構えているのがかっこいいと思っていたはずなのに……。

現役の頃はもちろん、卒業されてからも限りなく優しい先輩方と、わがままな私にあきれはてていたに違いないけれど、それでも見逃してくれていた同輩達と、年下のくせにヘンに励ましてくれて、くじけそうな私を元気にしてくれた、かわいいかわいい後輩達を与えてくれた水泳部が大好きです。

本当に、どうもありがとうございました。

(平4 松隆) 飯田 正子

中学の時からの、どうしても叶えたい目標がありました。目標を目標のまままで終わらせてしまった6年間に悔いを残し、のほほんとした短大生活に物足りなさを感じていた頃、神戸大学水泳部を紹介されました。

最後のチャンスに賭けてみようと、水泳部の門を叩いたわけですが、入部当初は、とにかく驚くこととていっばいでした。プールに部屋にコンパ・パワ全・自己紹介。「何なんだ?」と頭を悩ますことも多々ありましたが、それがやがて楽しく、居心地がよくなってしまうのだから、月日というのは不思議なものだと思います。競技成績の方はあまり芳しいものではなかったのですが……。これは自分の練習姿勢に問題があった為だと考えています。

本当に僅かの間でしたが水泳部を通して、多くの人と出会えたこと、頼もしい先輩方・後輩達、そして何よりも誇るべき個性豊かな同輩と出会えたこと、これは最大の収穫でした。

最後に — 何も残らないはずだった私の短大生活に、たくさんの出会いと思い出を与えてくれた神戸大学体育会水泳部に感謝の意を表すると共に、今後の皆様のご健闘をお祈りします。

(昭62 農) 原 田 久富美

とうとう9年間にわたった長い学生生活が終わった。当然、これまでとは神大水泳部との係わり方も変化してゆくだろう。その前に、神大水泳部で過ごしてきた9年間を振り返ってみたい。

神大水泳部で水球と出会ったことは、私の大学生生活を非常に豊かにしてくれた。それまで、他人に勝ちたい、早く泳げるようになりたいと思いながら、プールの往復を繰り返す競泳しか経験のなかった私には、ボールを扱い縦横に泳ぎ回る水球は非常に新鮮で魅力的だった。当時水球は、競泳の試合が少ない春先と夏の終わりにしか練習しておらず、また、春先の六甲台プールの冷たい水の中でウェットスーツもなく、競泳の練習が終わってから水球の練習を始めていたので、下手で、面白さのわからない新入部員には特に、水球は甚だ不人気であったように思う。また、ほとんど水球経験者がいなかった部内では、水球だけをやりたいという希望は、ほとんど受け入れられなかった。私自身も3年生までは、リレーメンバーに入りたい、もっと早く泳げるようになりたい、という思いが依然として強かった。

しかし、神大の水球チームが、高校生に負け、関東リーグの2部下位校に負け、関ボロで京大に勝てなかったことは、私には余りにも悔し過ぎる事実であり、自分のチームが弱いことは非常に不満だった。水球主任になった時には、神大の水球をもっと強くすることが、私の最大の関心事になっていた。そこに、卒業の年の4月に、非常にタイミングよく田中さんがアメリカ留学から帰国され、神大の水球のコーチを引き受けていただけることになった。田中さんのコーチングに対する熱意、戦術に対する知識、チーム作りのうまさで、シーズン前には一層の弱体化が危ぶまれていた神大チームは、力をつけて、'87年にもそれなり成績を残すことができた。この田中さんがいた'87年に、現在の神大の水球チームの方向づけが決まったと思う。そして、私は田中さんのコーチングを真似することでコーチとしてスタートすることが出来た。

コーチをしていた最近の5年間の神大チームを大まかに振り返ると、'87、'88年は、ボールを持つプレーヤーにたいする徹底したマンツーマンディフェンスと強いフローターของทีม、また'89、'90年は、それに加えて相手フローターを抑えられるフルバックと、得点力のあるドライバーのいるチーム、そして'91年は、6人全員にある程度の泳力と得点力、ディフェンス力があり穴が少ないチームだったように思う。その時の水球主任のチーム作りの結果がみごとに反映されており、確実に強くなってきている。しかし最近5年間の戦績では、関ボロ、三商大では、ほとんど2位ばかりで、優勝経験は'91年の三商大戦と関ボロJr.だけで、誇れるものは少なく、自分自身のコーチとしての未

熟さを感じます。しかし最近、上位校同士の力の差が縮まり、乱戦気味の関ポロで安定した成績を残してきたことは、共に優勝を目指して何年も厳しい練習に耐えて頑張ってきた後輩諸君の輝かしい記録であり、それを分かťことが出来たことは非常にラッキーだったと思います。私は神大の水球コーチとして、素晴らしい戦績こそ残せなかったものの、神大の水球チームが強いチームとなるための条件を整えるという仕事はできたように思っています。

ここで話は変わるが、水球チームの独立を進めた当事者の一人として、説明をしておきたい。私がプレーをしていた大学4年間には、関西ポロリーグ戦の誕生、阪大、京都教育、関学が水球を始めるなど、関西の大学水球が新しい方向へと進み、その底辺を広げてゆく時期だった。その頃は、プレーのレベルも低く、チームの力の差も歴然としており、試合前からその順位もほぼ予想できた。ところが卒業後の5年間では、関学、市大、阪大のレベルアップはめざましく、さらには立命が、スポーツ推薦により有力選手を獲得して優勝するなど、プレーヤーの実力が大幅にアップしてきているばかりでなく、上位校同士の力が均衡し、戦略やゲーム展開で勝敗が左右されるようになり、試合が非常に面白くなってきている。

このような状況は率直に言えば、各チームの水球経験者が増えることにより生じている。さらに現在では、レギュラーメンバーとなるためには、水球初心者ばかりでなく、水球経験者でさえもかなりの練習を必要とされる水準までレベルが高くなってきている。従ってチームをもっと強化するためには、じっくりと腰をすえて練習できるようにすると同時に、競泳をあまりやりたがらない水球経験者も獲得することが大切である。このためには、水球独自のシーズン計画をたて、力のある新人を獲得し、かつ不断の練習によりプレーに磨きをかける体制を確立するためには、水球チームを独立させることが必要と思われたからです。(水球チームのメンバーは、その辺の事情を理解して、現状に甘えることなく練習に励んで、ぜひ日体大のような常勝チーム目指して頑張ってください)。

最後に、神大水球部は、本当に魅力ある人物に出会える場所だった。異なる考え方を持つ人と議論を戦わせたり、思いを同じにする人に自分を確認したりすることが出来た。先輩方から多くの愛情を注いでもらい、ほんの少しだけ後輩をかわいがった。人としての基本の多くを救えられ、鍛えられて、すこしはまともになれた。水泳部が私の大学生活の中心だった。水泳部のみんなに感謝したい。



## 現 役 部 員 紹 介

おなじみ2回生による現役部員紹介です。



(4回生)

家 門 秀 行：理4：平：宝塚北高

「かもんきーん、今日車ですう？」「あ、阪六までやったら行くよ」久々に来た彼に、歩き面はここぞとばかりにたかる。実は、彼は水泳部の「アッシー君」である。「月見の宴」当日、「火加減もうちょっと弱くして」「それ！切り方がちゃうやろ！」おでん作りに精を出す彼は、実は水泳部の「メッシー君」でもあった。残る1つ、「ミツグ君」が足りない彼、今年こそは彼自身を水泳部にミツイでもらいたいものである。

下 坂 浩：理4：水球：成蹊高

「俺は同回の間で全然権力ねえから」と口ぐせのように言われるが、そうは見えない。一・二回生にもどしどし注意される。一・二回の頃はよくクラブをさぼったらしいけれど、「今オレ、めっちゃマジメ」と言ってるのが真実だとすると、昔、彼がどれほどすごかったかがしのばれる。見習いたいものだ(オイ、オイ)。クラブではけっこう厳しい先輩だが、普段は融通のきく優しい先輩である。後輩からも非常にしたわれている。水球では、彼と同じポジションにカドという超(顔)大型新人が入ってきたので、なかなか苦しいものがある。が、そいつはパートタイム・ステューデントなので、彼にも活躍の場は今後も大いにある。頑張ってほしい。

富 村 英 三：営4：背：明星高

やあ、はくとミー。水泳部内恋愛教の教祖さ。僕のすてきなハニーは、マネージャーのあの娘さ。みんなは、あの娘のことをいろいろ言うけど、あれでけっこう可愛いさ。もう体力もついてきたし、月曜日の練習もOKさ。僕ってばシティボーイだし、車は2台持っているし、家も新築したし、それに灘区に別荘だって持っているさ。そうそう、僕にはクローンもいるんだ。雄三って言って、2人合わせて英雄さ。でも、1人じゃただの英三さ。あっ、もうこのくらいにしとかないと、あの娘におこられちゃうから。じゃ、バイバイ。

中 畑 寛 之：教4：自：豊橋南高

今年競泳主任となった彼は、水泳部のお父さんである。今回は彼の息子の作文を紹介することにしよう。

「僕のお父さん」

僕は将来、お父さんみたいな人になりたいです。僕のお父さんは今年、競泳主任というのになりました。何のことかよくわからないけど、このごろとってもたよりがいが出てきて、僕もお母さんもとっても心強いです。お父さんは、僕をかわいがってくれるし、お母さんをすごく大切にしています。僕はそんなお父さんがじまんです。お母さんも、大好きだって言っています。僕も将来は、お父さんみたいに、子供の見本になって、お嫁さんを大事にするお父さんになりたいです。 おわり

西 島 淳 一：教4：水球：茨木高

新勢力である革新派の教祖と呼ばれた彼であるが、とうとう今年是水球主任となった。良いか悪いかはわからないが、画期的な練習日程及び内容を取り入れて、とりあえず関ボロJr優勝に導いた功労者である。しかしoffシーズンから、風は吹いていないにもかかわらず、彼のまわりにはガツガツ強い風が当たるようである。ところで注目の女性関係では、彼からはあまり明かさないが、一番派手ではないかと、水泳部全員がかたく信じている。いずれにせよ今年、彼にとって最後の年なので、水球においては時おりビッグプレイをみせてくれると信じている。「ヒューム」。

藤 本 克 彦：農4：平：畝傍高

彼の本名は藤本バ。天下の凌泳七十年史に載っているのだから間違いない。誰もが彼のことを犬だとはばかり思っていた。が、何と主将だったのだ。どこからともなく響いてくるバリバリという原チャの音。次第に大きくなる。鼓膜が破れそうだ。ブブブ、ブスン。おや、はるか彼方から近づいてくるのは、もはやカンチ、と思いきや、一匹の犬であった。何とものどかな昼下がりの六甲台であることよ。きまわけのない私達を抱え、主将である彼の苦勞もひとしおであろう。それを麻雀で紛らそうとする彼の姿を前に、熱いものがこみあげてくるのは、私だけではあるまい。神大水泳部主将兼ウィンターズ会長という重役ポストにつき多忙な日々をおくる彼、そんな彼に心から大きな拍手を送ろう。

藤 本 博 之：教4：自：三田学園

二回の女子メンからは「三田さん」としか呼ばれなくなってしまった、かわいそうな彼。彼の第一印象である「真面目な藤本さん」というイメージは、時がたつにつれ「おたくの三田さん」へと変形してゆく。このことを否定する彼であるが、知れば知るほど確信してしまうのは私だけではあるまい。突如、誰も知らないような、なつかしのアニメソングを歌い出し、周りの度胆を抜くのは彼の得意技である。又、女と見れば、あたりかまわず「俺様の嫁になれ」「ほれるんなら、俺にほれろ!!」と口走っていた彼であるが、本命のところはどうであろうか。今年「巨人の星」から「ロングのエース」へと応援歌も新しく考案されたこ

とだし、ますますロングのベスト記録を更新してくれることであろう。

井上 優子：文4：自：彦根東高

復活した彼女のパワーを見よ!! JADEを乗り回し、男もののジーパンを切らずにはきこなしてしまう彼女に、恐れるものは何もない。さっぱりとした性格の男っばい先輩であるが、ふとした時に見せる、とてもやさしい面も持っている、とてもかっこいい先輩である。秘められた、量り知れないパワーを胸に、ちくちくと本領発揮の為に泳ぎこんでゆく彼女。中山さんと共に神大女子メンをひっぱって行って下さい。

魚住 香子：マネージャー：神戸女

いつもにこやかで、男っばかりの時が多いコンパにもよく出席してくれる、ありがたいマネージャーさんです。また彼女は、英語がペラペラらしく、これから留学して国際結婚しようと思っているかどうかは知らない。まあ、こんなバカな話はおいといて、吉元さんとともに、マネージャーのリーダーとしてがんばってもらいたい。

中山 祥子：法4：自：豊中高

実家が池田にあるというのに下宿をしている彼女も、今では「おかあさん」として、水泳部になくなくてはならない存在となっている。彼女は又、神大牛乳会うしちちのメンバーの一員として、その名をとどろかせている。泳ぎとなると、女子メンの重要なホープとして活躍し、笑うととてもかわいらしい。今年も女子主将として、がんばってくれるだろう。しばしば「おとうさん」と共に教養へごはんを食べに現れ、いっしょに原付で去っていく二人に、我々は「長老夫婦に幸あれ!!」と言わせていただきたい。

吉元 佳津子：工4：マネージャー：中津南高

入学当時ふっくらしていた彼女も、マネージャー業、学業、その他もろもろをこなすうちに現在の姿になった。高温期でも35度ぐらいしか体温が上がらないように見えるが、T氏によれば、手はあったかいそうである。四回生になり、名実ともに水泳部の最高実力者となった彼女ににらまれた日には、その選手生命が終わるといっても not too much to say である。何はともあれ、仕事はできる、選手には親切、しかも美しい彼女は、マネージャーとして欠かせない人物である。今年もストップウォッチ1号・2号をフル回転させて、頑張ってもらいたい。

(3回生)

上山 敏正：経3：背：清風高

彼はコメオ。彼はバックのエースにしてフリーの短距離も強い。水球もうまい。しかし、いずれももうひとつらしい。要するに中途半端なのだろう。その中途半端さ、気の弱さが麻

雀で裏目に出る。「神様、仏様、上山様」と呪文を唱えられる。ふりこむ、金を置く。この一連の動作は実にいたたまれない。しかし彼には金ヅルがあるから、いくら負けてもいいらしい。結婚詐欺をしている、という噂さえ聞いたことがある。黒い噂の絶えない彼だが、こんな彼に多くの人が期待しているのは事実である。

木村 一也：理3：水球：茨木高

木村家の長男。茨木市北春日丘自治会の住民の間では「お坊っちゃま」で通っている。欲しいものは何でも（あっ、間違い）すぐ手に入る。バイクもあるし、この前もついVOLVOを衝動買いしたらしい。ただの坊ちゃんならまだ許せるが、水球が上手いときてるから、たちが悪い。怖いもの無しである。しかし、1つだけ彼がこの世で恐れているものがある——Daddy。（私も彼については、後が怖いので減多なことは書けない）。それ故、一也氏にとって家族会議ほど怖いものは無い。近々後輩のPが一也氏の弟と結託して、彼を会議にかけようとしているらしい。今後の展開が楽しみだ。今年も神大にキムラあり、とうたわれることだろうから、敢て期待はしません。

高倉 信之：営3：自：日田高

某月某日、クラブへ行こうと（彼の頭の中に授業の2文字はない）下宿の階段を降りて行くと!? ☆ ○ 愛しの原付の様子がおかしい。よく調べてみると、エンジンと後輪が無いではないか！ 仕方がないので定期&バス通学を始めたと思ったら、中古のDJ1を買ってしまふ。彼の金銭感覚は我々とは少し違うのだ。しかしながらDJ1は彼の体重を支え切れず大声で泣いている。最近、大金を積んで泣き声を小さくしたようだが、なんともあわれである。そんな彼もプールに入れば、水を得たトドのように泳ぎまくり、ロング面のエースの座をねらっている。今期の彼の活躍も期待できるであろう。

西尾 泰紀：経3：平：滝高

雨の日も風の日も毎日毎日筋トレをしている彼には、筋肉がない。それを気にして連発する「肉くれー」という言葉を、筆者は数回体験したが、その時の彼の目は実に恐ろしく、逃げ出したものであった。それほど鬼気迫るものがあったのを覚えている。一方で、彼は無類の女好きでもある。数々の武勇伝をもっているらしいが、その実体は明らかではない。またその他の彼の特徴として、突然歌い出す、突然怒り出すなど、不可解な行動が多々あげられる。そして、これらのことを総合してつけられたあだ名「チンパン」は、あまりにも的を得ている。しかし彼は、水泳部のムードメーカーにしてブレのエースである。その練習熱心さは、ただ散服するばかりである。それにしても外見と性格が恐ろしく一致しているように見えるのは私だけであろうか。

松島 英樹：経3：水球：修道高

次期ウインターズ会長の座は確実といわれていた彼だが、こともあろうにウインターズを「除名」されるはめになってしまった。が、そんなことにはおかまいなく、愛に溺れた生活を送っている彼を、かつての彼の姿から誰が想像できたであろうか。コンパでは、周囲の目をもかえりみず二人の世界を形成し、一次会が終わるとともに消えてゆく。その他数々の逸話があるのだが、とてもここには書けそうにないことばかりなので、やめておくとする。そんな彼ではあるが、水球における実力には素晴らしいものがあり、今年も神大水球陣、そしてまた競泳陣の柱としてもがんばってくれるだろう。

山田 基洋：経3：自：小松高

一見、目が座っていてコワソーなお兄さんに見える彼は、人なつっこく、下ネタの好きな兄ちゃんである。彼の目、体格と、合っているのか、そうでないかはまかせるとして、勉学に、練習にも熱心で、活動範囲も、異国の方々、新開地の方々、ヤのつく商売の方々と、彼の精力にはほぼ比例しているといえる。又、普段はおとなしい彼が、彼の雀友Gが「麻雀やめる」と言ったときに、つい「なめとんのか、われ！」と激怒し、ヤっちゃんとの交流を暴露してしまったのは事実であろうか。昨年は自己新記録を出しまくった彼だが、今年もバンバン出して、ロング面、ひいては神大水泳部を引っばって行ってほしいものである。

吉岡 晋一：経3：自：芳泉高

彼の名はガルシア。宇宙からの留学生であるが、地球に何をしに来たかは定かでない。当初は地球征服説が有力だったが、現在は麻雀修業説が意見の大半を占めている。彼は3度のメシより麻雀が好きという麻雀の神の化身で、その顔は麻雀パイ、腕の太さはツキの太さ、私生活は勝ち負けの激しさを象徴している。一方、競泳・水球においても、その宇宙人ぶりを発揮して未だ発展途上であり、これからが大いに期待されている。こんな無敵の彼が唯一恐れることは、彼の名が岡山の友人などに知られることらしい。

上村 麻由美：背：松蔭高

彼女は小さい。そして、つぶらな黒い瞳と、耳のさまざまなピアスが、とってもおちゃめな松蔭のお嬢サマである。しかし、いったん酒が入ると、彼女はやかましい。話の内容も、お嬢サマとはほど遠い。KUBCでしゃべらせようものなら、「ピー」「ピー」雑音が入りっぱなしであること間違いない。しかし専門の背泳となると、その速いことと速いこと。その速さの秘訣は、お得意のバストでリズムをとりつつバランスを保つことではなからうか。今年も同大学のIさんとの楽しいやりとりが見られなくなり残念だが、またプールサイドで我々と共に踊りましょう、ね、上村さん！

北 知寿子：蝶：四条畷高

彼女は、とにかくバタフライが速い。自由形で泳いでも、僕は負ける位である。それもそのはず、彼女は昨年、インカレに出場したほどの速さなのだ。普段はどちらかというとも、の静かな感じの人に思えるが、僕にいつも「表情かわらへんな」と言う。こんなことを言うと、誰が書いたのかわかりそうなものだけど、その通りである。ついでだから言っとくと、「北さんの写真のネガ、もうほかして下さい」といったところだ。

北 野 友 美：法る： 天王寺高

去年の秋、突然六甲台に現れた彼女は、外見とはうってかわって測り知れないおもしろさを秘めた女である。中島みゆきを歌わせたら彼女の右に出る者はいない。一説には、かつてヤンキーだったという噂もあるが、カラオケの時、「ちょっと私の歌、聞いてんの!?」の一言で2回生Pを震え上がらせた、という話を聞くと納得できる。まだまだ謎の多い彼女ではあるが、今シーズンの活躍に期待したい。

武 田 直 子：文る：マネージャー：御影高

月収30万という、サラリーマンもびっくりのかせぎをもっている彼女に、水泳部の男達（S田さんのみか？）は、「ヒモにしてくれー」「嫁に来てくれー」と連発している。又、近頃、灘区に自宅があるにもかかわらず下宿を始めたそうで、貧乏学生ばかりの水泳部で彼女の存在は奇異なものである。今年もバイトのあいまを見て、マネージャー業をこなしてってくれるであろう。ただ結婚サギなぞに合わないかと心配である。

（2回生）

上 田 純 也：経2：自：加古川東高

彼の名はダビ。決して由来は聖書に出てくるようなダビでない。「ダビデのダはダビングのダ、ダビデのビはダビングのビ」と言われるように、彼の趣味からこの名前は由来しているのである。彼はYAWARAの富士子さんから、その高尚なる趣味を伝授され、富士子さん同様いつもサッパリした顔をしているのである。又、いつも泣きそうな顔をしているが、その通り、酒をのむと簡単に泣いてしまう。そんな彼だが、自由形にオールラウンドに2回生のエースであり、キャップをかぶると泥棒のような顔に見えたりもする。最近腰を痛めて悩んで涙をこぼすこともあるようだが、その涙を「僕は死にましょーん」にかえて頑張ってほしいものである。「キャンディ、わかんない！」

門 謙 次：教2：水球：茨木高

でかい。この一言につきる。体がでかいのは言うまでもなく、コンパでは「ガハハ」という笑い声だけで、どこにいるのかわかるほどの声のでかさである。また、頭のでかさゆえに

重心が高くなり、幼年期には転んでばかりいたと言うが、それはXLのサイズで、しかも綿をぬいてあるヘルメットをみても納得してしまう。また彼は、水泳部で長者番付にのるほど金をもって、それはLEADからJADEにかわったことでもわかるだろう。そして水球においては、13番の帽子を誰もかぶれないようにして、無理矢理13番の座をしめた。また関ポロ優勝には不可欠なメンバーなので、今年も頑張ってもらいたい。

高橋 一 弘：理2：水球：鳥羽高

「高橋一弘って誰や？」と首をかしげているのは、あなただけではありません。彼の御両親でさえ「一弘君おられますか？」と電話がかかってくると、「うちには一弘なんておりませんえ。ごめんやす」と思わず反射的に答えてしまわれる事が多々あるそうです。それもそのはず、彼は両親がイタリア旅行中に生まれ、当地で洗礼を受けたので、当時のローマ法王パウロⅡ世にちなんでPancho Rorenzo Delgados (パンチョ・ロレンツォ・デルガド) という素晴らしい名前を頂き、現在彼はその名を好んで使用しているからなのです。ちなみに「一弘」という名は、彼のひいおじいさんが真言宗の敬虔な信者であったので、「弘法大師・空海」の「弘」の一字をとって名づけられたそうです。東西各々の賢者にちなんだ名を持つ彼は、ただ者ではありませんまい。今後の彼の活躍をみなさんとともに祈りたいと思います。(P.S. どうでもええけど、チョコレート返せよ)

竹田 匡 志：経2：蝶：畝傍高

彼は意外にオタクである。休みの日は家の中でスーパーファミコンとビデオ鑑賞に熱中する。ビデオの趣味は高尚で、美しいものしか好まない。なぜかはよくわからないが、ビデオデッキが2台あり、それらをフル活用し、我々には理解不能な使用方法で多くの作品を息をあくしながら鑑賞するのである。彼はその高尚な趣味を皆に広げようと思い、とりあえず某教徒D君にその喜びを教えてあげたのである。彼女がいないせいか、レンタルビデオ屋ではゆううつそうな顔をしているが、なぜだかその1時間後にはとてもサッパリとした顔になるのであった。そんな彼も競泳ではバタフライのエース。又、水球でも大活躍をめざして頑張ることを期待したい。

長谷川 哲 也：農2：水球：茨木高

彼は高校時代から水球をしていた為、1回生とはいえ、かなりの実力の持ち主である。特に彼の体のやわらかさは、日本でも1・2位を争うところであり、そのグニャグニャの肩からくりだされるループシュートをとめられるキーパーは、おいそれとはいえない。そんな実力を持つ彼ではあるが、私生活は、パチンコ、競馬に熱をあげ、自慢のマークⅡで六甲を走りまわる毎日である。私としては、彼に早く彼女をみつけてもらい、落ち着いてほしいと思っ

ている。とにかく今年の関ボロの勝敗の行方は、彼のループシュートにかかっている、とい  
っても過言ではないだろう。今年も、あの虹のような軌跡を描く、すばらしいループシュー  
トにお目にかかりたいものだ。

藤川 壮太：法2：水球：茨木高

我が水泳部において唯一、アメリカに水球留学経験を持つのがこの人である。私は留学以  
前から彼のことは知っていたが、アメリカに行き、さらにプレーが良くなったと思う。特に  
反射神経の良さは世界でもトップレベルにあるらしく、アメリカでも“オリエンタル・マジ  
ック”として恐れられたらしい。そんなインターナショナルな彼であるが、留学すること  
によって、持ちまへの口うるささに、さらに磨きがかかったような気がする。私は彼の理論だ  
てた口うるささには一目おいているのだが、時々それが暴走して、ただの理屈こねの嫌な奴  
になる時がある。そんな彼ではあるが、私の長年の良き水球友達として、又、良き水球ライ  
バルとして、これからもうまくつきあっていこうと思っている。

渡辺 雅人：工2：水球：広島学院高

自慢のバイクにまたがり、いつもブイブイ言わせていた彼は、まともや免許をくらい、し  
ばらくそのなりをひそめていた。しかし二輪に対する情熱はさめず、この際、二輪ならなん  
でもいいやと、三宮から六甲までチャリンコで通ったという、無類の二輪好きである。また  
彼は、その顔と広島弁を用いて、女をひそかにはべらすことを計画していたという。しかし  
今は特定の女に身も心もささげている。週末は必ずと言っていいほど彼女の家にピットイン  
し、週があけると必ずと言っていいほど体がボロボロになっている。こんな彼だから、試合  
においては一発専門らしい。今年はその二発・三発と続くように体を鍛え、腰を鍛え、が  
んばってほしいものである。

小笠原 恭子：営2：自：西尾高

彼女の姓は小笠原、名はサム子。「ニシオ電機」の御台嬢である。彼女は寮生であるが、  
いつも練習が終わると、なぜか六甲方面に消えていく。女子寮で彼女を見つけることは、四  
回生N氏が練習に出ると同じくらいめづらしいと言われている。また彼女は、どうやらア  
ルコール分解酵素を持っていないようなので、皆さんどうか手加減してあげて下さい。そん  
な彼女ではあるが、その小さな体からは想像できないパワフルな泳ぎで、数々の試合で入賞  
するなど大活躍である。今年もフリーのエースとしてがんばってくれるだろう。

寺井 美穂子：教2：蝶：石山高

全国国公5位6位、インカレでも大活躍、何を泳がせても歴代5位に入ってしまう彼女は  
とうとうS氏の女歴リストにもその名を残してしまった。子供扱いされながらも大人扱いを

され、最近隠し子がいることが判明した。その息子に対する溺愛ぶりには目を覆うばかり。さて、彼女には人知れぬパワーが潜んでいる。小南さん、有道さんらと共にバットで100 m × 10を1'30"でまわしてしまうから驚きだ。なぜ彼女のような選手がこの六甲台にいるかは未だ謎であるが、とりあえず有難い存在であることは間違いない。最後に、「美穂子、出るぞ」を合図に銭湯を出る彼女とS氏に乾杯。

斎藤 雅子：教2：平：宝塚東高

彼女は二回生の中で唯一の初心者となってしまったわけだが、剣道をやっていたそうで、水球とは特に関係ない。又、このクラブには、あだ名のついたやつは何人かいるが、リングネームをもつのは彼女だけである。だからといって特技はバックドロップ etc なわけがないし、そのリングネームのように恐い子では断じてない。競泳の方は、まだキャリア二年目であるから、今期は更なる飛躍が望めると思う。昨年ダイユウサクがメジロマックイーンなど強豪を前に勝ったように、がんばってくれることを応援する。



## 1991年度 活動報告

昨シーズンは新入部員獲得のために新たなシステム、パンフレット配布に必要なスポンサーを募ることから始まった。「強いチームをつくる為には優秀な人材が必要」という至極当然の理論を行動に移したのだが、これが功を奏し、4月以降には男女、そして競泳・水球ともに力強い選手達が集まった。

3月下旬の春合宿での泳ぎ込み、5月の筑波遠征と充実した強化練習をこなし、夏を迎えた。

(染谷 記)

3月下旬	春季合宿	京都府レイク・フォレスト・リゾート
4月27日	新入生歓迎コンパ	六甲台生協
5月12・18日	関ポロオープン戦	京都大学プール
5月19日	凌泳総会	六甲台教官食堂
6月2日	京阪神三大学戦	同志社大学プール
6月8・9・22・23日	関西学生水球リーグ戦	大阪市大プール
6月30日	兵庫県学生選手権	王子プール
7月6・7日	関西国公立戦	臨海プール
7月21日	対市立大学戦	六甲台プール
7月30・31・8月1日	関西学生選手権	大阪プール
8月4日	旧三高大戦	六甲台プール
8月10・11日	全国国公立大会	佐賀県総合運動水泳場
8月21・22日	近畿国立大学体育大会	彦根総合運動スイミングセンター
8月下旬・9月上旬	日本学生選手権 (水球) (競泳)	日本体育大学健志台プール 神宮プール
9月14・15・16日	関西学生水球リーグJr.戦	京都大学プール
9月21日	月見の宴	六甲台プール
11月9・10日	六甲祭	
12月14日	追い出しコンパ	六甲台生協
1月5日	初泳ぎ	県立健康センター

## 京 阪 神 三 大 学 戦

初めて行く同志社に内心ワクワクして行った私であったが、到着してみて、ど田舎なのに驚き、次にその広大な敷地に圧倒された。さて、プールがどこかわからない。仕方なく京大の人の後ろにトコトコついていったものである。

その日、天気はひどい雨だった。6月に入ったとはいえ気温は低かった為、ふるえながらの応援となった。

水泳の試合は初めてであり、思わずスタート台の上で足がふるえそうになったり、とにかく緊張の連続であった。

他校のプールの美しさに感動しつつ、いろいろ貴重な経験をえた大会であった。

(斎藤 記)

★京阪神三大学対抗水上競技大会 平成3年6月2日(日) 於 同志社大学プール

・50m 自由形

中畑 26-4 (1位)  
加藤 27-4 (3位)  
西尾 30-2

・100m 自由形

山田 1-03-2 (6位)  
竹田 1-04-0  
染谷 1-05-3

・400m 自由形

井上 5-00-6 (3位)  
高倉 5-06-8 (5位)  
上田 5-24-5 (6位)

・800m 自由形

山田 10-15-4 (3位)  
藤本(博)10-16-6 (4位)  
吉岡 12-20-0 (6位)

・200m バタフライ

高岡 2-39-6 (1位)

・200m 背泳

上山 2-42-1 (3位)  
富村 2-53-3 (6位)

・200m 平泳

西尾 2-56-6 (2位)  
家門 3-30-7 (6位)  
郷西 3-53-1

・200m 個人メドレー

藤本(克) 2-39-6 (3位)  
中畑 2-41-0 (4位)  
上山 2-44-2 (5位)

・400m メドレーリレー

上山、西尾、加藤、中畑  
4-38-2 (2位)

・800m リレー

山田、藤本(博)、上田、井上  
9-18-2 (2位)

◎ 総 合

1位 京都大 156点  
2位 神戸大 133点  
3位 大阪大 63点

## 関 西 水 球

関西水球初制覇を目指す我々の課題は、エース木村に頼り、負担をかけることなく、全員が泳げ、シュートを打てるチームを創る事であった。そういった意味では、藤本(克)、新フローター松島の成長、新人長谷川、門らの活躍には目を見張るものがあった。主将染谷も気合いが入っていた。が、結果は1日3試合の悪条件ではあったが、立命館に完敗を喫し2位にとどまった。

個々の能力にはすばらしいものがあり、層の厚さは関西1と言われながらも、それらをチームとして一つにまとめあげ、チームスタイルを確立できなかった点に主な敗因があると思われる。

最後になりましたが、1年間に渡り各々の学生生活を犠牲にしながらも、我々を御指導くださった原田コーチ、東コーチには、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(一越 記)

★関西学生水球リーグ戦 平成3年6月 於 大阪市立大学プール

神戸大	Q	京都教育大
7	1	0
8	2	0
8	3	2
8	4	1
31	計	3

- |             |           |          |
|-------------|-----------|----------|
| 1 一越        | 6 長谷川 (2) | 11 西尾    |
| 2 染谷 (4)    | 7 松島 (2)  | 12 高橋    |
| 3 下坂 (3)    | 8 富村 (2)  | 13 門 (2) |
| 4 西島 (2)    | 9 中畑      |          |
| 5 藤本(克) (3) | 10 木村 (1) |          |

神戸大	Q	大阪府立高専
2	1	2
7	2	3
5	3	0
4	4	2
18	計	7

- |             |           |          |
|-------------|-----------|----------|
| 1 一越        | 6 渡辺 (1)  | 11 長谷川   |
| 2 染谷 (1)    | 7 松島 (2)  | 12 高橋    |
| 3 下坂 (2)    | 8 安居      | 13 門 (1) |
| 4 西島 (2)    | 9 西尾      |          |
| 5 藤本(克) (2) | 10 木村 (7) |          |

神戸大	Q	京都大
3	1	3
3	2	1
4	3	1
3	4	2
13	計	7

- |             |           |            |
|-------------|-----------|------------|
| 1 一越        | 6 安居      | 11 長谷川 (1) |
| 2 染谷 (1)    | 7 松島 (2)  | 12 富村      |
| 3 下坂        | 8 城       | 13 門 (1)   |
| 4 西島 (2)    | 9 渡辺      |            |
| 5 藤本(克) (5) | 10 木村 (1) |            |

神戸大	Q	関西学院大
2	1	3
2	2	2
3	3	2
4	4	2
11	計	9

- |          |             |          |
|----------|-------------|----------|
| 1 一越     | 6 安居        | 11 渡辺    |
| 2 染谷 (1) | 7 松島 (1)    | 12 長谷川   |
| 3 下坂     | 8 藤本(克) (1) | 13 門 (2) |
| 4 西島     | 9 中畑        |          |
| 5 青木     | 10 木村 (6)   |          |

神戸大	Q	大阪市立大
3	1	4
4	2	5
7	3	4
5	4	1
19	計	14

- |          |             |            |
|----------|-------------|------------|
| 1 西尾     | 6 安居        | 11 一越      |
| 2 染谷 (1) | 7 松島 (5)    | 12 長谷川 (4) |
| 3 下坂 (1) | 8 藤本(克) (2) | 13 門 (1)   |
| 4 西島 (1) | 9 富村        |            |
| 5 城      | 10 木村 (4)   |            |

神戸大	Q	立命館大
0	1	4
1	2	1
2	3	5
3	4	5
6	計	15

- |      |           |           |
|------|-----------|-----------|
| 1 一越 | 6 安居      | 11 渡辺 (1) |
| 2 染谷 | 7 松島 (2)  | 12 長谷川    |
| 3 下坂 | 8 藤本(克)   | 13 門 (1)  |
| 4 西島 | 9 城       |           |
| 5 青木 | 10 木村 (2) |           |

神戸大	Q	大阪大
2	1	5
2	2	3
1	3	3
2	4	3
7	計	14

- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 1 一越     | 6 安居 (1)  | 11 渡辺    |
| 2 染谷 (2) | 7 松島 (5)  | 12 長谷川   |
| 3 下坂 (1) | 8 藤本(克)   | 13 門 (1) |
| 4 西島     | 9 城       |          |
| 5 青木     | 10 木村 (4) |          |

◎ 総合

- |          |      |           |      |
|----------|------|-----------|------|
| 1位 立命館大  | 7勝   | 5位 京都大    | 3勝4敗 |
| 2位 神戸大   | 6勝1敗 | 6位 大阪市立大  | 3勝4敗 |
| 3位 関西学院大 | 4勝3敗 | 7位 大阪府立高専 | 1勝6敗 |
| 4位 大阪大   | 4勝3敗 | 8位 京都教育大  | 7敗   |

## 兵庫インカレ

「今、競泳は弱体化しつつあるからな」と言われ入部してきた私であるが、他大学がどれほどの実力を持っているか知らないため、あまりピンとはこなかった。そういった面では、初めて神戸大学の実力を知ることができる、この兵庫インカレ。例年雨に見舞われるのが慣例であったようだが、少し汗ばむ、どんよりとした曇り空に迎えられた本大会は、我々の先行きを暗示しているようでもあった。

— 試合後、ああ、情けない！ 毎年トップの座を維持してきた大学の没落ぶりを絵に描いた結果となってしまった。これ以上の事は語りたくない。聞かないでくれ!! 不安材料を抱えたまま関国へとつづく。

(加藤 記)

★兵庫県学生選手権水泳競技大会 平成3年6月30日(日) 於 神戸王子プール

[男子]

・50m 自由形

中畑 26-2 (1位)  
竹田 27-5 (4位)  
木村 28-1

・100m 自由形

木村 59-0 (2位)  
井上 1-00-1 (4位)  
中畑 1-00-7

・200m 自由形

井上 2-13-9 (4位)  
上田 2-18-8  
吉岡 2-30-9

・400m 自由形

藤本(博) 4-44-6 (3位)  
高倉 4-59-9  
上田 5-05-7

・1500m 自由形

藤本(博) 18-45-2 (2位)  
山田 19-28-8 (5位)  
高倉 19-55-6

・100m バタフライ

加藤 1-03-9 (2位)  
高岡 1-06-7  
竹田 1-09-6

・200m バタフライ

加藤 2-27-3 (5位)  
高岡 2-32-3 (6位)

・100m 背泳

上山 1-12-1  
富村 1-17-8

・200m 背泳

上山 2-37-1 (5位)  
富村 2-50-6

・100m 平泳

西尾 1-16-9 (5位)  
松島 1-20-3  
郷西 1-32-2

・200m 平泳

西尾 2-53-0 (6位)  
松島 2-58-5

・200m 個人メドレー

小南 2-26-4 (1位)  
藤本(克) 2-32-4 (4位)

・400m 個人メドレー

藤本(克) 5-27-3 (3位)

• 400m メドレーリレー  
上山、西尾、小南、木村  
4-26-4 (3位)

• 400m リレー  
井上、上田、中畑、木村  
3-58-2

• 800m リレー  
井上、藤本(博)、山田、小南  
8-56-5 (4位)

◎ 総合  
1位 甲南大 157点  
2位 関西学院大 145点  
3位 神戸大 123点  
4位 神戸商船大 69点  
5位 神戸学院大 39点  
6位 神戸外国語大 19点

〔女子〕

• 50m 自由形  
宮下 35-0 (7位)  
中山 36-6

• 100m 自由形  
小笠原 1-09-7 (5位)  
村本 1-27-1  
斎藤 1-27-6

• 200m 自由形  
小笠原 2-34-6 (4位)  
村本 3-16-8

• 400m 自由形  
中山 6-21-4 (5位)

• 100m バタフライ  
寺井 1-10-1 (3位)

• 200m バタフライ  
寺井 2-39-6 (4位)

• 400m メドレーリレー  
小笠原、宮下、寺井、中山  
5-35-8 (2位)

• 200m リレー  
小笠原、中山、宮下、寺井  
2-13-1 (3位)

• 400m リレー  
小笠原、中山、宮下、寺井  
5-04-7 (3位)

◎ 総合  
1位 武庫川女子大 295点  
2位 関西学院大 61点  
3位 兵庫教育大 51点  
4位 神戸大 43点  
5位 神戸商船大 16点  
6位 松蔭女子大 15点

## 関西国公立戦

今年は会場が大府臨海スポーツセンターに移った関西国公立に、我々は去年の雪辱を果たすために乗り込んだ。初日を終わって2位、しかし、それも京大には19点差をつけられた上に、下には15点以内に5校がいるという不安な状況で迎えた2日目の最初の競技、混雑で失格し一気に追い込まれた。

その後バタ面の奮闘などで、なんとか2位となり全国団体出場を果たしたが、京大には全種目にわたって負け、他校のレベルアップについて行けていないなど、これからに不安の残る試合となった。これからはこの大会も益々レベルの上昇が予想される為、全体のレベルアップを図らなければ苦しくなるだろう。

(井上 聡 記)

★関西国公立大学選手権水泳競技大会 平成3年7月6(土)7日(日) 於 大阪府立臨海プール  
〔男子〕

・50m 自由形

中畑(予) 26-4  
(決) 26-4(2位)  
木村(予) 26-9  
(決) 26-6(4位)  
竹田 28-0

・100m 自由形

木村(予) 58-7  
(決) 58-6(4位)  
中畑 1-00-1  
上田 1-01-5

・200m 自由形

井上 2-13-2  
藤本(博) 2-14-5  
山田 2-16-7

・400m 自由形

藤本(予)  
(博) 4-44-1  
4-45-8(7位)  
山田(予) 4-53-1  
(決) 4-53-0(8位)  
高倉 4-56-0

・100m バタフライ

小南(予) 1-04-0  
(決) 1-02-6(2位)  
加藤(予) 1-03-8  
(決) 1-03-7(4位)  
高岡 1-06-2

・200m バタフライ

小南(予) 2-25-3  
(決) 2-19-2(2位)  
加藤(予) 2-28-0  
(決) 2-24-2(5位)  
高岡 2-32-6

・100m 背泳

上山 1-12-2  
富村 1-16-0  
高橋 1-29-1

・200m 背泳

上山(予) 2-35-1  
(決) 2-36-3(8位)  
富村 2-52-5  
高橋 3-16-8

・100m 平泳

西尾(予) 1-16-6  
(決) 1-15-5(5位)  
松島 1-20-8  
郷西 1-32-5

・200m 平泳

西尾(予) 2-47-5  
(決) 2-48-1(3位)  
藤本(予)  
(克) 2-50-7  
(決) 2-48-9(5位)  
松島 2-56-3

・200m 個人メドレー

藤本(予)  
(克) 2-35-2  
(決) 2-32-1(4位)  
竹田 2-41-6  
吉岡 2-49-2

・400m 個人メドレー

高倉 6-05-0

• 400m メドレーリレー  
 上山、西尾、小南、木村  
 失格(泳法違反)

• 400m リレー  
 井上、中畑、加藤、木村  
 3-56-9(4位)

• 800m リレー  
 井上、藤本(博)、加藤、小南  
 8-49-1(3位)

◎ 総合  
 1位 京都大 112点  
 2位 神戸大 74点  
 3位 大阪府立大 71点  
 4位 京都教育大 63点  
 5位 大阪大 58点  
 6位 神戸商船大 55点  
 ♪ 滋賀大 55点  
 8位 大阪市立大 16点

〔女子〕

• 50m 自由形  
 宮下 34-7

• 100m 自由形  
 小笠原(予)1-11-0  
 (決)1-09-3(3位)

村本 1-26-6  
 斎藤 1-29-7

• 200m 自由形  
 小笠原(予)2-36-8  
 (決)2-37-1(5位)

中山 3-03-8  
 村本 3-15-3

• 400m 自由形  
 中山 6-27-7

• 100m バタフライ  
 寺井(予)1-17-0  
 (決)1-10-1(1位)

• 200m バタフライ  
 寺井  
 (決)2-41-9(2位)

〈大会新〉

• 200m リレー  
 寺井、中山、宮下、小笠原  
 2-12-2(6位)

• 400m リレー  
 寺井、中山、宮下、小笠原  
 5-06-6(8位)

• 400m メドレーリレー  
 小笠原、宮下、寺井、中山  
 5-38-6(6位)

◎ 総合  
 1位 大阪教育大 81点  
 2位 京都大 76点  
 3位 大阪外国語大 61点  
 4位 滋賀大 49点  
 5位 大阪府立大 46点  
 6位 大阪市立大 36点  
 7位 大阪大 35点  
 ♪ 神戸大 35点

## 旧 三 商 大 戦

今年の旧三商大戦は、我が神戸大学主催で行われた。試合の前夜には、同回生同志で酒を飲み、大いに盛り上がった。

そして翌日、試合が六甲台プールで行われた。我々は完全優勝を目標に気合いを入れていたが、一橋の油ギットントン、チン男、研ナオコ達には笑われ、力が抜けそうだった。試合の方はというと競泳はやはり神大がとり、水球は神大・一橋大ともに大阪市大を破り、完全優勝は最終の神大対一橋大にかかることになった。先取点は神大がとり、その後は取りつ取られつだったが、神大リードでじりじり点差が開く。そのまま神大が勝ち、神大の完全優勝が成し遂げられた。

その夜のコンパは大変楽しいものとなった。が、今年はプールサイドコンパではないので、と油断していたら甘かった。翌日我々は、マヨネーズ、生卵、三輪車、ゴール etc の浮いたプールをほうぜんと見つめることになったのだった。

(渡辺 記)

★旧三商大水上競技大会      平成3年8月4日(日)      於 神戸大学六甲台プール

〈競泳〉

・100m 自由形

竹田            59-5(2位)

中畑            1-00-5(3位)

・400m 自由形

高倉            4-46-1(3位)

上田            4-57-1(4位)

・800m 自由形

藤本(博)        9-49-9(3位)

山田            10-02-5(4位)

・200m バタフライ

加藤            2-32-7(1位)

高岡            2-33-1(2位)

・200m 背泳

上山            2-34-9(1位)

富村            2-44-2(2位)

・200m 平泳

西尾            2-44-1(1位)

松島            2-49-3(3位)

・200m 個人メドレー

木村            2-27-8(1位)

中畑            2-33-8(2位)

・400m メドレーリレー

西尾、上山、高岡、上田

4-30-2(1位)

・800m リレー

山田、井上、藤本(博)、木村

8-44-0(1位)

◎ 総 合

1位 神戸大        84点

2位 大阪市立大    73点

3位 一橋大        29点

<水球>

神戸大	Q	一橋大
3	1	1
3	2	2
3	3	3
6	4	3
15	計	9

- |          |            |       |
|----------|------------|-------|
| 1 西尾     | 6 藤本(克)(3) | 11 渡辺 |
| 2 藤川     | 7 松島 (2)   | 12 上山 |
| 3 下坂 (1) | 8 富村       | 13 門  |
| 4 木村 (5) | 9 長谷川 (1)  |       |
| 5 西島 (3) | 10 中畑      |       |

神戸大	Q	大阪市立大
2	1	3
2	2	4
5	3	0
5	4	0
14	計	7

- |          |           |       |
|----------|-----------|-------|
| 1 西尾     | 6 藤本      | 11 渡辺 |
| 2 染谷 (1) | 7 松島 (5)  | 12 一越 |
| 3 下坂     | 8 富村      | 13 門  |
| 4 木村 (3) | 9 長谷川 (2) |       |
| 5 西島 (2) | 10 中畑 (1) |       |

## 関西インカレ

思った通り、北さんと寺井さんがインカレ標準を突破した。うれしかった。予想外にも、皆が3日間次々とベストを出した。うれしかった。

今回の関カレは、初めから2部に落ちることが分かり切っていた。試合のためにテーバーをかけなかった。全て近国に目標を置いていた。関カレを目標に出来ないのは悔しかった。競泳主任として情けなかった。

現チームが関西水泳界のレベル up にまったくついていけない事は、明らかである。1部に滞まり続ける力などとうてい無い。それどころか、3部落ちが囁かれる程だ。

今シーズンを省みて、水泳部のレベルだけでなく、それ以前の競泳に対する態度がすでに負けている。そして全ての面で負けている、と感じた。自分にとって「水泳」とは何なのか? 「試合」とは何なのか? 一度考えなおして見て欲しい。自分は水泳部に入って何をしたいのか? そのために何をやるのか? 考えて欲しい。

(中畑 記)

★関西学生選手権水泳競技大会

平成3年7月30(火) 31(水) 8月1日(木) 於 大阪プール

〔男子〕

・50m 自由形

中畑 26-3  
渡辺 27-4  
下坂 28-2

・100m 自由形

竹田 1-00-7  
上田 1-00-7  
吉岡 1-05-9

・200m 自由形

山田 2-13-2  
井上(聡) 2-13-7  
上田 2-18-5

・400m 自由形

藤本(博) 4-44-1  
山田 4-47-4  
高倉 4-55-3

・1500m 自由形

藤本(博) 18-51-9  
高倉 19-48-6

・100m バタフライ

加藤 1-04-7  
高岡 1-06-1  
竹田 1-07-4

・200m バタフライ

加藤 2-21-9  
高岡 2-30-2

・100m 背泳

上山 1-11-7  
富村 1-14-8  
高橋 1-29-8

・200m 背泳

上山 2-33-5  
富村 2-45-4

・100m 平泳

西尾 1-13-5  
松島 1-19-6  
郷西 1-29-2

・200m 平泳

西尾 2-42-6  
松島 2-51-6  
藤川 3-07-7

・200m 個人メドレー

木村 2-26-5  
吉岡 2-45-5  
長谷川 2-50-0

・400m メドレーリレー

上山、西尾、加藤、中畑  
4-28-4(8位)

・400m リレー

木村、加藤、中畑、上田  
3-58-3(8位)

・800m リレー

藤本(博)、木村、高倉、山田  
8-52-1(8位)

◎ 総合

1位 近畿大 200点  
2位 同志社大 183点  
3位 大阪体府大 111点  
4位 立命館大 39点  
5位 天理大 36点  
6位 京都大 10点  
々 関西大 10点  
8位 神戸大 3点

〔女子〕

・50m 自由形  
村本 37-3

・100m 自由形  
小笠原(予) 1-10-8  
(決) 1-09-6(4位)  
中山 1-21-3

・200m 自由形  
小笠原(予)  
(決) 2-35-9(4位)  
村本 3-15-1

・400m 自由形  
中山 6-26-2

・100m バタフライ  
寺井(予) 1-09-8  
(決) 1-08-8(1位)

・200m バタフライ  
寺井(予)  
(決) 2-33-0(1位)

・100m 平泳  
齋藤 1-51-8

・400m メドレーリレー  
小笠原、齋藤、寺井、中山  
5-51-1(7位)

・200m リレー  
寺井、村本、中山、宮下  
2-18-5(6位)

・400m リレー  
寺井、中山、宮下、小笠原  
4-57-3(5位)

◎ 総合

1位 京都工繊大 78点  
2位 滋賀大 70点  
3位 IBU 63点  
4位 大阪大 41点  
5位 桃山大 39点  
6位 奈良女子大 38点  
7位 神戸大 36点  
8位 神戸外国語大 34点

全国国公立大会

8月9日・10日の両日、佐賀県営プールにて全国国公立大会が行われました。プールもかなりきれいでしたが、何よりもホテルの豪華さには、試合に来たということを一瞬忘れさせられてしまいました。(富村さん、インカレの時との差が激しすぎます…)

結果のほうはというと、この後に行われる近国に照準を合わせるために、特に調整をしない方針でレースに臨んだせいか、また南国の暑さのせいか、皆いまひとつの記録だったようです。その中で3種目になんとか入賞が果たせました。

試合後のコンパは、主務が「泊まりの試合のコンパは荒れる」と言われた通り、大荒れに荒れて、ついに某2回生が救急車で運ばれるという事態に陥ってしまったことを報告しておきます。

(寺井 記)

★全国国公立大学選手権水泳競技大会

平成3年8月10(土) 11日(日) 於 佐賀県総合運動水球場

〔男子〕

• 50m 自由形

木村 26-8  
竹田 27-3

• 100m 自由形

木村 57-8  
上田 1-01-4

• 200m 自由形

山田 2-14-6  
藤本(博) 2-16-9  
上田 2-21-8

• 400m 自由形

藤本(博) 4-46-5  
山田 4-49-0  
高倉 4-53-3

• 100m バタフライ

小南 1-03-6  
加藤 1-05-0  
高岡 1-06-9

• 200m バタフライ

小南 2-21-1  
加藤 2-23-1  
高岡 2-31-4

• 100m 背泳

上山 1-10-8  
富村 1-16-9

• 200m 背泳

上山 2-32-6  
富村 2-49-3

• 100m 平泳

西尾 1-13-7  
松島 1-19-4

• 200m 平泳

西尾 2-45-3  
藤本(克) 2-49-2  
松島 2-52-3

• 200m 個人メドレー

藤本(克) 2-34-0  
中畑 2-34-8  
竹田 2-39-4

• 400m 個人メドレー

高倉 6-03-8

• 400m メドレーリレー

上山、西尾、加藤、木村  
4-27-2

• 400m リレー

加藤、木村、中畑、竹田  
3-58-5

• 800m リレー

木村、藤本(博)、山田、加藤  
8-50-4

◎ 総合

1位 鹿屋体育大 159点  
2位 筑波大 126点  
3位 京都大 50点  
4位 東京学芸大 45点  
5位 金沢大 22点  
6位 宇都宮大 18点  
:  
22位 神戸大 2点

## 〔女子〕

## • 100m 自由形

小笠原 1-09-4

## • 100m バタフライ

寺井(予) 1-09-9

(決) 1-08-6(5位)

## • 200m バタフライ

寺井(予) 2-37-4

(決) 2-35-2(6位)

## ◎ 総合

1位 鹿屋体府大

2位 筑破大

3位 東京学芸大

4位 広島大

5位 金沢大

ク 熊本女子大

:

7位 神戸大

## 市 大 戦

しばらくしてから書くことになったので、一番覚えていることといえば、突き落とされたり、いろんなものを落とされて必死になってかたづけたことであるが、後の三商に比べれば、まあましだろうと思う。さて試合の方だが、競泳は快勝して、水球の方は去年負けたので、どうなることかと思いきや、一方的なワンサイドで勝ってしまった。一言で試合内容を言うと、市大OBの方が怒って帰られたという内容である。まあ来年はプールを洗って待ってろや、と思っているのは僕だけではないはずである。(P.S 来年は市大へチェーンソーを持っていく奴がいるそうです。)

(高橋 記)

## ★神戸大学・大阪市立大学 対抗水上競技大会

平成3年7月21日(日) 於 神戸大学六甲台プール

## 〈競泳〉

## • 100m 自由形

上田 1-00-3(3位)

吉岡 1-06-5(5位)

渡辺 1-07-0(6位)

## • 800m 自由形

藤本(博) 10-01-5(3位)

高倉 10-15-6(4位)

山田 10-18-0(5位)

## • 200m 背泳

上山 2-39-4(1位)

富村 2-57-9(5位)

高橋 3-19-9(6位)

## • 400m 自由形

高倉 4-52-5(1位)

中畑 5-05-3(2位)

門 5-19-9(4位)

## • 200m バタフライ

高岡 2-29-3(1位)

加藤 2-32-2(2位)

竹田 2-49-5(3位)

## • 200m 平泳

西尾 2-46-3(1位)

松島 2-51-0(2位)

藤川 3-11-4(6位)

・200m 個人メドレー  
井上 2-35-4 (1位)  
竹田 2-38-9 (2位)  
長谷川 2-47-4 (4位)

・400m メドレーリレー  
上山、西尾、高岡、木村  
4-34-6 (1位)

・800m リレー  
井上、山田、藤本(博)、加藤  
8-56-2 (1位)

◎ 総合  
1位 神戸大 99点  
2位 大阪市立大 79点

<水球>

神戸大	Q	大阪市立大
5	1	1
6	2	1
7	3	0
4	4	1
22	計	3

1 西尾            6 長谷川 (2)    11 生川  
2 吉岡            7 松島 (3)    12 藤川  
3 下坂 (3)       8 富村 (1)    13 門 (4)  
4 木村 (6)       9 高橋  
5 上山 (3)       10 中畑

## 近 国 1991

今回の近国は滋賀県・彦根総合運動スイミングセンターで行われた。もう半年あまり前のことであるため覚えているのは、初日の曇天と、ベストを出して腰をいためたことと、相変わらずの京大の強さと、神大4位という信じられない結果くらいだが……。

万年2位を返上して優勝！ならいざ知らず、どうしてそんな結果に終わったのか。原因としてあげられるのは、まず部員の絶対数の少なさがある。選手の粒がそろっていても、人海戦術にはかなわないようだ。これは仕様がなくても、水泳部員としての自覚が全員にあったらどうか。声の出ない応援、声を出しても、それを意識しすぎるゆえに声を出すこと自体が目的になってしまう、そんなことはなかったらどうか。声などというものは、競技に集中していれば、放っておいても出るものだ。幾分かノリが必要なのは否定しないけれど。

自分の関わる、あるいは自分の出場するレースに集中するのは言うまでもないが、他の選手のレースを見ることは勉強になるはずだし、その結果がチームの勝敗に影響することがあるのもわかると思

う。どういう意味でも競技に集中していれば、現在の試合の流れとか、各々のレースの持つ重みというのは、ある程度はつかめるようになるものだ。こういうことは、数ある機会にOB諸氏の口から聞かされているだろう。

同じ試合をするのなら、勝ったほうが気分がいいものだ。欲を出すなら気持ちよく勝ちたい。それは一つ一つの試合の結果を後悔しないことに結びつくと思う（反省が必要なのは言うまでもない）。現役として活動できる期間は、各人が思っているよりも短いものだ。自分なりにできることはしたと私は思うが、それでも最後の試合は、ちょっと口惜しかった。

(高岡 記)

★近畿地区国立大学体育大会 平成3年8月21(水) 22日(木) 於 彦根総合運動スイミングセンター

〔男子〕

・50m 自由形

中畑(予) 26-3  
(決) 26-23(4位)  
木村(予) 26-8  
(決) 26-62(5位)  
下坂 28-8

・100m 自由形

中畑(予) 59-27  
(決) 59-45  
上田 1-01-60

・200m 自由形

高倉 2-17-6  
上田 2-17-7  
竹田 2-19-0

・400m 自由形

藤本(予) 4-44-41  
(博)(決) 4-43-42(6位)  
山田(予) 4-48-18  
(決) 4-48-84  
高倉 4-55-72

・800m 自由形

藤本(予) 9-56-4  
(博)(決) 9-45-9(3位)  
山田(予) 10-03-7  
(決) 10-02-2(5位)  
高橋 11-50-9

・100m バタフライ

加藤(予) 1-03-9  
(決) 1-02-91(4位)  
高岡(予) 1-04-6  
(決) 1-05-26

・200m バタフライ

加藤(予) 2-30-19  
(決) 2-23-44(3位)  
高岡(予) 2-31-46  
(決) 2-29-56(4位)

・100m 背泳

上山 1-11-8  
富村 1-15-6

・200m 背泳

上山(予) 2-32-4  
(決) 2-32-0  
富村 2-44-9  
生川 3-20-0

・100m 平泳

西尾(予) 1-14-6  
(決) 1-13-26(2位)  
松島(予) 1-18-2  
(決) 1-17-86  
家門 1-23-0

・200m 平泳

西尾(予) 2-46-0  
(決) 2-43-55(3位)  
松島 2-48-9  
藤川 3-23-9

・200m 個人メドレー

木村(予) 2-26-2  
(決) 2-24-10(3位)  
藤本(予) 2-35-5  
(克)(決) 2-31-99  
長谷川 2-50-9

・400m 個人メドレー

藤本(予) 5-33-4  
(克) (決) 5-29-1 (5位)

吉岡 6-11-4

門 6-17-9

・400m メドレーリレー

上山、西尾、高岡、上田

(予) 4-36-0

上山、西尾、加藤、木村

(決) 4-25-9 (5位)

・200m リレー

中畑、下坂、上田、竹田

(予) 1-47-6

木村、上山、中畑、竹田

(決) 1-45-8 (3位)

・800m リレー

中畑、高倉、上田、木村

9-12-8

木村、山田、藤本(博)、加藤

8-46-5 (4位)

◎ 総合

1位	京都大	93点
2位	神戸商船大	55点
3位	大阪大	49点
4位	神戸大	47点
5位	京都教育大	45点
6位	滋賀大	33点

〔女子〕

・100m 自由形

小笠原(予) 1-10-54  
(決) 1-08-16 (2位)

中山 1-20-92

斎藤 1-26-18

・200m 自由形

小笠原(予) 2-40-18  
(決) 2-30-20 (3位)

・400m 自由形

中山(予) 6-22-75  
(決) 6-18-12 (6位)

・100m バタフライ

寺井(決) 1-09-23 (1位)

<大会新>

・200m バタフライ

寺井(決) 2-37-32 (1位)

・400m メドレーリレー

小笠原、斎藤、寺井、中山  
(予) 5-50-46  
(決) 5-49-05

・200m リレー

寺井、斎藤、中山、小笠原  
(予) 2-15-66

・400m リレー

小笠原、斎藤、寺井、中山  
(予) 5-03-97

◎ 総合

1位	大阪教育大	69点
2位	京都大	52点
3位	大阪外国語大	46点
4位	京都教育大	24点
〃	神戸大	24点
6位	滋賀大	22点

## インカレ

### 〈水球〉

よし、やるぞ!! 無敵の常勝軍団、日体大との試合を前に一越は燃えていた。それもそのはず、この試合には、あのリッチドールが懸かっているのである。男として熱くならないはずがない。白く光るポロパンの下で下半身がうずく。

試合内容は、汚いイメージの付きまとう日体大だが、プレーはすこぶるフェアであったと思う。実力差は歴然かも知れないが、我々には予想外の健闘で、選手の顔つきは決して、びびったり萎縮したそれではなく、いつも通りの真剣で、必死で、そして苦しそうな顔であった。どんなに点を奪われても、あきらめている者などいなかった。少しでも長い間戦いたい。何とか一矢むくいてやりたい。そういう気持ちで皆が一体になっているのを強く感じた。

結果は、3 period 0-15 のコールド負けではあったが、日本水球界の頂点に15年間に亘り君臨している王者「日体」と同じ舞台上、あくまで同じプレーヤーとして戦うことができた事は、すべての水球選手にとって大きな励みとなった事だろう。個人的には、このすばらしい試合に参加でき、皆への感謝の気持ちで一杯である。やはり、インカレは特別であった。

常日頃から、関東に目を向けろ、と先輩方に言われ続けてきたが、今シーズン、日体大、筑波、中央一部上位校とゲームを行なう事が出来たのは、私にとっては何事にも変え難い貴重な体験であり大きな誇りである。後輩諸君には、これを将来の一部校の仲間入りへのステップとして、更なる飛躍を果たしてくれんことを望む。

で、賭けはどうだったかって? それはもちろん、ムフフ、蘭ちゃんとしっかり楽しんで来ましたとき。めでたし、めでたし。

(一越 記)

### 〈競泳〉

大学に入ってからずっと夢に見てきたインカレに、2年目にしようやく出場することができた。念願かなって神宮プールに行ってみたものの、緊張感のかけらもない。オリンピック選手などもたくさんいて、舞いあがってしまい、結果はすべてを物語っていて、制限タイムすら切れなかった。インカレに出場することが目標だったので、神宮プールというのは、すでにゴール地点でしかなかった。いつもいい位置にいながら、一流選手になれなかったのは、このへんに原因があるように思う。自分に満足することなく、次の目標に向かってがんばらなければいけない。今年はお出場2名という、さみ

しい状態だったので、来年はもっとたくさんで出場できることを願って……。

(北 記)

★全日本学生選手権 平成3年8月 於 日本体育大学健志台プール

〈水球〉

神戸大	Q	日本体育大
0	1	5
0	2	9
0	3	1
	4	
0	計	15

- |         |       |        |
|---------|-------|--------|
| 1 一越    | 6 中畑  | 11 西尾  |
| 2 染谷    | 7 松島  | 12 長谷川 |
| 3 下坂    | 8 上山  | 13 門   |
| 4 藤本(克) | 9 富村  |        |
| 5 西島    | 10 木村 |        |

〈3Qコールド負〉

〈競泳〉

於 神宮プール

・100m バタフライ

・200m バタフライ

寺井(予) 1-09-02

寺井(予) 2-35-01

## 関ポロ Jr.

前評判通り決勝リーグに上がってきたのは、立命館、府立高専、そして我が神戸大であった。

3日目、第1試合、我々は府立高専と引き分けた。そして我々は第4試合、立命館 vs 府立高専の結果を待っていた。関ポロ優勝チームの立命館は、戦力が少しダウンしたものの、いい試合をするだろうと誰もが思っていたにちがいない。ところが、終わってみれば7点差、府立高専の圧勝である。

しかし、我々にもまだチャンスはある。その立命館との試合で8点差をつければいいのである(そんな無茶な……)。そして、ついに vs 立命館戦が始まった。私は無我夢中だったせいか、はたまた頭が悪いせいなのかよくわからないが、この試合の記憶があまりない。気が付くと終わっていた。

「点差は?」「8点です」

(西島 記)

## ★関西学生 Jr. 水球選手権

平成3年9月 於 京都大学プール

神戸大	Q	京都大
2	1	0
2	2	3
3	3	1
2	4	2
9	計	6

1 藤川	6 西尾	11 生川
2 吉岡	7 渡辺	12 長谷川 (1)
3 下坂	8 富村	13 門 (1)
4 上山 (1)	9 高橋	
5 藤本(克) (2)	10 木村 (4)	

神戸大	Q	名古屋大
5	1	1
10	2	0
6	3	1
5	4	0
26	計	2

1 西尾 (1)	6 西尾 (1)	11 渡辺 (1)
2 吉岡 (1)	7 藤本(克) (1)	12 門 (6)
3 下坂 (2)	8 富村	13
4 上山 (1)	9 高橋 (1)	
5 長谷川 (1)	10 木村 (7)	

神戸大	Q	大阪府立高専
0	1	0
3	2	2
2	3	2
1	4	2
6	計	6

1 西尾	6 西島	11 渡辺
2 高橋	7 松島 (3)	12 藤川
3 下坂	8 富村	13 門 (1)
4 藤本(克)	9 上山	
5 長谷川	10 木村 (2)	

神戸大	Q	立命館大
3	1	1
2	2	2
4	3	1
6	4	3
15	計	7

1 西尾	6 西島 (2)	11 渡辺
2 高橋	7 松島 (2)	12 藤川
3 下坂	8 富村	13 門
4 藤本(克) (1)	9 上山	
5 長谷川 (3)	10 木村 (6)	

## ◎ 総合

- 1位 神戸大
- 2位 大阪高専
- 3位 立命館大
- 4位 京都大
- 5位 関西学院大
- 6位 京都教育大

現 役 自 己 へ

	自		由		形	
	50m	100m	200m	400m	800m	1500m
〈男子の部〉						
家門秀行						
下坂浩	28-4	1-07-1				
富村英三						
中畑寛之	26-22	59-27	2-17-35	5-00-2		
西島淳一		1-11-3				
藤本克彦						
藤本博之			2-14-5	4-43-42	9-45-94	18-45-2
上山敏正	26-9					
木村一也	26-6	57-84	2-08-40			
高倉信之			2-17-63	4-46-1	10-15-6	19-48-65
西尾泰記	30-2					
松島英樹						
山田基洋		1-03-2	2-13-24	4-47-49	10-02-28	19-28-8
吉岡晋一	29-2	1-05-5	2-31-0	5-26-4		
上田純也		1-00-3	2-17-79	4-57-1		
門謙次				5-19-9		
高橋一弘					11-50-95	
竹田匡志	27-37	59-5	2-19-06			
長谷川哲也						
渡辺雅人	27-2	1-00-5				
藤川壮太						
〈女子の部〉						
中山祥子	36-6	1-20-9	3-03-8	6-15-78		
井上優子		1-12-9	2-44-5			
上村麻由美						
北知寿子				5-10-7		
小笠原恭子	32-6	1-08-16	2-30-20	5-28-1		
斎藤雅子	40-5	2-24-44	3-49-7			
寺井美穂子		1-06-78				

# ス ト ー 覧 表

バタフライ		背 泳		平 泳		個人メドレー	
100m	200m	100m	200m	100m	200m	200m	400m
				1-23-0	3-02-2		
		1-16-5	3-05-4			2-46-9	
		1-14-89	2-44-2			2-48-6	
						2-33-8	5-46-53
						3-11-9	
				1-17-7	2-46-6	2-31-9	5-27-3
		1-09-7	2-32-09				
						2-24-10	
	2-37-63						
				1-13-2	2-42-6		
				1-17-86	2-48-92		
				1-20-9		2-45-2	6-11-47
					3-21-2		6-17-95
		1-29-1	3-16-8			2-59-0	
1-09-41	2-49-5					2-38-9	
						2-47-4	
					3-11-4	3-24-3	
1-48-6							
		1-26-4	3-08-7				
1-10-4	2-34-08						
				1-49-7		2-44-9	
1-08-65	2-33-05	1-21-5	2-53-0				

# 歴代 10 傑表

## 〈男子〉

### • 50m 自由形

1	中畑 寛之	26-2(L)	H. 3
2	木村 一也	26-6(L)	2
3	奥村 直樹	26-7(L)	S. 63
4	上山 敏正	26-9(L)	H. 3
5	井上 聡	27-1(S)	S. 63
6	渡辺 雅人	27-2(L)	H. 3
7	竹田 匡志	27-3(L)	3
8	田中 和彦	28-0(L)	S. 63
9	守沖 敦	28-4(L)	63
	下坂 浩	28-4(L)	H. 2
10	羽瀬 智文	28-8(L)	S. 63

### • 200m 自由形

1	川原田 貢	2-07-5(L)	S. 59
2	木村 一也	2-08-0(L)	H. 3
3	久保田勝己	2-08-5(S)	S. 58
4	浜川 広海	2-09-0	26
	当麻 尚正	2-09-0(S)	H. 2
6	後呂 忠詳	2-10-2(S)	S. 62
7	井上 聡	2-10-3(L)	H. 3
8	古谷 拓裕	2-10-7(L)	S. 62
9	東 圭紀	2-10-9(S)	62
		2-11-4(L)	62
10	郡 幸雄	2-12-4(S)	62

### • 100m 自由形

1	後呂 忠詳	56-7(S)	S. 61
		58-0(L)	62
2	川原田 貢	57-1(S)	57
		57-3(L)	59
3	東 圭紀	57-3(S)	63
4	木村 一也	57-8(L)	H. 3
5	金 一波	58-6(S)	S. 56
		58-9(L)	57
6	浜川 広海	58-8	26
	杉山 和広	58-8(S)	53
8	吉田不二彦	58-9(S)	59
		59-8(L)	59
	井上 聡	58-9(L)	H. 1
10	浜田 昌己	59-2(S)	S. 61
	奥村 直樹	59-2(S)	62
		59-7(L)	62
	中畑 寛之	59-2(L)	H. 3

### • 400m 自由形

1	古谷 拓裕	4-36-0(L)	S. 63
2	久保田勝己	4-37-4(L)	58
3	当麻 尚正	4-38-2(L)	H. 2
4	藤本 博之	4-43-4(L)	3
5	高倉 信之	4-46-1(S)	3
6	井上 聡	4-46-6(S)	1
7	川原田 貢	4-46-9(S)	S. 57
8	山田 基洋	4-47-4(L)	H. 3
9	近藤 直明	4-49-7(S)	S. 62
		4-54-0(L)	61
10	浦野 敏明	4-53-1(S)	59
		5-00-9(L)	58

• 800m 自由形

1	古谷 拓裕	9-36-8(L)	S.63
2	藤本 博之	9-44-5(S)	H.2
		9-45-9(L)	3
3	久保田勝己	9-47-4(S)	S.56
		9-49-0(L)	57
4	山田 基洋	10-02-2(L)	H.3
5	近藤 直明	10-11-7(L)	S.60
6	高倉 信之	10-15-6(S)	H.3
7	中川 善雄	10-19-2(S)	S.60
		10-25-0(L)	60
8	山本 隆	10-22-1(S)	53
9	上田 剛弘	10-26-7(L)	51
10	浦野 敏明	10-33-4(L)	57

• 1500m 自由形

1	古谷 拓裕	18-28-5(L)	S.63
2	久保田勝己	18-37-5(L)	58
3	藤本 博之	18-45-2(L)	H.3
4	近藤 直明	19-20-1(L)	S.62
5	山田 基洋	19-28-8(L)	H.3
6	高倉 信之	19-48-6(L)	3
7	岡崎 憲之	20-01- (L)	1
8	中川 善雄	20-07-0(L)	S.60
9	浦野 敏明	20-08-3(L)	57
10	松野 圭悟	20-31-4(L)	57

• 100m バタフライ

1	小南 裕明	1-01-4(L)	S.63
2	加藤 有道	1-02-9(L)	H.3
3	当麻 尚正	1-03-5(L)	2
4	吉岡 宏之	1-04-0(L)	S.58
	坂田 純孝	1-04-0(L)	49
6	高岡英一郎	1-04-6(L)	H.1
7	佐敷 定雄	1-04-8(L)	S.48
8	郡 幸雄	1-05-0(L)	60
9	東 圭紀	1-06-5(S)	62
10	山本 隆	1-07-4(S)	54
		1-08-4(L)	53

• 200m バタフライ

1	小南 裕明	2-17-0(L)	S.63
2	加藤 有道	2-21-9(L)	H.3
3	当麻 尚正	2-24-2(L)	2
4	郡 幸雄	2-24-6(L)	S.60
5	坂田 純孝	2-26-6(L)	59
6	高岡英一郎	2-27-3(L)	H.1
7	佐敷 定雄	2-29-6	S.48
8	吉岡 宏之	2-34-0(S)	57
		2-35-9(L)	58
9	岡崎 憲之	2-34-6(L)	62
10	山本 隆	2-35-2(S)	53

• 100m 背泳

1	徳永 守	1-06-2(S)	S.62
		1-07-9(L)	60
2	小笠見朝隆	1-06-6(L)	64
3	杉山 和弘	1-07-7(S)	53
		1-08-4(L)	53
4	吉田不二彦	1-08-6(L)	59
	井上 達晃	1-08-6(L)	H.1
6	坂田 純孝	1-08-7(S)	S.58
7	川原田 貢	1-09-6(S)	59
8	上山 敏正	1-09-7(S)	H.2
		1-11-4(L)	2
9	浅川 明弘	1-10-3(S)	S.62
		1-10-5(L)	H.2
10	太田 雅彦	1-10-9(S)	S.56

• 200m 背泳

1	小笠原朝隆	2-26-2(L)	S.63
2	井上 達晃	2-26-8(L)	63
3	徳永 守	2-29-7(L)	60
4	坂田 純孝	2-30-4(S)	56
5	吉田不二彦	2-31-2(S)	58
6	上山 敏正	2-32-0(L)	H.3
7	杉山 和弘	2-34-1(S)	S.54
		2-34-2(L)	53
8	木村多加緒	2-34-8(S)	43
		2-37-0(L)	43
9	酒井 正人	2-35-2(S)	52
10	浅川 明弘	2-35-5(L)	H.2

• 100m 平泳

1	後呂 忠詳	1-10-5(L)	S.61
2	林 期	1-12-9(S)	62
		1-13-3(L)	H.1
3	西尾 泰紀	1-13-2(L)	3
4	笠田 幸介	1-13-3(S)	2
		1-14-4(L)	1
5	長崎 真人	1-13-6(S)	S.57
		1-14-0(L)	58
6	鈴木 俊彦	1-14-2(S)	42
		1-14-7(L)	42
7	慈幸 弘樹	1-15-3(S)	53
		1-16-8(L)	53
8	浦野 敏明	1-15-6(S)	58
9	守沖 敦	1-16-4(L)	63
10	池辺 正雄	1-16-5(L)	56

• 200m 平泳

1	後呂 忠詳	2-37-9(L)	S.60
2	長崎 真人	2-40-5(L)	58
3	笠田 幸介	2-41-8(L)	H.2
4	西尾 泰紀	2-42-6(L)	3
5	林 均	2-43-6(L)	1
6	平石 康	2-45-3(S)	S.52
7	鈴木 俊彦	2-45-5	43
8	有利 英明	2-45-6	62
9	藤本 克彦	2-46-6(L)	H.1
10	松島 英樹	2-48-9(L)	3

• 200m 個人メドレー

1	東 圭紀	2-20-4(L)	H.2
2	木村 一也	2-24-1(L)	3
3	当麻 尚正	2-25-8(L)	2
4	小南 裕明	2-26-4(L)	3
5	浦野 敏明	2-29-5(L)	S.59
6	後呂 忠詳	2-31-0(L)	60
7	藤本 克彦	2-31-9(L)	H.3
8	原田久富美	2-32-7(L)	S.60
9	小笠原朝隆	2-32-7(L)	63
10	慈幸 弘樹	2-33-0(S)	52
		2-35-6(L)	53

• 400m 個人メドレー

1	東 圭紀	5-06-1(L)	S.63
2	当麻 尚正	5-13-4(L)	H.2
3	浦野 敏明	5-20-3(L)	S.59
4	古谷 拓裕	5-20-7(L)	63
5	山本 隆	5-25-9(S)	53
		5-43-6(L)	53
6	藤本 克彦	5-27-3(L)	H.3
7	村田 功	5-34-6(S)	S.62
8	久保田勝己	5-38-4(S)	56
9	原田久富美	5-40-1(S)	60
10	坂田 純孝	5-40-7(L)	57
	三好 岳	5-40-7(L)	60

• 400m メドレーリレー

1	小笠原、林、小南、東	4-19-2	H. 1
2	小笠原、林、小南、東	4-20-6	S. 63
3	小笠原、後呂、郡、浜田	4-21-1	61
4	徳永、後呂、郡、川原田	4-21-6	60
5	小笠原、後呂、郡、奥村	4-22-1	62

• 400m リレー

1	中畑、木村、東、井上(聡)	3-55-5	H. 2
	中畑、井上(聡)、木村、東	3-56-3	2
2	川原田、浜田、原田、後呂	3-56-5	S. 60
3	井上、中畑、加藤、木村	3-56-9	H. 3
4	川原田、吉田、浜田、後呂	3-57-0	S. 59
5	東、奥村、井上(聡)、小南	3-57-1	63
	川原田、浜田、島崎、後呂	3-57-1	60

• 800m リレー

1	木村、山田、藤本(博)、加藤	8-46-5	H. 3
2	当麻、小南、井上(聡)、東	8-47-7	2
	当麻、井上(聡)、小南、東	8-47-8	2
	当麻、藤本(博)、井上(聡)、東	8-49-9	2
3	東、古谷、当麻、小南	8-52-9	S. 63
4	井上(聡)、東、藤本(博)、当麻	8-53-3	H. 1
	小南、東、井上(聡)、当麻	8-53-5	1
	東、古谷、当麻、井上(聡)	8-53-5	S. 63
	当麻、井上(聡)、東、藤本(博)	8-53-9	H. 1
5	浦野、郡、古谷、東	8-56-5	S. 59

〈女子〉

• 50m 自由形

1	村上 美和	30-9(L)	S.63
2	宮下 静子	31-8(S)	H.2
3	小笠原恭子	32-6(L)	3
4	井上 優子	33-3(L)	1
5	枝澤百合子	33-6(L)	1

• 100m バタフライ

1	寺井美穂子	1-08-6	H.3
2	坂東 美枝	1-14-3(S)	S.57
3	川上 景子	1-20-9(L)	60
4	宮下 静子	1-21-8(S)	H.1
5	大野 智恵	1-25-6(S)	S.52

• 100m 自由形

1	寺井美穂子	1-06-7(L)	H.3
2	川上 景子	1-07-9(L)	S.61
3	小笠原恭子	1-08-16(L)	H.3
4	村上 美和	1-10-7(L)	S.60
5	坂東 美枝	1-11-7(L)	56

• 200m バタフライ

1	寺井美穂子	2-33-0(L)	H.3
2	坂東 美枝	2-44-7(L)	S.57
3	川上 景子	3-00-7(S)	60
4	大野 智恵	3-26-9	
5	嶋田 陽子	3-32-4(L)	55

• 200m 自由形

1	川上 景子	2-26-4(L)	S.62
2	小笠原恭子	2-30-2(L)	H.3
3	坂東 美枝	2-32-6(S)	S.56
4	山口 敦与	2-37-4(L)	60
5	土井 紀子	2-41-5(S)	

• 100m 背泳

1	村上 美和	1-16-8(L)	S.61
2	寺井美穂子	1-21-5(S)	H.3
3	坂東 美枝	1-21-7(S)	S.58
4	笥 朋子	1-23-8(L)	H.2
5	加地 恵	1-24-7(L)	S.61

• 400m 自由形

1	川上 景子	5-15-2(L)	S.60
2	坂東 美枝	5-18-5(S)	56
3	小笠原恭子	5-28-1(L)	H.3
4	山口 敦与	5-28-7(L)	S.60
5	土井 紀子	5-45-0(S)	

• 200m 背泳

1	村上 美和	2-48-4(L)	S.63
2	寺井美穂子	2-53-0(S)	H.3
3	坂東 美枝	2-58-6(S)	S.56
4	笥 朋子	2-59-3(L)	H.2
5	加地 恵	3-04-8(L)	S.61

• 100m 平泳

1	宮下 静子	1-27-5(L)	S.63
2	松井 玲子	1-30-2	
3	川島えみこ	1-32-0(S)	56
4	国本 温代	1-33-1(S)	
5	坂東 美枝	1-33-8(S)	56

• 200m 個人メドレー

1	寺井美穂子	2-44-9(S)	H.3
2	川上 景子	2-45-5(L)	S.60
3	坂東 美枝	2-54-5(L)	56
4	村上 美和	2-54-8(L)	61
5	宮下 静子	2-55-2(S)	63
		3-02-6(L)	

• 200m 平泳

1	川上 景子	3-06-2(S)	S.61
		3-10-2(L)	60
2	宮下 静子	3-12-6(L)	63
3	川島えみこ	3-16-6	58
4	坂東 美枝	3-17-6(S)	
5	松井 玲子	3-20-3	52

• 400m 個人メドレー

1	川上 景子	5-53-0(L)	S.62
2	坂東 美枝	6-04-0(S)	56
3	村上 美和	6-35-2(S)	61
4	石本日 AND 子	6-52-5(L)	
5	嶋田 陽子	7-00-9(L)	55

• 400m メドレーリレー

1	村上、宮下、川上、枝澤	5-23-1	S.63
	村上、宮下、川上、枝澤	5-26-9	63
	村上、宮下、川上、枝澤	5-27-2	63
	村上、宮下、川上、枝澤	5-27-5	63
2	村上、山口、川上、木村	5-31-1	60
3	加地、三住、坂東、木村	5-35-6	59
4	小笠原、宮下、寺井、中山	5-35-8	H.3
5	村上、林、川上、加地	5-37-7	S.61

• 200m リレー

1	木村、山口、村上、川上	2-08-3	S. 60
2	宮下、枝澤、村上、川上	2-08-6	63
	宮下、枝澤、村上、川上	2-09-1	63
3	川上、村上、加地、林	2-09-8	61
	宮下、枝澤、村上、川上	2-10-0	63
	加地、山口、村上、川上	2-10-6	60
4	村上、川上、加地、枝澤	2-11-8	62
	村上、山口、枝澤、川上	2-11-9	62
5	寺井、中山、宮下、小笠原	2-12-2	H. 3

• 400m リレー

1	川上、村上、山口、木村	4-45-1	S. 60
2	川上、村上、加地、林	4-50-1	61
	村上、加地、山口、川上	4-51-8	60
3	宮下、枝澤、村上、川上	4-53-1	63
	宮下、枝澤、村上、川上	4-53-4	63
4	寺井、中山、宮下、小笠原	4-57-3	H. 3
	宮下、枝澤、村上、川上	4-58-0	S. 63
5	村上、川上、加地、枝澤	4-59-9	62



# 凌 泳 会 会 則

## 第 1 章 総 則

- 第 1 条 (名 称) 本会は凌泳会と称する。
- 第 2 条 (事 務 局) 本会は事務局を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。
- 第 3 条 (目 的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 (事 業) 本会は前条の目的を達成する為に下記の事業を行なう。
1. 会誌「凌泳」の発行
  2. 会員相互の連絡
  3. 定例総会及び各種の親睦会合
  4. 神戸大学水泳部発展の為に指導及び援助
  5. その他、本会の目的を達成するに必要な事項
- 第 5 条 (会則の改廃) 本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

## 第 2 章 会 員

- 第 6 条 (会 員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員、準会員及び在学会員とする。
- 第 7 条 (正 会 員) 正会員とは、次のものを云う。
- 国立神戸高等商業学校、国立神戸商業大学、神戸経済大学、同附属経営学専門部、神戸大学 以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したものの。
- 第 8 条 (特 別 会 員) 特別会員とは、次のものを云う。
1. 前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者、及び現在ある者
  2. その他、総会の決議によって推薦した者
- 第 9 条 (準 会 員) 準会員とは、前 2 条に該当する者以外の者で神戸大学水泳部と行動を共にし、その活動に協力した者の内、本人が入会を希望し、且つ在学会員より推薦のあった者を云う。
- 第 10 条 (在 学 会 員) 在学会員とは、次のものを云う。
- 現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者
- 第 11 条 (会 費) 1. 正会員は、会費として年額 8,000 円を当会へ納入する。但し、卒業後 44 年を経過した者は会費を免除する。

2. 準会員は、会費として正会員の半額を当会へ納入する。

3. 会員相互間で結婚した場合は、夫婦で年額 8,000 円を当会へ納入する。

### 第 3 章 役 員

第 12 条 (役 員) 本会に次の役員を置く。

会 長 1 名

副 会 長 2 名

監 事 若干名

幹 事 長 1 名

本 部 幹 事 若干名

支 部 幹 事 若干名

運 営 委 員 若干名

第 13 条 (改 選) 役員の変更は、総会の決議によって行なう。

第 14 条 (任 期) 役員任期は 1 年とし、再選を妨げない。

第 15 条 (会 長) 会長は本会を代表し、且つ統轄する。

第 16 条 (副 会 長) 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第 17 条 (監 事) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。

第 18 条 (幹事長及び本部幹事) 幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し、総括的会務の執行に当たる。

第 19 条 (支 部 幹 事) 支部幹事は、各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第 20 条 (運 営 委 員) 運営委員は会の円滑な運営を行う為に会費の徴収の促進をはかる。

### 第 4 章 総 会

第 21 条 (招 集) 総会は、少なくとも 2 週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長がこれを招集する。

第 22 条 (時 期) 総会は、毎年 5 月に開催するものとし、臨時総会は、必要に応じて招集する。

第 23 条 (議 長) 総会の議長は、会長がこれに当たる。

第 24 条 (議 決) 総会の決議は、出席正会員の過半数を以って決する。但し、当該議事につき書面を以ってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

## 第5章 会 計

- 第25条（経 理） 本会の経理は、会費・寄付金及びその他の収入によって賄う。
- 第26条（決 算） 本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告し、その承認を受ける。
- 第27条（期 間） 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

## 第6章 凌泳の送付

- 第28条 本会で会費を3年間滞納した者には「凌泳」の送付を停止する。但し、特別の事情がある者（海外駐在員等）は除くものとする。

## 第7章 雑 則

- 第29条 本会則は、昭和61年5月29日より発効する。

### 付記（退会者の取扱について）

昭和57年度総会において下記のとおり決定した。

文書その他の方法で退会の意思を表明した者は退会を認めることとし、その事実を明確にする為、名簿の最後に退会者欄をもうける。

## 平成4年度 凌泳会役員

(註) アンダーラインは新任

会 長	<u>吉 野 栄</u> (昭15学)	
副 会 長	<u>岡 本 忠 男</u> (昭17学)	<u>田 淵 五 郎</u> (昭30営)
監 事	伊 藤 英 二 (昭13学)	三 宅 林 (昭21学)
幹 事 長	岡 田 重 義 (昭37営)	
幹 事	<u>佐 藤 一 夫</u> (昭30法)	富 岡 道 雄 (昭31営)
	<u>萩 原 武</u> (昭37工)	上 田 剛 弘 (昭56営)
	山 本 隆 (昭57経) 会計担当	
	石 井 義 章 (昭27学) 凌泳編集担当	
支部幹事		
(関東)	支部長	山 口 宗 樹 (昭16学)
	副支部長	<u>田 淵 五 郎</u> (昭30営)
		鈴 木 正 弥 (昭39経) 佐 敷 定 雄 (昭49農)
		興 竹 正 人 (昭59法) 浦 野 敏 明 (昭60営)
(中部)	支部長	井 上 隆 史 (昭37営)
(中国)	支部長	<u>今 井 政 一</u> (昭24専)
(四国)	支部長	中 村 市 治 (昭15学)
(九州)	支部長	印 藤 勝 美 (昭18学)
(関西)	支部長	<u>佐 藤 一 夫</u> (昭30法)
	京都	柳 本 正 雄 (昭37営)
	阪神	橋 本 力 (昭30工) <u>酒 井 正 人</u> (昭53農)
	姫路	山 口 仁 郎 (昭32営)
運営委員	三 宅 林 (昭21学)	石 井 義 章 (昭27学)
	富 岡 道 雄 (昭31営)	岡 田 重 義 (昭37営)

# 物 故 会 員

氏 名	卒業年次(回)	氏 名	卒業年次(回)
(特別会員)		田 川 亮 一	3 22
藤 井 正太郎	水泳部顧問	阪 本 豊 一	3 22
多 田 徳 雄	体育教官 //	作 田 耕 三	3 22
小 川 忠 蔵	教授 水泳部部长	白 井 儀 三	3 22
北 村 五 良 (大6高)	教授 //	松 村 秀 雄	3 22
古 林 喜 楽 (大14高)	教授 //	東 光 武 三	4 23
山 田 幸 男	教授 //	尾 上 長三郎	4 23
田 口 寛 治	教授 水泳部副部长	三 吉 吉 郎	6 25
(正会員)		川 西 武 雄	7 26
小笠原 房 穂	10 15	太 田 清	7 26
白 山 源三郎	10 15	土 肥 駒次郎	昭 7高26
中 村 精 一	10 15	鈴 木 栄三郎	7学 1
天 野 俊 一	10 15	鍵 本 芳 次	8 2
加 納 茂	11 16	熊 野 利 夫	8 2
野 田 曾 一	11 16	小 西 熊 雄	9 3
国 本 幸 一	12 17	糸 川 義 男	10 4
榊 原 零 一	12 17	本 間 孝之助	10 4
山 村 馨 (愈兆兼)	12 17	片 山 四 郎	11 5
山 下 虎 蔵	13 18	野 村 弘	11 5
中 村 信 三	13 18	栄 口 昌 二	12 6
溝 口 卓 郎	13 18	村 上 秀 造	13 7
吉 岡 喜 一	13 18	高 橋 徹	13 7
鈴 木 不羈雄	14 19	富 岡 喜一郎	13 7
繁 益 繁治郎	14 19	岡 野 巖 (旧姓)土屋	13 7
高 森 安 夫	14 19	和 泉 真 弘	14 8
三 輪 嘉一郎	15 20	松 木 勇	14 8
高 田 寿 三	15 20	福 永 拓 造	14 8
大 谷 親之輔 (旧姓)井関	昭 2 21	大 内 義 仁	14 8
大 島 勝 利	2 21	新 原 拓 郎	15 9
中 村 毅	2 21	部 坂 克 夫	16 10
浅 野 猛 雄	3 22	恩 地 正 伍	16 10

鈴木啓介	16 10	伊藤一郎	21 16
尾原芳行	16/12 11	斎藤嘉一郎	21 16
井上正平	16 11	鈴木富夫	25学20
柏木慶三	16/12 11	衣川昭	24専 1
稲垣懋	16/12 11	中島功	28経 1
山口八郎	17 12	天野博行	28営 1
池田勲治	18 13	今井彰	30法 3
熊野泰巳	18 13	吉田芳郎 (大曲)	50法 23
前田礼之	19 14		

平成3年度物故者(卒業年次:亡命日)

本間幸之助(昭10:平3.3.2)

溝口卓郎(大13:平3.10.20)

大内義仁(昭14:平3.10.31)

吉田芳郎(旧姓大曲)(昭50:平4.1.24)

物故判明者

松村秀雄(昭3:平1.9.10)

天野博行(昭28:昭59.12)

## 退会者

(本人の希望により退会された方です。氏名の次の数字は卒業年次・回生・退会年次を示す。)

吉田隆喜	昭16・学11・昭58
稲木俊男	昭17・学12・昭57
岩永威	昭23・学18・昭57
小平喜一郎	昭26・学21昭57
石尾嘉嗣	昭24・専1・昭57
渋谷俊昭	昭30・B3・平2
山口尚彦	昭40・T13・昭59
天野孝司	昭51・A24・昭57
松本克江	昭55・P28・昭61
松本幸恵 旧(友近)	昭58・準会員・昭61



1. 高神彩なす翹をあげて  
 靈杖遙に東を指せば  
 靈しき果実は雲間を漏りて  
 秋津島根に落つとぞ見えし  
 所はここぞ菊水かおる  
 湊河原の近きほとりに  
 かく伝わりし天のさとしも  
 人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし  
 靈果いかで地に朽つべき  
 豊栄のぼる朝日のかげに  
 八州の外の潮風吹きて  
 いつしか催す氣運に乗じ  
 わが学校ぞ世に生まれたる  
 眠る 商界夢さますべき  
 使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰  
 連り亘る山ぶとくろに  
 数の若鷹はぐくまれ居て  
 静かにうかぶ雲の行きかい  
 朝妙なる琴のひびきは  
 敏馬の浜に松を吹く風  
 夕やさしき舞の姿は  
 茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の  
 寄せてはかえず清き渚や  
 熱誠もゆる夏の盛りを  
 いたわる風の賽合の里  
 須磨や明石をかけて照るらん  
 月には物のあわれをぞ知る  
 冬は凍たる後に嵐  
 奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は  
 偉人傑士を起たしむとかや  
 天の使命を胸に収めて  
 清き自然に抱かれながら  
 筋骨鍛え智徳を研く  
 切磋琢磨の三年の春秋  
 養い得たるうつ物の意気  
 抱負を語れや干余のおのこ
6. 金歌無欠の三千余年  
 かがやく光は剣の脊  
 心はおなじ大和男子の  
 我等は牙幢を執って起ちなん  
 日出ずる旗を高くかさして  
 日入らぬ国と手を携えて  
 目ざす平和の戦の場に  
 匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて  
 野に立出ずる蒼鷹幾羽  
 爪も研ぎぬ力も足りぬ  
 尋にも余るつばさを張れば  
 枝の百鳥皆おそれ伏す  
 扶揺万里の風を起して  
 おのが向々東に西に  
 雲に突き入る勢見るや

商 神

しょうしん あやなす つばさをあげて  
れいじょう はるかにか ひがしをさせば  
くしき このみは くもまをもりて  
あきつーしまねに おつとぞ みえしと  
こーろは ここぞきくすいか おるみ  
なとが わらのち かきほとりに  
かくつたわりしあめのさとしも  
ひとはさとらで いくとせかへぬ

# 宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽

作曲 竹内 平吉

勇壮に元気よく

ま や ろ っ こ う に い だ か れ て  
 み ど り の そ の に は な ふ り か へ る  
 こ こ お か の 一 べ の わ こ う ど が  
 も ゆ る お も い を む ね に ひ め  
 ま な お や ゆ う ひ の と き を き し

三

燃ゆる紅葉たそがれて  
 宵闇せまる山路を踏めば  
 真理に挑む若鷹が  
 ネオンの海を見おろして  
 いよよ決意をかたむ哉

四

身に泌みわたる峯おろし  
 冬来りなば春近し  
 果立つ晴れの日時せまる  
 翼ひろげて悠然と  
 宇宙を股に羽ばたかん

一

摩耶六甲に抱かれて  
 緑の園に花ふりかかる  
 ここ丘の上の若人が  
 燃ゆる思いを胸に秘め  
 学ぶや雄飛の時を期し

二

ヒマラヤ杉を背に受けて  
 茅湾の浦ゆ紀伊の山  
 右手に四国よ淡路島  
 左手にうかがふ金剛山  
 大らかにぞ抱負わく

# 栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 敷島富四雄  
作曲 黒田 浩一  
編曲 土橋 康宏

たて や たて われらがえらばれ  
しせんし ほこのたかき ほまれにかけて た  
だ めさす しゅうりのかむり  
ふるえいざ ふるえ ちからのかぎり かがやかんえい  
こりはつねにわれらに  
こりべこりべこりべ われらがこりべだいがくゆけ

一、 起てや起て  
われらが選ばれし戦士  
母校の高き誓にかけて  
ただ目指す勝利の栄冠  
振るえいざ振るえ力の限り  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

二、 征けや征け  
われらが選ばれし戦士  
若人の大い誇を秘めて  
胸深く制覇の誓  
振るえいざ振るえ雄々しく強く  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

三、 開けや開け  
われらが選ばれし戦士  
青春の若き血潮たぎらせ  
相和するちどきの歌  
振るえいざ振るえ意気いや高く  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

# 水 泳 部 歌

作詩 古林 喜楽

作曲 山田 貴彦



1. ま やろっ ころに いだ かれて ここむこが おかの  
 2. フ リー ブレ スト バタ フライ バ ッ ク リレ ー に  
 3. あ あ な つ かし の すい えい ぶ ろっ ころ だいの -



み ず きよ し ちぬの うら わ を みおろして しぶ  
 ボロ ま だ も ゑう えいけんじの いき た かし いざ  
 ブールベに つきみのえんで - およぎやめくる



き(しぶき) をあー げ る け ん だー ん じ  
 や(いざや) - きそ わ ん う で をー ぶ し  
 な(くるな) つまっ - て い き りー た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し  
 茅渚の浦曲を見下して  
 しぶきをあげる健男子

二、フリープレスト バタフライ

バックリレーにボロまでも  
 凌泳健児の意気高し  
 いざや饒わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のプール辺に  
 月見の宴で泳ぎ止め  
 来る夏待っていきり立つ

